科目名	キャリア教育(1)	必修 選択	必修	年次	1	坦	西片 悠人
		授業	講義	総時間	30	担当教員	四万 芯入
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ワークショップやグループワークを行うことでクラン 主体的に行動できる人材育成を目指す。	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた力」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に2		課題発見カリ	「計画力」「想	象力」「傾聴力)」「発信力」「 ⁻	チームワーク
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」を 作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出		
2		講義	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出		
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明 し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出		
4		講義	「傾聴力」:人の話を聞くことの重要性を知り、 相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出		
5		講義	「発信力」:伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出		
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での言葉遣いや マナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見 し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出		
9		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分の 特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出		
10		講義	「計画力」:計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
11		演習	「実行力」: 目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
12		講義	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや 「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習] 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育(2)	必修 選択	必修	年次	1	切业数昌	西片 悠人
wei +-/		授業形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	四万 怂入
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っ 人間教育を行う。	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 1年次後期では滋慶学園グループが必修で行っている「コミュニケーションスキルアップ検定」の問題内容を基に 人間教育を行う。 また、キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた「チームワークカ」を理解する。「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的にコミュニケーションスキルアップ検定の合格。		課題発見力」「	「計画力」「想	象力」「傾聴力	〕」「発信力」	
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中 での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワークカ」: 現状況と役割を理解して 協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠け力」:自分から進んで取り組む力、チームワークカと 共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグルー プワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自 らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解 を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の 長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う 特別講義の実施(基本的対話スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に 伴う特別講義の実施(自己表現スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う 特別講義の実施(社会的スキルについて)	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	コミュニケーションスキルアップ検定受験に伴う 特別講義の実施(サービスマインドについて)	配布プリントを記入し次回提出
13		試験	コミュニケーションスキルアップ検定試験の受験	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	¹ 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り	組む。次回の授業時に確認。

科目名	キャリア教育(3)	必修 選択	必修	年次	2	切业数昌	西片 悠人
W = 1 -1		授業形態			30	担ヨ教貝	四万 怂入
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	心思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ワークショップやグループワークを行うことでクラン 主体的に行動できる人材育成を目指す。	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた「チームワークカ」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に		課題発見カ」「	計画力」「想	象力」「傾聴力	〕」「発信力」	
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		演習	クラスのノームの意識付を行い「学生生活の基盤」 を作る、クラス目標の作成を行う	配布プリントを記入し次回提出		
2		講義	「主体性」: 状況を読みとり自分のすべきことを 見つけて行動することが出来るようになる	配布プリントを記入し次回提出		
3		演習	起こり得る学校行事においての学生の状況やモチベーションを説明 し、計画的に主体的行動がとれるよう考えさせる	配布プリントを記入し次回提出		
4		講義	「傾聴力」:人の話を聞くことの重要性を知り、 相手との信頼関係を作ることから仕事とは何かを知る	配布プリントを記入し次回提出		
5		講義	「発信力」:伝える内容をわかりやすく伝える力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
6		演習	「傾聴力」「発信力」をワークショップ形式で実践 させ講義で覚えるだけでなく行動出来るようにする	配布プリントを記入し次回提出		
7		講義	イベントスタッフとしてで活動する上での 言葉遣いやマナーを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
8		講義	学園祭やイベントを通じて自分自身の課題を発見 し、解決していく力を養う	配布プリントを記入し次回提出		
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の方を お招きし、職種や働き方を学ぶ	本日の感想をレポートにて提出		
10		講義	「計画力」:計画的に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
11		演習	「実行カ」: 目標を設定して着実に行動する力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
12		講義	「課題発見力」: 今の状況から課題を見つける力を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出		
13		講義	夏休みに入るにあたり現場での態度・マナーや「明日への扉」について説明しやる気や成長に繋げる	配布プリントを記入し次回提出		
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	¹ 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。			

個人作成プリント・日常スコアシート・学生サポートハンドブック

科目名	キャリア教育(4)	必修 選択	必修	年次	2	切业数昌	西片 悠人
**************************************	*** = 6	授業形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	四万 念入
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	11218		(平位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ワークショップやグループワークを行うことでクラン 主体的に行動できる人材育成を目指す。	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基に社会に出た後に「職業人」として成立するための人間教育を行う。 ワークショップやグループワークを行うことでクラスの意識付けを行い、「社会(クラス)」のなかの役割のなかで 主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を行う。					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた「チームワークカ」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に		課題発見カ」「	計画力」「想	象力」「傾聴力	〕」「発信力」	
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	合同企業説明会を前にして仕事という理解を深めると共に社会の中での自分の役割とは何かを考える	配布プリントを記入し次回提出
2		演習	「チームワークカ」: 現状況と役割を理解して協力し合う大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
3		演習	「働き欠けカ」: 自分から進んで取り組むカ、チームワークカと共に必要であることを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
4		演習	「創造力」:新しい価値を生み出す力をグルー プワークショップ方式で学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
5		講義	ジョブカードを用い、職業理解を深める	就職活動に挑戦したい企業一覧を記入し提出
6		演習	【履歴書の書き方】これまで取り組んできた学内イベントを整理し、自らの経験を伝えられるようになる	学校指定履歴書の学歴欄を記入し提出
7		演習	【履歴書の書き方】自分について伝えられるようになるため自己理解 を深め客観視出来るようになる	学校指定履歴書の右欄を記入し提出
8		演習	【履歴書の書き方】ジョブカード作成内、自分の長所・短所が伝えられるようになる	授業に引き続きジョブカードの作成を行う
9		講義	エンターテイメント業界で活躍している企業の 方をお招きし、職種や働き方を学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
10		講義	日常スコアシートを用い、仕事の上での自分 の特性を知り自己理解を深める	配布プリントを記入し次回提出
11		講義	SMBCファイナンスの方をお招きし、マネー講座を開催、社会人になった時に掛かるお金について学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
12		講義	社会に出る際のビジネスマナー・身なり・挨拶 の大切さを学ぶ	配布プリントを記入し次回提出
13		講義	社会に出る際のビジネスマナー・メールのやり 取り・座席位置	本日の試験で出来なかった部分を各自復習
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習] 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り	組む。次回の授業時に確認。

科目名	キャリア教育(5)	必修 選択	必修	年次	3	切业数昌	西片 悠人
wei +-/		授業形態			30	担ヨ教貝	四万 怂入
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基にネワークショップやグループワークを行うことでクラニ主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を	スの意識付け					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた「チームワークカ」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に		課題発見力」「	⋾計画力」「想	象力」「傾聴力	〕」「発信力」	
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業			
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。			
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。			
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業			
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。			
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。			
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業			
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。			
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	引 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。				

科目名	キャリア教育(6)	必修 選択	必修	年次	3	切业数昌	西片 悠人
		授業形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	四万 怂入
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	滋慶学園が提示するキャリア教育マップを基にネワークショップやグループワークを行うことでクラニ主体的に行動できる人材育成を目指す。 キャリアセンターと共に就職活動における教育を	スの意識付け					
到達目標	社会人基礎力(主要である「主体性」「働きかけた「チームワークカ」を理解する。 「社会(クラス)」のなかで役割を見つけ主体的に		課題発見力」「	⋾計画力」「想	象力」「傾聴力	〕」「発信力」	
評価方法と 基準	筆記又は、実技テストによる採点□						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	新社会人の心得ワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
2		演習	ハートビーイングワーク	七つの習慣の実践作業			
3		演習	10年後の目標の立て方	キューブについて研究しレポートをまとめる。			
4		演習	5年後の目標の立て方	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
5		演習	3年後の目標の立て方	セルフプレゼンテーション自主確認。			
6		演習	自分の世界観をまとめていく方法	七つの習慣の実践作業			
7		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	キューブについて研究しレポートをまとめる。			
8		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。			
9		演習	パズルワーク	七つの習慣の実践作業			
10		演習	自分の世界観をまとめていく方法	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
11		演習	キューブを使ってのコミュニケーションワーク	新社会人の心得を使用し復讐を行う。			
12		演習	アンケート形式、プレゼンテーション	セルフプレゼンテーション自主確認。			
13		演習	ハートビーイングワーク	セルフプレゼンテーション自主確認。			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	引 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り	組む。次回の授業時に確認。			

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	北澤由佳
완지 보 다	호호트 5 John Startus CRI	授業 形態	授業 講義		60	世ヨ教貝	北澤田 庄
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	112:65		(単位)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっか	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲	3作曲や楽曲7	アレンジができ	るようになる。	,		
評価方法と基準	筆記による採点100%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。 音名を理解し言える。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成五線に書かれた音符の 音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
2		講義	音名、音符、休符を理解し言える。音符、休符 を理解し説明できる。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
3		講義	拍子、複合拍子を理解し説明できる。記譜法、 臨時記号を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイにつ いて復習しレポート作成
4		講義	反復記号を理解し説明できる。音程を理解し説 明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成、反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
5		講義	音程を理解し説明できる。音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作成、音程(2.3.6.7度、# b あり)を復習しレポート作成
6		講義	メイジャースケールを理解し説明できる。	メイジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成、5度圏を用い、調号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
7		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成、ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
8		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。中間テスト	総復習をし、理解度を高めレポート作成
9		講義	奏法を理解しその説明ができる。近親調を理解 しその説明ができる	省略記号、奏法記号、装飾記号を復習しレポート作成、それぞれの調の関係性 を理解し復習しレポート作成
10		講義	移調を理解しその説明ができる、トライアドを理 解しその説明ができる	五線を用いて移調を理解し復習しレポート作成、コードの概念とトライアドの構造 をを理解し復習しレポート作成
11		講義	7thコードを理解しその説明ができる、7thコードの復習とdim7を理解しその説明ができる	トライアドの知識を踏まえ、7thコードに発展させることが出来るようにしを理解し 復習しレポート作成、トライアド、7thコード、dimコードの構造をを理解し復習しレポート作成
12		講義	転回形を理解しその説明ができる、その他の コードを理解しその説明ができる	転回形の表記方法を復習し、G-olefでの簡単なヴォイシングが出来るようを理解し復習、add9、sus4、6thコードを復習し実際に弾いてを理解し復習しレポート作成
13		講義	テンションを理解しその説明ができる	9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート9th、11th、13thのテンションコードをを理解し復習しレポート作成
14		講義	スコアリーディングを理解しその説明ができる、 まとめ、期末予備テスト	総復習をし、を理解し復習しレポート作成、復 習、テスト対策を行い期末テストに備える
15		講義	期末テスト、総復習	復習、テスト対策を行い期末テストに備える
	準備学習	冒 時間外学習	前回までの内容をワークを使	って復習、次の内容に備える

ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部

科目名	Music Theory (1)	必修 選択	選択 選択 授業 共		1	担当教員	北澤由佳
#4 ±+	호호= 5 / S. M. S. C. M. 모면하	授業 形態			30	担当教員	46/辛田庄
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルル		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっか						
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲	3作曲や楽曲7	アレンジができ	うるようになる。	,		
評価方法と基準	筆記による採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	楽譜の歴史、五線譜、クレフを理解し説明できる。	五線譜の各部名称とクレフ、音名を復習しレポート作成
2		講義	音名を理解し言える。	五線に書かれた音符の音名と鍵盤の位置が一致出来るように復習復習しレポート作成
3		講義	音名、音符、休符を理解し言える。	音名、音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
4		講義	音符、休符を理解し説明できる。	音符、休符の表し方と連符を復習しレポート作成
5		講義	拍子、複合拍子を理解し説明できる。	小節線、単純拍子、複合・混合拍子、タイについて復習しレポート作成
6		講義	記譜法、臨時記号を理解し説明できる。	調号と臨時記号の区別、臨時記号の効力を学び正しい楽譜が書けるよう復習しレポート作成
7		講義	反復記号を理解し説明できる。	反復記号を学び、音源を聴き楽譜を追えるよう復習しレポート作成
8		講義	音程を理解し説明できる。	音程(度数の数え方、全音と半音)を復習しレポート作成
9		講義	音程を理解し説明できる。	音程 (2.3.6.7度、# b あり) を復習しレポート作成
10		講義	音程を理解し説明できる。	音程 (1.4.5.8度、# b あり) を復習しレポート作成
11		講義	メイジャースケールを理解し説明できる。	メイジャースケールの仕組みを復習し、復習しレポート作成
12		講義	メイジャースケールを理解し説明できる。	5度圏を用い、誤号を用いてスケールを書けるようにし、実際に歌ったり楽器で復習しレポート作成
13		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	調号を用いてナチュラルマイナースケールを復習しレポート作成
14		講義	マイナースケールを理解し説明できる。	ハーモニックマイナー、メロディックマイナースケールを復習しレポート作成
15		講義	期末テスト	テスト学習し、レポート作成
準備学習 時間外学習 前			前回までの内容をワークを使	って復習、次の内容に備える

科目名	Ear Training(1)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担ヨ教員	北/辛田庄 1
教員の略歴	日本ノングラン 「竹○十冊」 空間間				74-12		
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリス現場で即戦力となる人材を育成する。	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピカ	ができるように	なる。				
評価方法と基準	筆記による採点100%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り 方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分体符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3 線紙を使って音の高低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分休符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
9		講義	8分休符(裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
10		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
11		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
12		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポートにまとめる。
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。
14		講義	期末テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
	準備学習	冒 時間外学習	前回の内容のリズム打ちや	視唱を復習して次回に備える

「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	Ear Training(1)	必修 選択		年次	1	担当教員	北澤由佳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	北洋田庄
教員の略歴					•		
授業の学習 内容		音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、 現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピ	ができるように	なる。				
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を	2分割し、60点	『以上を合格と	: する。			

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音の歴史、モールス信号、周波数、効果音について知る リズム打ち・書き取り 方について知る 音の高低の判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように理解しレポートにまとめる。
2		講義	4分音符、4分体符のリズム打ち 3拍子と4拍子のビート感覚を養う 2線紙を 使って音の高低判定 2度音程を歌い音程感を身に付けを理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
3		講義	8分音符のリズム打ちと5線紙を使ってリズムの書き取り 3線紙を使って音の高 低判定を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
4		講義	4分音符、4分体符、8分音符のリズム打ち、リズムの書き取り、5線紙を使ってメ ロディーの書き取り を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書き取り、音程を復習し理解し レポートにまとめる。
5		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
6		講義	16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、休符の多いメロディーの書き取り 新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
7		講義	前回までの内容を復習すを理解し説明できる	今までの内容を復習し次回の授業に備える
8		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符のリズム打ち、リズム書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
9		講義	8分休符 (裏打ち)のリズム打ち、書き取り、メロディーの書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
10		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メ ロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
11		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱 を理解し説明できる	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習し理解しレポート にまとめる。
12		講義	4分音符、4分体符、8分音符、16分音符、8分体符のリズム打ち・書き取り、メロディー書き取り、新曲視唱、Major,minorのコード判定を理解し説明できる	
13		講義	中間予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習すし理解しレポートにまとめる。
14		講義	中間テスト	テスト準備対策をする
15		講義	テスト返却、総復習	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習し理解しレポートにまとめる。
	準備学習	。 時間外学習	前回の内容のリズム打ちや	視唱を復習して次回に備える
学備子首 時间外子首 削回の内谷のリスム打らや税帽を復首して次回に備える 【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	Music Theory (2)	必修 選択	選択		1	担当教員	北澤由佳
学到 , 東 佐	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4₩/ -	担当教員	北澤田 住
学科·専攻 教員の略歴	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	712 72.		\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-\-	4単位		
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっか	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲	1作曲や楽曲7	アレンジができ	るようになる。	,		
評価方法と基準	筆記による採点100%						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	前期の復習を理解し説明できる。メイジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	MTI&IIの内容を復習し、理解度を高めダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成			
2		講義	きる。ドミナントモーションを理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成			
3		講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるようし理解度を高めマイナーダイ アトニックコードの仕組みを五線譜に書けるように理解度を高める			
4		講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成、前回までのを理解し復習レポート作成			
5		講義	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーファイブ、偽終止についてを理解し復習セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成			
6		講義	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。定番 コードパターンを理解し説明できる。	ターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成			
7		講義	クリシェを理解し説明できる。 パッシングコードを 理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成、パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成			
8		講義	代理コード(裏コードを含むダイアトニック外の代理コード)を 理解し説明できる。借用和音を理解し説明できる。	メイジャー、マイナーのダイアトニックコードの代理コードとダイアトニック外の代理コードを使ってを理解し復習レポート作成			
9		講義	転調を理解し説明できる。アナライズを理解し 説明できる。	転調のパターンを知り、実践を理解し復習楽譜と音 源から楽曲分析を理解し復習レポート作成			
10		講義	ヴォイシングを理解し説明できる。アベイラブルノート スケール(メイジャー)を理解し説明できる。	ケーデンスを実際に5線に書けるようにするを理解し復習コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成			
11		講義	アベイラブルノートスケール(マイナー)を理解し説明できる。ドミナントスケールを理解し説明できる。	コードスケールを使ってフレーズを作ってを理解し復習 V 7に適したスケールを 使ってフレーズを作ってを理解し復習レポート作成			
12		講義	コードに適したスケールを理解し説明できる。その他のスケールを理解し説明できる。	それぞれのコードに適したスケールを使ってフレーズを作って理解し復習前回までに学んだスケール以外のスケールを使ってアレンジし理解し復習レポート作成			
13		講義	スコアリーディングを理解し説明できる。	復習をしを理解し復習今までの内容を復習し理解度を高める 期末テストを理解し復習レポート作成			
14		講義	期末テスト	復習、テスト対策をし期末テストを振り返る。			
15		講義	テスト返却と総復習	実際に楽譜を読み、自分なりに分析し、表現に繋げる応用力を身に付けレポート作成する。			
	って復習、次の内容に備える						

ゼロから始める音楽理論」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部

科目名	Music Theory (2)	必修 選択 - ^{選択必修}		年次	1	担当教員	北澤由佳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教貝	北 英田庄
教員の略歴	日本ノングログ 「竹○十冊」 空間間				2412		
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっか	音楽業界でステップアップしていく為には、楽曲の分析やオリジナル曲作曲、アレンジの能力が必要となる。 本講義では音楽理論の基礎から応用までをしっかりと理解し、実際に表現に繋げていけるよう学んで行く。					
到達目標	楽曲分析ができるようになり、実際にオリジナル曲	1作曲や楽曲7	アレンジができ	きるようになる。	,		
評価方法と基準	筆記による採点100%						

授業計画・内容						
日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
	講義	前期の復習を理解し説明できる。	MT I & II の内容を復習し、理解度を高めレポート作成			
	講義	メイジャーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードのコードネーム、ディグリーネームを復習し、理解度を高めレポート作成			
	講義	メイジャーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	各機能の意味を理解し、主要和音(スリーコード)と代理和音を復習理解度を高めレポート作成			
	講義	ドミナントモーションを理解し説明できる。	ドミナントモーションを復習し、響きを聴いて理解度を高めレポート作成			
	講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	ダイアトニックコードの仕組み(ナチュラルマイナー)を五綾譜に書けるようし理解度を高めレポート作成			
	講義	マイナーダイアトニックコードを理解し説明できる。	マイナーダイアトニックコードの仕組みを五線譜に書けるように理解度を高めレポート作成			
	講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	マイナーコードが持つ機能を理解し復習レポート作成			
	講義	マイナーダイアトニックコードの機能を理解し説明できる。	前回までのを理解し復習レポート作成			
	講義	ケーデンスを理解し説明できる。	終止形、ドミナントモーション、トゥーファイブ、偽終止についてを理解し復習レポート作成			
	講義	ケーデンスを理解し説明できる。	セカンダリードミナントについてを理解し復習レポート作成			
	講義	代理コード(裏コード)を理解し説明できる。	V7の代理コードを理解し、V7と代理コードを弾き比べてを理解し復習レポート作成			
	講義	定番コードパターンを理解し説明できる。	コードパターンを使って曲を作ってを理解し復習レポート作成			
	講義	クリシェを理解し説明できる。	クリシェの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成			
	講義	パッシングコードを理解し説明できる。	パッシングの手法を使ってアレンジしてを理解し復習レポート作成			
	講義	期末テスト	これまでの確認			
準備学習	冒 時間外学習	前回までの内容をワークを使	って復習、次の内容に備える			
		講義講義講義講義講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講講	日程 授業形態 学習内容			

科目名	Ear Training(2)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	北澤由佳
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	担ヨ教貝	11.净田压
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を 本講義では、実際に楽曲を聴き、聴こえる音やリス 現場で即戦力となる人材を育成する。					なる。	
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピカ	ができるように	なる。				
評価方法と基準	筆記による採点100%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	既習リズムを使ったリズム打ち・書き取り、6/8拍子のリズム打ち、メロディー書き取り(CMajor)、2声メロディー、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム書き取りを正確に叩けるように確認理解しレポート作成
2		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor、2声ハーモニー)、3度音程のハーモニー練習、音程ドリルを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復習する確認理解しレポート作成
3		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って)、メロディー書き取り(Cminor)、3度音程の2 声ハーモニー書き取り、音程ドリル コード I、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明が できる。	配布された授業プリントのリズム打ちや書き取りを復 習確認理解しレポート作成
4		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor, 2声メロディー) P4.P5.トライトーンのハーモニー練習 コード I、Ⅳ、Ⅴの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちやメロディー書 き取り、音程を復習確認理解しレポート作成
5		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(16分音符導入、Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I 、 IV 、 V の聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音 程を復習確認理解しレポート作成
6		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コードI、IV、Vの聴き取りを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
7		講義	リズム打ち・書き取り(C,Gを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I、IV、V の聴き取りを理解し説明ができる。	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解し レポート作成
8		講義	リズム打ち・書き取り(C,G.Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I 、 IV 、 V の聴き取り、 IV (IIm) $-V$ $-I$ の聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
9		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(Aminor、2 声メロディー) 6度音程のハーモニー練習 コード $\mathbb{IV}(\mathbb{II}\mathbb{m}) - \mathbb{V} - \mathbb{I}$ の聴き分け を理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
10		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C.G.Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード $\mathbb{N}(\mathbb{I}\mathbb{m}) - \mathbb{V} - \mathbb{I}\mathcal{O}$ 聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
11		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2 声メロディー) オクターブとユニゾンのハーモニー練習 コードⅣ(Im)ーVー Iの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
12		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード $\mathbb{N}(\mathbb{I}\mathbb{m}) - \mathbb{V} - \mathbb{I}\mathcal{O}$ 聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱、音程を復習確認理解しレポート作成
13		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード $\mathbb{N}(\mathbb{I}\mathbb{m}) - \mathbb{V} - \mathbb{I}\mathcal{O}$ 聴き分けを理解し説明ができる。	程を復習確認理解しレポート作成
14		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(FMajor、2声メロディー、2声ハーモニー) コード $\mathbb{N}(\mathbb{I}\mathbb{m})-\mathbb{V}-\mathbb{I}O$ 聴き分けを理解し説明ができる。	総復習を行い中間テストに備え確認理解しレポート 作成
15		講義	中間テスト	総復習を確認理解しレポート作成
	準備学習	冒 時間外学習	前回の内容のリズム打ちや	視唱を復習して次回に備える

「イヤートレーニング」喜多弘悦(著) 滋慶教育科学研究所(監修) 株式会社国際教育センターCOM音楽出版(発行) 株式会社滋慶教育事業部(発売)

科目名	Ear Training(2)	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	北澤由佳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教員	北澤田庄
教員の略歴							:
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を 楽曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピカ	ができるように	なる。				
評価方法と基準	出席点100点満点と期末試験100点満点の合計を	2分割し、60点	『以上を合格と	: する。			

	授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C.G.Fを使って) メロディー書き取り(GMajor、2 声メロディーは三連符導入、2声ハーモニーは2度音程導入)を理解し説明ができ る。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
2		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C.G.Fを使って) メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード $\mathbb{IV}(\mathbb{Im}) - \mathbb{V} - \mathbb{Im}$ の聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
3		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディ―書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードⅣ(IIm)ーVー I の聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
4		講義	明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
5		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディー書き取り(GMajor、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードVImを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
6		講義	曲を題材にしたリズム打ち、リズム書き取り、メロディー書き取り メロディー書き取り(6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コードVImを含む聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
7		講義	前回までの内容を復習する	今までの内容を復習し次回の授業に備え確認理解しレポート作成		
8		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C.G.Fを使って) メロディー書き取り (Key.C.G.F.Am.Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I、II m、Ⅳ、V、Vimの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
9		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディ―書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I、Ⅱ m、Ⅳ、V、VImの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
10		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って) メロディ―書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード Ⅰ、Ⅱ m、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵmの聴き分けを理解し説明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
11		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I、Ⅱ m、Ⅳ、V、VImの聴き分け	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
12		講義	リズム打ち・書き取り(タイ付き、C,G,Fを使って)、メロディー書き取り (Key:C,G,F,Am,Cm、6/8拍子、2声メロディー、2声ハーモニー) コード I、II m、IV、V、VImの聴き分けを理解し脱明ができる。	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
13		講義	期末予備テスト	配布された授業プリントのリズム打ちや新曲視唱を復習確認理解しレポート作成		
14		講義	期末テスト	総復習を行い中間テストに備える確認理解しレポート作成		
15		講義	テスト返却、総復習	聴こえる音やリズムを正しく楽譜に書き、コードの響きや種類を聴き分けられる		
	準備学習	冒 時間外学習	前回の内容のリズム打ちや	視唱を復習して次回に備える		

科目名	Basic Keyboard(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穣
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	飛竹 俵
教員の略歴	DAY 7 7 F P P P P P P P P P P P P P P P P P		<u>!</u>		2-1-12		
授業の学習 内容	キーボードによる基礎的な奏法の習得、バッキング能力の 時における音楽理論やコードの知識において学生それぞれ	向上を目指す。 れの目的に合わ	. 受講者のこれ。 せたアドバイス	までの楽器経験 を行う。	やその習熟度	は様々であるた	め、POPSの範
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バッキングや	簡単な楽曲アレ	ノンジができるよ	うになる。			
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

□数 日程 授業形態 学習内容 準備学習 時間:				
1	小学習(学習課題)			
講義・演習	8 00 □			
1	ードについて知る口			
1	本形と垣根のないものとして			
10 講義・演習	上での違いを知る□			
6 講義・演習 ハッキングパターン2口 手、を手のコンピネーションが多様化す 7 講義・演習 中間発表 ここまでの成果を実際に多の成果を実際に多いです。 8 講義・演習 バッキングパターン2、四和音について知る口 パッキングパターンの練習を開題の表す。 9 講義・演習 バッキングパターン2、パラディドルリズム口 課題で用いられている多格譜面を用いて理論的かつ 10 講義・演習 バッキングパターン2、様々なコード進行口 パッキングパターンの練習を、四和音を無度に差があるため、初心者へのフォロースターリズム譜の読みり、初に取り掛かる 11 講義・演習 練習課題曲2口 ここまで学んだパターンを 12 講義・演習 練習課題曲2口 ここまで学んだパターンを				
8 講義・演習 バッキングパターン2、四和音について知る口 バッキングパターンの練習 四和音の構成音と鍵盤で 四和音の構成音と鍵盤で 課題で用いられている多种 譜面を用いて理論的かつ は 講義・演習 バッキングパターン2、様々なコード進行口 パッキングパターンの練習を、四和音を 熟度に差があるため、初心者へのフォロ マスターリズム譜の読み7 折に取り掛かる は 講義・演習 練習課題曲2口 ここまで学んだパターンを				
8 講義・演習 バッキングパターン2、四和音について知る口 四和音の構成音と鍵盤で 9 講義・演習 バッキングパターン2、パラディドルリズムロ 課題で用いられている多れ	表して今後に活かす			
9 講義・演習 ハッキングパターン2、ハラティトルリズム口 譜面を用いて理論的かつ 10 講義・演習 バッキングパターン2、様々なコード進行口 パッキングパターンの練習を、四和音を 熟度に差があるため、初心者へのフォロ 11 講義・演習 練習課題曲2口 マスターリズム譜の読み が 折に取り掛かる 12 講義・演習 練習課題曲2口 ここまで学んだパターンを				
11				
12 講義・演習 練習課題曲2口 析に取り掛かる ここまで学んだパターンを	含んだ様々なコード進行を用いて行う 一を重点的に行う			
	がを知る。課題曲のコード			
13 講義・演習 中間発表 ここまでの成果を実際に多	用いて練習する口			
m the latter of	表して今後に活かす			
14 講義・演習 イベント・実践を通して学ぶ レポート提出				
15 講義・演習 イベント・実践を通して学ぶ レポート提出				
授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出しておき、 機会を見て質問してください。				
【使用教科書·教材·参考書】				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Basic Keyboard(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	熊谷 穣
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	無合 俵
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルク心と		(単位)	2単位		
教員の略歴							
		rーボードによる基礎的な奏法の習得、バッキング能力の向上を目指す。受講者のこれまでの楽器経験やその習熟度は様々であるため、POPSの範 情における音楽理論やコードの知識において学生それぞれの目的に合わせたアドバイスを行う。				か、POPSの範	
到達目標	マスターリズム譜を読み、各々でキーボード・バッキングや「	簡単な楽曲アレ	ンジができるよ	うになる。			
評価方法と基準	平時の出席、取り組み、課題提出の状況と内容による						

			授業計画•内容		
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義∙演習	練習課題曲1、オンコードロ	オンコードについて理解し、 演奏できるようになるロ	
2		講義∙演習	練習課題曲1、特殊なコードロ	特殊なコード(dim,aug,sus4など)を理解する口	
3		講義∙演習	練習課題曲1、イントロ、リフを演奏する口	コードバッキングに加え、 楽曲中で必要なフレーズを演奏する口	
4		講義∙演習	練習課題曲2、打鍵について口	弾き語りすることを見据え、 打鍵の強さによって変化する音を感じとる口	
5		講義∙演習	練習課題曲2、演奏フォームについて□	脱力や姿勢、椅子への座り方を含めた 演奏フォームの見直しを 簡単な実験を通じて行う。	
6		講義∙演習	練習課題曲3□	譜読みを行う名曲のコード進行を学ぶ□	
7		講義∙演習	中間発表	ここまでの成果を実際に発表して今後に活かす	
8		講義∙演習	練習課題曲3、ボイシングでの表現口	ボイシングの変化によって変わるバッキングの響きを感じとる口	
9		講義∙演習	練習課題曲4、ディグリーコードを用いた移調口	自身で弾き語りすることを見据え、 マスターリズム譜から移調する方法を知る口	
10		講義∙演習	練習課題曲4、コードアレンジの方法口	循環コードを用いた課題曲を題材に 簡単なコードアレンジの方法を学ぶ	
11		講義・演習	練習課題曲4、セカンダリードミナントロ	セカンダリードミナントや代理コードを 耳で聞いて違いがわかるようになる口	
12		講義∙演習	マスターリズム譜の作り方	既存の歌詞とコード程度の譜面から マスターリズム譜面を作成する方法を学ぶ。 直接的にキーボードとの関連はないが、 音楽活動の上で大変重要なため触れることにする。	
13		講義∙演習	試験と復習口	学んだスキルを生かして実演する今後に向けた課題を洗し出す口	
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義・演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
	選備学習 時間外学習 授業と練習の中で疑問点や、自身で苦手とする点を洗い出しておき、 機会を見て質問してください。				

東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	Digital Foundation(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	中田	
		授業	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	増田	祐生
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位			
教員の略歴								
授業の学習 内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。							
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタ Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(I Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(^ STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(w	レタッチ中心) ヾジェ曲線操作	■、デザイン中	心)	o			
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点							

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義∙演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法			
2		講義∙演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイムテーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作方			
3		講義∙演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作(ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡縮、新規作成、保存)[Ai]図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールパー、 パレットなど基本操作方法			
4		講義∙演習	【Al]基本操作 選択、図形、パウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレ クト選択シール、スタイライズ、バスファインダ、整列、テキスト入力、グルーブ化、ベジェ曲線、 スウォッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】AIを使用して作れるものの紹介、操作方法			
5		講義∙演習	[Ps]レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法			
6		講義∙演習	[Ai]配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。(コンセプト〜ラフ作成・色理解〜提案〜レイアウトデザイン〜ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベントフライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。			
7		講義∙演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習:イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。			
8		講義∙演習	[Ps]【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン〜ブラッシュ アップ)よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入れてきるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF			
9		講義∙演習	[Ps][Ai]オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINEグ リエーターズマーケットへ登録する。			
10		講義∙演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商用 利用できるものの検索方法とDL方法			
11		講義∙演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういう点がポイントになるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。			
12		講義∙演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レタッチ、保存形式指定など下準備を整える。			
13		講義∙演習	ポートフォリオ サイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	B 時間外学習	定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、	CDのデザインなどを見て、自分の好みをよく考える			

Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション

科目名	Digital Foundation(2)	必修 選択		年次	1	担当教員	中田 羽	
	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教貝	増田	祐生
教員の略歴	自来アクノログー件3中制 昼间即一	71-70-		\	2年11			
授業の学習 内容	写真やビデオ等の映像機器及び映像編集ソフトを用いた表現に関する学習を通して、表現力・映像処理能力を高める。							
到達目標	履修者全員が動画制作をできるようになる。 Adobe AfterEffectsの基本操作ができるようになる。(アニメーション作成・エフェクト適用・実写合成中心) Adobe Premiereの基本操作ができるようになる。(カット編集中心) Youtubeに動画投稿し、自身が制作した動画を他社に共有できるようになる。							
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点							

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義·演習	【Ae JAfterEffectsの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、コンポジション作成、平面作成、テキスト入力、図形作成、素材読み込み。最終課題説明。	【事前動画説明】AEを使用して作れるものの紹介、基本操作方法		
2		講義∙演習	[Ae]キーフレームアニメーションの理解。 基本的なパラメータを使用したキーフレームアニメーションの作成、動画書き出し 方法を学ぶ。	【事前動画説明】AEの基本的なパラメータ操作方法、キーフレーム設定方法、動画の書き出し方法		
3		講義·演習	[Ae]トランジションの作成。 キーフレームアニメーションを用いてトランジション映像を作成し、発表をする。	【事前動画説明】トランジションの作成チュートリアル		
4		講義·演習	[Ae]テキストアニメーションを理解し、リリックビデオ制作に役立つ機能を取得する。	【事前動画説明】リリックビデオの紹介、エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法		
5		講義・演習	[Ae]テキストアニメーションを理解し、リリックビアオ制作に役立つ機能を取得する。 エフェクトやテキストアニメーションブリセットを利用し、短いリリックビデオを作成、発表 する。	【事前動画説明】エフェクトやテキストアニメーションプリセットの操作方法の続き		
6		講義∙演習	[Ae]エフェクトを理解し、ダンスピデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、エフェクトの機能を学ぶ。	【事前動画説明】エフェクトを利用した動画の紹介、エフェクトの操作方法		
7		講義·演習	[Ae]エフェクトを理解し、ダンスビデオ制作に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材にエフェクトを適用し、動画を作成、発表する。	【事前動画説明】エフェクトの操作方法の続き		
8		講義∙演習	[Ae]自動トラッキング機能について理解し、実写合成に役立つ機能を取得する。 読み込んだ動画素材と入力したテキストを合成する。	【事前動画説明】自動トラッキングのチュートリアル		
9		講義∙演習	[Pr]Premiereの基本操作理解。 新規プロジェクト作成、シーケンス作成、素材の読み込み、カット編集、字幕入力、色調補正、動 顕書き出し。Youtubel、動画を投稿しいRLを共有する。	【事前動画説明】Premiereを使用して作れるものの紹介、基本操作方法。 Youtubeへの動画投稿方法。		
10		講義∙演習	最終課題選定。リリックビデオ・ダンスビデオ、実写合成から最終課題のジャンル を選択し、映像の構成を考える。 アイデア出し〜終コンテ制作について理解し、完成させる。	【事前動画説明】最終課題の各ジャンルの参考映像を紹介。 アイデア出しの方法、絵コンテの書き方を解説。		
11		講義・演習	個人制作			
12		講義・演習	個人制作			
13		講義·演習	個人制作と最終課題の提出(Youtubeに投稿しリンクを提出する) 到達度テスト	【事前動画説明】後期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説		
14		講義·演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義·演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	冒 時間外学習				
「使用教科書・教材・参考書」 「使用教科書・教材・参考書」						

Mac,Microsoft office,Adobeアプリケーション

科目名	Music History (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西田 剛
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但ヨ教貝	124 대 베기
教員の略歴	TAKA A CANADA THAT THAT						
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の重要な柱であるジャズについて概要(起源から発展)を学びます。 その歴史の中で、ニューオリンズジャズ、スイング、モダンジャズ、フュージョンなどに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	ジャズの進化とともにアメリカの黒人音楽について深い理解を示すことができる。 それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品とジャズを深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)出席数40%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 アメリカの歴史、地理的な特徴を理解する。	レベルチェック: 小テスト アメリカの黒人音楽の進化において重要な都市はどこか?
2		講義	19世紀のアメリカの音楽。	アメリカ音楽の父 スティーブンフォスターStephen Fosterについて
3		講義	ジャズ、ラグタイム、ブルース、その他の音楽や活動のルーツ。	ジャズ発祥の地であるニューオリンズが、歴史上どのような都市であったか? ジャズが生まれた当時には、どんな音楽が存在したか?
4		講義	ニューオリンズジャズ	主となる楽器は?音楽的特徴は? ルイ・アームストロング
5		講義	スウィングとビッグバンドジャズ。	カンサスシティ、シカゴ、ニューヨークから全米に広がったスイングについて サウンド構成、パンドリーダーの特徴、リスナーの様子など考察する。
6		小テスト 講義	ここまでのポイント整理	ニューオリンズジャズ、スイングジャズ、モダンジャズ の違いを言葉で説明できる。
7		講義	ビバップ	第二次大戦後に生まれた新しいスタイルのジャズ「ビバップ」について、スイングとの違い・特徴を考察する。
8		講義	ハードバップ、アフロキューバンジャズ、ウェ ストコーストジャズ	ビバップ以降活躍した音楽家(M.デイヴィス、C.パーカー、D.ガレスピー、C.モンクなど) 主となる楽器、そのアプローチを理解する。
9		講義	モードジャズ、フリージャズ	ビバップからフリージャズに至るジャズの進化 J.コルトレーン
10		講義	ビバップ以降、ジャズとロックの融合。	ビートルズの登場など若者の関心が、ジャズからロックへ以降する中で新しいジャズを 生む出した改革者を知る。 キーワード: クロスオーバー
11		講義	フュージョン、今日のジャズ。	マイルスデイビスの影響力 ハービー・ハンコック、ウエザーリポートなどを考察する。
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	ニューオリンズジャズ〜スイング〜ビバッブ以降〜フュージョンの流れを時代背景や、 それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	日 時間外学習	興味の幅を広げることが何よりも大切。	

科目名	Music History (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	西田 剛
学科•専攻	授業 授業		総時間 (単位)	30 2単位	但当教員		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考えるカ」を育むことであり、アメリカの黒人音楽の発展において重要なコンポーザーと、その功績を学びます。 学習していく中で中で、ジャズ、ブルース、ロック、ファンク、ブラックコンテンポラリー、ポップスの発展を理解するとともに、音楽的な視野を 広めます。						
到達目標	現代のポップスの礎となっているアメリカの黒人音楽を創り上げた偉大な作曲家について深い理解を示すことができる。 それは、現代のポップスを聴いた時の分析力となり、その音楽のルーツがわかるようになる。 そして、自分の作品とルーツとなる音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1)定期テスト80% 2)平常点20%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 スコット・ジョブリン Scott Joplin (1868-1917) The first hit-maker	レベルチェック:小テスト ラグタイムについて
2		講義	デューク・エリントン Duke Ellington (1899-1974) Greatest Composer/Band master	ニューヨークジャズ、ビッグバンドジャズ、ダンス との関連について学ぶ。
3		講義	ルイ・アームストロング Louis Armstrong (1901-1971) Birth of Jazz	ニューオリンズNO.1のトランペッター、歌手としての ルイ・アームストロングについて学習。
4		講義	ロバート・ジョンソン Robert Johnson (1911-1938) Roots of Rock	デルタブルースとは何か?彼がなぜロックの ルーツと呼ばれるのか?学習。
5		講義	チャーリー・パーカー Charlie Parker (1920–1955) Master of Improvisation	ビバップについて、しっかりと復習する。以降の 音楽への影響は何か?考察する。
6		講義	マイルス・デイヴィス Miles Davis (1926-1991) African-American Icon	マイルスがジャズの発展と、どう関わっていたのか? 活動した年代と変化について学習する。
7		講義	ジェイムス・ブラウン James Brown (1933-2006) God father of Soul	ソウルミュージック、ファンクの誕生 人種問題も含め功績を理解する。
8		講義	クインシー・ジョーンズ Quincy Jones (1933-) The Producer	プロデュースの仕事とは何か?クインシーの残した 作品からプロデューサーの仕事を考える。
9		講義	ジミ・ヘンドリックス Jimi Hendrix (1942-1970) Guitar Hero	エレキギターの可能性を最大限引き出した彼の功績 を再考し、未来を探る。
10		講義	スティーヴィー・ワンダー Stevie Wonder (1950-) Magic of Songwriting	音楽神と呼ばれる彼は、一体どのような作曲家なのだろうか? キャリア、代表曲を分析かつ考察してみよう!
11		講義	マイケル・ジャクソン Michael Jackson (1958-2009) King of Pops	その名の通り キングオブポップス 彼を育んだ音楽、彼の作品、さらには現代のポップスへの影響力 を学ぶ。
12		テスト	テスト	
13		講義	振り返り	ニューオリンズジャズ〜スイング〜ビバッブ以降〜フュージョンの流れを時代背景や、 それぞれ主となる楽器、音楽の特徴などを説明できる。
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	。 時間外学習	興味の幅を広げることが何よりも大切。	

科目名	expression A (1) (VT (1))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	潤 豊 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	元 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの	基礎と活用力	7法を習得し実	ミ践できるよう	になる。		
評価方法と基準	実技による採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロ ディーを実践できるロ	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロ ディーを動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画 チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画 チェック
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする
5		演習	歌唱→4分音符のメロディ—C ~Gまでを歌い 実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い 動画チェックする
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上の C までを歌い動画チェックする
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロ ディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディ―C 〜上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C 〜上 のC までを歌い動画チェックする
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC 〜上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C 〜上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための目	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。
【佑田粉利聿·粉材·参考聿】				

科目名	expression A (2) (VT (2))	必修 選択	選択必修	年次	1	担当教員	潤 豊 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
× 7.1 → -L		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	元介 夫帆 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位		作権 はなか
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの)基礎と活用力	7法を習得しま	ミ践できるよう	になる。		
評価方法と基準	実技による採点100%						

			授業計画・内容		
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できるロ	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロ ディーを動画チェック	
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画 チェックする	
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画 チェック	
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする	
5		演習	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い 実践できる。	歌唱→4分音符のメロディ―C ~Gまでを歌い 動画チェックする	
6		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする	
7		演習	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。。	い動画チェックする	
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディ―C ~上のC までを歌い動画チェックする	
9		演習	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロ ディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロ ディーC ~上のC までを歌い動画チェックする	
10		演習	のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C ~上 のC までを歌い動画チェックする	
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C 〜上 のC までを歌い動画チェックする	
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする	
13		演習	試験と復習	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる	
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出	
	準備学習	冒 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自	目習を行いまたチェックする、週4時間をかける。	
【 /击田	【佑田教科書·教材·条孝書】				

科目名	expression C (1) (Diction (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	田原 佑一朗 橋元 美沙
当 到 東北		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	相澤ななみ
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	אורא		(+14)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向。	上、基礎力の対	定着及び、ア-	ーティストとして	この表現力の	向上	
評価方法と基準	実技による採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する
11		演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する
12		演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究 800-1000字以内でレポートを作成する。
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのパリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポートを作成する。
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	正しい英語の発音、リズム、表現力	を養うための繰り返し練習、週4時間
準備学習 時間外学習 正しい英語の発音、リズム、表現力を養うための繰り返し練習、週4時間 【使用教料書・教材・参考書】				

科目名	expression C (2) (Diction (2))	必修 選択	選択	年次	1		田原 佑一朗 國末 慶宏
当 和 - ¬ ¬ ¬		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	橋元 美沙 キム ゴンヒョ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	7772		(44)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向.	上、基礎力の対	定着及び、応り	用力とアーティ	゚ストとしてのヨ	表現力の向上	
評価方法と基準	実技試験100%						

			授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。			
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。			
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。			
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する			
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する			
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する			
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する			
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する			
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する			
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する			
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する			
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究、800-1000字以内でレポート作成。			
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのパリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	3 時間外学習	正しい英語の発音、リズム、表現力	を養うための繰り返し練習、週4時間			
【使用	【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	Inst Ensemble A (1) (Piano Duo (1))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙 相澤 ななみ
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	能谷 穣
教員の略歴	日末アプレログ 140千世 空间品				2年四		
授業の学習 内容		音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講 義ではいくつかのピアノパターンにあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアン	ンサンブル	スキルを習	習得し実践	できる。		
評価方法と基準	実技による採点100%						

	授業計画•内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。				
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。				
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
12		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
13		演習	歌からスタートする音楽を学び実践できる 試験	歌からスタートする音楽を学び実践できる. 1-14をまとめてレポート作成				
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
	準備学習	冒 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間				

科目名	Inst Ensemble A (2) (Piano Duo (2))	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	橋元 美沙 相澤 ななみ
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	能谷穣
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブルカを育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
13		演習	歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる 試験	歌からスタートする音楽を学び実践できる 1-14をまとめてレポート作成
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間

科目名	Vocal reading (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 伶美 荒木 美帆
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	1 担当教員	古木 美優花
教員の略歴			i				i
授業の学習 内容		音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽 曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。					
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピが	できるようにな	₹る。				
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%						

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を 理解し説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復 習レポート作成				
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成				
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成				
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成				
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができ る。	Cメジャートライアードを復習レポート作成				
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成				
7		講義	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成				
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。				
9		講義	F メジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解 し説明ができる。	F メジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解 し説明ができる。				
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成				
11		講義	C マイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2). C 短三和音を理解し説明ができる。 C マイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。	C マイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2). C 短三和音を復習レポート作成 C マイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成				
12		講義	C マイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。 様々な誤、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音程を理察し説明ができる。	C マイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成 様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音響を復習レポート作成				
13		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成				
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
	準備学習	3 時間外学習	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間				

科目名	Vocal reading (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	三浦 伶美 荒木 美帆
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	古木 美優花
教員の略歴		<u> </u>	•				•
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き						は、実際に楽
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピが	できるようにな	₹る。				
評価方法と基準	実技による採点100%						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割を理解し 説明ができる。	拍子記号、4分音符・4分休符、音符と休符の分割復習レポート作成			
2		講義	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(1)。 4分音符、4分休符復習レポート作成			
3		講義	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を理解し説明ができる。	メジャースケール(2)。 4分音符、4分休符、2分音符、2分休符を復習レポート作成			
4		講義	Cメジャースケールに内在する音程を理解し説明ができる。	Cメジャースケールに内在する音程を復習レポート作成			
5		講義	Cメジャートライアードを理解し説明ができる。	Cメジャートライアードを復習レポート作成			
6		講義	Cメジャーペンタトニックスケールを理解し説明ができる。	Cメジャーペンタトニックスケールを復習レポート作成			
7		講義	ベースパート(ベースライン)を理解し説明ができる。	ベースパート(ベースライン)を復習レポート作成			
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題の提出。			
9		講義	F メジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。	F メジャースケール(1) タイとシンコペーションを理解し説明ができる。			
10		講義	3連符(1)を理解し説明ができる。	3連符(1)を復習レポート作成			
11		講義	C マイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2). C 短三和音を理解し説明ができる。 C マイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を理解し説明ができる。	C マイナースケール (旋律的短音階) 3連符(2). C 短三和音を復習レポート作成 C マイナースケール (和声的短音階) 8分の6拍子(6拍子として)を復習レポート作成			
12		講義	C マイナースケール(自然的短音器) 8分の6拍子(2拍子として)を理解し説明ができる。 様々な調、音階、拍子記号の練習。 (種々の)マイナースケール内の音程を理解し説明ができる。	C マイナースケール(自然的短音階) 8分の6拍子(2拍子として)を復習レポート作成 様々な調、音階、拍子記号の練習。(種々の)マイナースケール内の音響を復習レポート作成			
13		講義	期末試験と復習	期末課題に向けて復習レポート作成			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	習 時間外学習	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間			

科目名	ダンス基礎(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
₩11 ±-L	*** * * **	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	个个 雄
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	112:65		(年位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義∙演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義∙演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義∙演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義∙演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義∙演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義∙演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義∙演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義∙演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		る 時間外学習 ************************************		

科目名	ダンス基礎(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	木本 雄
学科·専攻	授業 授業 _{演習}		総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	小 本 唯	
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義∙演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義∙演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義∙演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義∙演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義∙演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義∙演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義∙演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義∙演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義∙演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義∙演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義∙演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義∙演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		る 時間外学習 ************************************		_

科目名	音楽業界知識(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	小海 串一
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教貝	不净 思一
教員の略歴	自未ナクノロン―143年前 を旧印			, , ,,	2年位	<u></u>	
授業の学習 内容	プロの業界人として必要とされる音楽ビジネスのし音楽業界の基本となる権利ビジネスのしくみや制音楽業界にはどのような職種があるのかを知る。 レーベル、プロダクション、イベンター、アーティスト	作のスケジュー	ール感を身に	つける。	ilになる。		
到達目標	レーベル、プロダクション、イベンター、アーティスト 成り立っているのかを把握する。自身が目指す職						
評価方法と基準	試験評価: 出席率、時間外学習での理解度を加味 る。	₹し、90∼100;	点をA、80~90)点をB、70~8	80点をC、70~	~60をD、それ	ル以下をFとす

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	プロになることの心構えと業界の実情を把握する	レポート提出
2		講義	プロになるために大切な音楽の知識の必要性が理解できる	レポート提出
3		講義	音楽業界は権利ビジネスであることが理解できる	レポート提出
4		講義	音楽業界全体の役割分担を理解できる	レポート提出
5		講義	レーベルのしくみを知る①	レポート提出
6		講義	レーベルのしくみを知る②	レポート提出
7		講義	音楽制作の行程、スケジュールを理解する	レポート提出
8		講義	著作権という概念を理解できる	レポート提出
9		講義	印税と音楽著作権使用料を理解できる	レポート提出
10		講義	業界をとりまくメディアの役割を理解できる	レポート提出
11		講義	プロモーションの考え方を理解できる	レポート提出
12		講義	マーケティングというものを理解できる	レポート提出
13		試験	テスト	レポート提出
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Music notation Introduction (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
		授業 形態	演習	総時間	30	担ヨ教員	人貝和和
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマ 脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得		ともに、アレン	ジを構築する	際にDAWで音	を探しながら	行う方法から
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。	管楽器の特性	を理解して2'	管のアレンジ	ができるように	なる。	
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について振り返りと自習。
2		講義・演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習振り返りと自習。
3		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について振り返りと自習。
4		講義・演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習振り返りと自習。
5		講義・演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成振り返りと自習。
6		講義・演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成振り返りと自習。
7		講義・演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について振り返りと自習。
8		講義・演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習振り返りと自習。
9		講義・演習	イントロを作成について	イントロを作成について振り返りと自習。
10		講義・演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について振り返りと自習。
11		講義・演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ振り返りと自習。
12		講義・演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ振り返りと自習。
13		試験	前期のアレンジ課題の提出	レポート提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
		□ 時間外学習		

科目名	Music notation Introduction (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大貫和紀
		授業 形態	講義	総時間	30	担ヨ教員	人貝和和
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容		楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から 脱却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する					
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して	C5管+ストリン	グスのアレン・	ジができるよ う	うになる。		
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。振り返りと自習。
2		講義∙演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ振り返りと自習。
3		講義∙演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
4		講義∙演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築振り返りと自習。
5		講義∙演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
6		講義∙演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
7		講義∙演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。振り返りと自習。
8		講義∙演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート振り返りと自習。
9		講義∙演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing振り返りと自習。
10		講義∙演習	Inner voicing embellisment	Inner voicing embellisment振り返りと自習。
11		講義∙演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1振り返りと自習。
12		講義∙演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2振り返りと自習。
13		試験	後期アレンジ課題提出	レポート提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	ProTools(1) (ProTools Basic(1))	必修 選択	選択	年次	1	- 切	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	八竹茄叶
教員の略歴						<u> </u>	
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	もをマスターす					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法を	を理解し、留ま	ミる事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義·演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義·演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義·演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義·演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義·演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義·演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義·演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義·演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義·演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義·演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義·演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義∙演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習 ************************************		

科目名	ProTools(1) (ProTools Advance (1))	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	八門新世
教員の略歴	DW//// PA MACHINI TININ						
授業の学習 内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的	技術とスピート	゛でオペレーシ	ィョンできるよう	iにする		
到達目標	プリプロ段階からマスタングまでの音楽制作におい	ハてProToolsを	をフル活用し、	プロと同等の	クオリティーで	で仕上げられる	らようにする
評価方法と基準	1)実技判定)60% 2)出席率40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのF	ProToolsセッシ	ィョンのオペレ・	一ションで出羽	そるようにする	,	

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	DAWルームの回線、I/Oを理解する	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
2		講義·演習	Wavファイルから5分でVoダビング出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
3		講義∙演習	複雑なプレイリストでのVoダビング作業を出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
4		講義·演習	Voダビングしながら編集など効率化を行えるようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
5		講義·演習	ダビング終了から10分でコンピング終了出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
6		講義·演習	円滑なVo、Choダビングのオペレーションをする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
7		講義·演習	マルチトラックWavから10分でダビングスタート出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
8		講義·演習	複雑なVoのEDIT作業工程を理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
9		講義·演習	VoのタイミングEDIT(エラスティックを含む)を理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
10		講義·演習	VoのピッチEDIT工程を理解する(AutoTune,Melodyne)	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
11		講義∙演習	VoのピッチEDITが出来るようにする(個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
12		講義·演習	Voのフォルマントを意識した高度なEDITを理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
13		試験	Voをブラッシュアップ完了させる実技テスト	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	ョ 時間外学習		

科目名	ProTools(1) (ProTools 101(1))	必修 選択	選択	年次	1	、切尘数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	授業 形能 講義		30 2単位	世ヨ教貝	人们 新冲
教員の略歴	日末アプノロン―143年前 昼间印			(単位)	2年位		
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法を	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーショ						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義·演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義·演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義·演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義·演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義·演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義·演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義·演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義·演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義·演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義·演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義·演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義∙演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習 ************************************		

科目名	ProTools(2) (ProTools Basic(2))	必修 選択	選択	年次	1	. 切	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態		総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	八竹茄叶
教員の略歴							<u>. </u>
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	もをマスターす					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義と演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の 振り返りと自習
3		講義と演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の 振り返りと自習
4		講義と演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の 振り返りと自習
5		講義と演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の 振り返りと自習
6		講義と演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義と演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義と演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義と演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義と演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義と演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義と演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の 振り返りと自習
13		試験	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	ProTools(2) (ProTools Advance (2))	必修 選択	選択	年次	1	切尘数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	八个)希中
教員の略歴	日本ノングログ 「竹○十冊」 空間間				74-12		
授業の学習 内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的	技術とスピート	・でオペレーシ	ィョンできるよう	うにする		
到達目標	プリプロ段階からマスタングまでの音楽制作におい	いてProToolsを	テフル活用し、	プロと同等の	クオリティーで	で仕上げられる	ようにする
評価方法と基準	1)実技判定)60% 2)出席率40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのF	ProToolsセッシ	rョンのオペレ·	ーションで出羽	そるようにする		

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	Voの高度なPitchEditの完結	VoPitchEdit完了のセッション作成
2		講義·演習	ラフミックスとShortVerのファイルを最速で作成出来るようにする	個人でマルチEDITのセッションを作成口
3		講義·演習	プリプロから楽曲完パケまでのプロセスを理解する	個人でMIDIを使用したセッションを作成
4		講義∙演習	実際にゲストを呼んで、プリプロを完結できるようにする	個人でMIDIを使用したセッションを作成・添削・修正
5		講義∙演習	プリプロから本録音へのブラッシュアップを理解する	個人でMIDIを使用したセッションを作成・添削・修正
6		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
7		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
8		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
9		講義∙演習	ネットワーク上での共同制作プロセスを理解する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
10		講義∙演習	実際にネットワークでの共同制作を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
11		講義∙演習	実際にネットワークでの共同制作を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
12		講義∙演習	本録音からの完パケ作業を実践する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
13		講義∙演習	完パケマスターおよび各用途ファイル作成の実技	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	ProTools(2) (ProTools 101(2))	必修 選択	選択	年次	1	. 切	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態 講義		総時間 (単位)	30 2単位	世当教員	八竹茄件
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義と演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の 振り返りと自習
3		講義と演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の 振り返りと自習
4		講義と演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の 振り返りと自習
5		講義と演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の 振り返りと自習
6		講義と演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義と演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義と演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義と演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義と演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義と演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義と演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の 振り返りと自習
13		試験	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Ableton basic (1)	必修 選択	選択	年次	1	. 切	阿瀬 文彦
当 到 市在	- 英楽ニカノロジ - 村 2左州 - 尺明 如	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	阿根 又尽
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	712 763		(ーロ)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton L	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton Liveの使用法の学習。					
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習行	える。					
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	起動方法からLiveの初期設定、基本概念と特徴、PA現場での具体的な活用方法	授業内容の復習
2		講義	Ableton Liveセッションビューについて	セッションビューについて復習
3		講義	Ableton Liveアレンジメントビューについて	アレンジメントビューについて復習
4		講義	Ableton LiveのWarpモードでの各パラメーターの特性	授業で学んだ特性について復習
5		講義	舞台を想定したポン出しの仕込み1	仕込みと手順について復習1
6		講義	舞台を想定したポン出しの仕込み2	仕込みと手順について復習2
7		講義	MIDIコントローラーの設定と操作	設定と操作について復習
8		講義	ライブ・コンサートでのマニピュレート技術を学習	授業内容の復習
9		講義	ライブ・コンサートでのオケの仕込み	授業内容の復習
10		講義	演者のイヤモニへ送るクリック・トラックの作成とルーティングを学習	授業内容の復習
11		講義	ライブ・トラックのサイズや構成の変更を学習	授業内容の復習
12		講義	内蔵エフェクトについて学習	授業で紹介した各エフェクトについて復習
13		試験	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容を復習
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Ableton basic (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	阿瀬 文彦
╨치 효北	ᅕᅉᆖᄼᇧᅁᅟᆋᇬᄼᄼᄱᆝᄝᄜᅘ	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	門棋 又尽
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	אבורלוו		(+14)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton L	iveの使用法の	の学習。				
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習行	える。					
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙実習	Ableton Liveでのオーディオレコーディング実習	授業内容の復習
2		講義∙実習	前回の授業でレコーディングしたオーディオ素材のエディット作業	学習したエディット方法の復習
3		講義∙実習	Ableton Liveでマルチマイクで収録したドラム素材のミックス処理	学習したミックスの復習
4		講義∙実習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習1	授業で配布したデータの確認と整理1
5		講義•実習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習2	授業で配布したデータの確認と整理2
6		講義∙実習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習1	授業内容の復習
7		講義∙実習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習2	授業内容の復習
8		講義∙実習	Ableton Live内蔵サンプラーの学習	授業内容の復習
9		講義∙実習	Ableton Live内蔵シンセサイザーの学習	授業内容の復習
10		講義∙実習	Ableton Liveのグルーブクオンタイズについて学習	オーディオのクオンタイズについて復習
11		講義∙実習	サンプルエディタを使用したオーディオのタイミング補正を学習	タイミング補正について復習
12		講義∙実習	セッションビューを使用してのライブパフォーマンス。素材仕込み	授業で作成したデータの整理
13		試験	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容をしっかり復習する
14		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	Creator'sReconding概論 (1)	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	西片 悠人
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教貝	四月 念人
教員の略歴	日来アプレン 170千帆 空间的				2年位		
授業の学習 内容	音楽クリエーターを目指す上で、レコーディング技 レコーディングの基本概念と、レコーディング技術						
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコ ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の		術の習得				
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

			授業計画・内容	_
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	デジタルレコーディング基本概念の理解① (アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷(こついて)	デジタルレコーディング基本概念の理解① (アナログ,デジタルの違いとレコーディング技術の変遷について)
2		講義	デジタルレコーディング基本概念の理解② (サンプリングレート、ビットレートについての理解)	デジタルレコーディング基本概念の理解② (サンプリングレート、ビットレートについての理解)
3		講義	デジタルレコーディング応用編① (AD/DA,レイテンシーとは?その対策について)	デジタルレコーディング応用編① (AD/DA,レイテンシーとは?その対策について)
4		講義	デジタルレコーディング応用編② (ワードクロックについて、活用法や注意点について)	デジタルレコーディング応用編② (ワードクロックについて、活用法や注意点について)
5		講義	マイクの種類および特性について	マイクの種類および特性について
6		講義	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングについての 理解	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングについての 理解
7		講義	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングを理解し、レコーディング及びモニタリングのセットアップについて	アナログコンソール(SSL4000G)を利用したオーディオルーティングを理解し、レ コーディング及びモニタリングのセットアップについて
8		演習	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて	ヴォーカルレコーディングのセッティングとルーティングについて
9		演習	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて	アコースティック楽器のセッティングとルーティングについて
10		講義	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解	DAW「ProTools」基礎① セッションの作り方、各種機能の理解
11		講義	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解	DAW「ProTools」基礎② 編集ウィンドウの理解、4つの基本モードの理解
12		講義	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて	DAW「ProTools」基礎③ ミックスウィンドウの理解、オーディオルーティングについて
13		試験	SSLコンソールを使った実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	引 時間外学習		

科目名	Creator'sReconding概論 (2)	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	西片 悠人
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教員	四万 念入
教員の略歴	日本ノンプラン 村で下町 正明師		<u> </u>		2412		
授業の学習 内容		音楽クリエーターを目指す上で、レコーディング技術の必要性と需要が高まってきている昨今、クリエーターにとって必要なデジタル レコーディングの基本概念と、レコーディング技術及びミキシング・マスタリング技術の基礎知識と技術の習得を目指す。					
到達目標	①デジタルレコーディングの基本概念の理解 ②ヴォーカル及び各種アコースティック楽器のレコ ③業界標準DAW「ProTools」の基本概念と機能の		術の習得				
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	DAW「ProTools」応用① (レコーディングセットアップについて)	DAW「ProTools」応用① (レコーディングセットアップについて)
2		講義	DAW「ProTools」応用② (ヴォーカルレコーディングとモニタリングについて)	DAW「ProTools」応用② (ヴォーカルレコーディングとモニタリングについて)
3		演習	DAW「ProTools」応用① (ヴォーカルレコーディングと編集について その1)	DAW「ProTools」応用① (ヴォーカルレコーディングと編集について その1)
4		演習	DAW「ProTools」応用④ (ヴォーカルレコーディングと編集について その2)	DAW「ProTools」応用④ (ヴォーカルレコーディングと編集について その2)
5		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について① (イコライザーについて)	各種エフェクターの機能理解と活用法について① (イコライザーについて)
6		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について② (リバーブについて)	各種エフェクターの機能理解と活用法について② (リバーブについて)
7		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について③ (ディレイについて)	各種エフェクターの機能理解と活用法について③ (ディレイについて)
8		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について④ (コンプレッサーについて その①)	各種エフェクターの機能理解と活用法について④ (コンプレッサーについて その①)
9		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑤ (コンプレッサーについて その②)	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑤ (コンプレッサーについて その②)
10		講義	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑥ (ダイナミクス系(ゲート、エキスパンダー)について)	各種エフェクターの機能理解と活用法について⑥ (ダイナミクス系(ゲート、エキスパンダー)について)
11		演習	ミキシングについて (モニタリング、バランス、エフェクト処理、プロセス、心構え)	ミキシングについて (モニタリング、バランス、エフェクト処理、プロセス、心構え)
12		講義	マスタリングについて (マスタリングとは?、プロセス、DDP)	マスタリングについて (マスタリングとは?、プロセス、DDP)
13		試験	ProToolsを使用して課題曲の編集及びミキシング実技テスト	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		る 時間外学習 お・糸去まり		

科目名	音響基礎知識(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宏空/ 株
<u> </u>	· 文文 - 5 / 다 ** - 10 / 도비 모델 회	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	家 可入雁
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルン心		(平四)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音 楽的な知識を総合的に身につけさせる。						
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコー	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコーディング技術認定試験に向けての音響技術と知識の習得を目指す					
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音についての基礎的な知識習得	音についての基礎的な知識習得 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
2		講義	音の伝達 基礎知識学習	音の伝達 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
3		講義	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
4		講義	音響物理 基礎知識学習	音響物理 基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
5		講義	電気の基礎知識学習	電気の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
6		講義	スタジオ設計の理解	スタジオ設計の理解 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
7		講義	スタジオシステム 機器の学習	スタジオシステム 機器の学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
8		講義	マイクロフォンの構造機能学習	マイクロフォンの構造機能学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
9		講義	調整卓 回路の基礎知識学習	調整卓 回路の基礎知識学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
10		講義	アウトボードの使用法学習	アウトボードの使用法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
11		講義	アナログ機器の調整法学習	アナログ機器の調整法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
12		試験	オーケストラの録音法学習	オーケストラの録音法学習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
13		講義	ボーカルレコーディング実習	ボーカルレコーディング実習 振り返りとJAPRSテキストを使用しての自習及びテスト対策
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	時間外学習	JAPRSテキストでの予習	

科目名	音響基礎知識(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	宏空力 排
		授業	講義	総時間	30	担ヨ教貝	多寸 久雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングエンジニアとしての技術的な知楽的な知識を総合的に身につけさせる。	レコーディングエンジニアとしての技術的な知識だけでなく、音響理論、スタジオアコースティック、楽器や楽譜などの音 楽的な知識を総合的に身につけさせる。					
到達目標	日本音楽スタジオ協会が行うサウンドレコー	ディング技術	が認定試験に向 じ	ナての音響!	技術と知識(の習得を目	指す
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		講義	ドラムレコーング法を習得	ドラムレコーング法を習得 振り返りと自習				
2		講義	PloToolsの操作法を習得	PloToolsの操作法を習得 振り返りと自習				
3		講義	MixDownについての知識と理解、セッティングの重要性と方法について	MixDownについての知識と理解、セッティングの 重要性と方法について、振り返りと自習				
4		講義	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローにつ	MixDownについての知識と理解、MixDownのフローについて、振り返りと自習				
5		講義	音楽素材の編集技術の習得	音楽素材の編集技術の習得 振り返りと自習				
6		講義	マスタリングの技術習得	マスタリングの技術習得 振り返りと自習				
7		講義	様々な楽器の録音技術習得	様々な楽器の録音技術習得 振り返りと自習				
8		講義	音楽理論と楽器の録音法習得	音楽理論と楽器の録音法習得 振り返りと自習				
9		講義	テキストのまとめによる復習	テキストのまとめによる復習 振り返りと自習				
10		講義	MixDown実習によるコンプレッサー処理の技術習得	MixDown美省によるコンフレッケー処理の技術省 得 振り返りと自習				
11		講義	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得	MixDown実習によるイコライザー処理の技術習得振り返りと自習				
12		試験	試験による学習内容のまとめ	試験による学習内容のまとめ 振り返りと自習				
13		講義	MixDown実習による空間表現の技術習得	MixDown実習による空間表現の技術習得 振り返りと自習				
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出				
	準備学習	[]] 時間外学習	JAPRSテキストでの予習					

【使用教科書・教材・参考書】 JAPRSテキスト 問題集

科目名	音響機器オペレート(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位		231 17 VML
教員の略歴	日末 / / / ロノ 140 牛削 昼间即				2年位	l	
授業の学習 内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をマスターし、技術と芸術性を身につけさせる						
到達目標	音響技術と知識の習得、作品の制作実習に る。	音響技術と知識の習得、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。					
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記40% 実技60%)						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	機器名と基礎的な使用法の理解	機器名と基礎的な使用法の理解 振り返りと自習
2		講義	機器名と基礎的な操作法の理解と習得	機器名と基礎的な操作法の理解と習得 振り返りと自習
3		講義	コンソールの回線フローの説明と使用法習得	コンソールの回線フローの説明と使用法習得 振り返りと自習
4		講義	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説 明と使用法習得	コンソールのレコーディング及びミックスモード機能の説明と使用法 習得振り返りと自習
5		講義と演習	コンソール各セクションの操作法習得	コンソール各セクションの操作法習得 振り返りと自習
6		講義と演習	ボーカル録音によるマイキング技術習得	ボーカル録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
7		講義と演習	ボーカル録音によるモニターバランス技術習得	ボーカル録音によるモニターバランス技術習得 振り返りと自習
8		講義と演習	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得	ボーカル録音によるエフェクト処理技術習得 振り返りと自習
9		講義と演習	ドラム録音によるマイキング技術習得	ドラム録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
10		講義と演習	ギター、ベース録音によるマイキング技術習得	ギター、ベース録音によるマイキング技術習得 振り返りと自習
11		講義と演習	ProToolsの編集法習得	ProToolsの編集法習得 振り返りと自習
12		講義と演習	前期テスト アウトボードの操作法習得	前期テスト アウトボードの操作法習得 振り返りと自習
13		講義と演習	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習得	ボーカル録音の実演を行なった総合技術習得 振り返りと自習
14		講義と演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義と演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	[]] 時間外学習	JAPRSテキストでの予習	

【使用教科書・教材・参考書】 JAPRSテキスト 問題集

科目名	音響機器オペレート(2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	家守久雄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	水 寸八雌
教員の略歴							
授業の学習 内容	レコーディングにおける作業内容の理解と学習、様々な機器の操作法をアスターし、技術と芸術性を身につけさせる。						
到達目標	音響技術と知識の習得、作品の制作実習によってレコーディングエンジニアとして必要な機器の基本的な操作ができる。						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記40% 実技60%)						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		実習 講義	MixDown時の機器の操作法習得	MixDown時の機器の操作法習得 振り返りと自習			
2		実習 講義	MixDown実習による技術習得	MixDown実習による技術習得 振り返りと自習			
3		実習 講義	MixDown時のサウンドメイクについて	MixDown時のサウンドメイクについて 振り返りと自習			
4		実習 講義	MixDown時のアウトボード操作法習得	MixDown時のアウトボード操作法習得 振り返りと自習			
5		実習 講義	MixDownのミックスバランスのテクニック習得	MixDownのミックスパランスのテクニック習得 振り返りと自習			
6		実習 講義	MixDown課題曲①発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲①制作			
7		実習 講義	MixDown課題曲②発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲②制作			
8		実習 講義	MixDown課題曲③発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲③制作			
9		実習 講義	MixDown課題曲④発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲④制作			
10		実習 講義	MixDown課題曲⑤発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲⑤制作			
11		実習 講義	MixDown課題曲⑥発表による制作実習(技術習得)	Mix課題曲⑥制作			
12		試験 講義	試験による学習内容のまとめ	テスト			
13		実習 講義	マスタリング実習による技術習得	マスタリング実習による技術習得 振り返りと自習			
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	時間外学習	JAPRSテキストでの予習				

【使用教科書・教材・参考書】 JAPRSテキスト 問題集

科目名	MaxプログラミングBasic(1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	有馬知章
学科·専攻	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	有局재무
学科・ 専 攻 教員の略歴	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	7772		(+14)	2単位		
教員の哈座							
授業の学習 内容	現在各方面で注目されているAIを音楽に導入するた楽理論、DTMの経験、MIDIの知識が不可欠です。まとして活躍して欲しいです。Maxで音を出す、自動演数学的に考察します。	だ始まったば	かりのこの分	野においてい	ち早く技術を	習得し新しい音	音楽の専門家
到達目標	MAXの基本操作をマスターします。ソフトの起動から	ゝ、オブジェクト	の設定、MIDI	の設定、プロ・	グラミングの碁	基礎ができる 。	
評価方法と基準	作品の提出・指定した企画の作品70%とオリジナルイ	乍品30%で評価	iします。授業	での指示にし	たがって作業	することが重乳	要です。

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	コンピュータミュージックについて	授業内容を記録し復讐する			
2		講義	MAXの起動・設定	前回の授業内容を記録し復讐する			
3		講義	基本的な操作・ボタンの作成	前回の授業内容を記録し復讐する			
4		講義	MIDI関連の設定・オブジェクトの作成	前回の授業内容を記録し復讐する			
5		講義	自動演奏の作成	前回の授業内容を記録し復讐する			
6		講義	リズムボックスの作成 音を繰り返す	前回の授業内容を記録し復讐する			
7		講義	和音を演奏させる 数字で和音を表現	前回の授業内容を記録し復讐する			
8		講義	ランダムに音を繰り返す	前回の授業内容を記録し復讐する			
9		講義	PCのキーボードを鍵盤にする 1	前回の授業内容を記録し復讐する			
10		講義	課題作成	課題の指示を確認			
11		講義	課題作成・提出	指示に従って制作する			
12		講義	課題作成・提出	指示に従って制作する			
13		講義	課題最終提出	指示に従って制作する			
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習					

科目名	MaxプログラミングBasic(2)	必修 選択	選択	年次	1	- 担当教員	有馬知章
		授業	演習	総時間	30	担ヨ牧貝	有馬和早
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽理論、DTMの経験、MIDIの知識が不可欠です。まとして活躍して欲しいです。Maxで音を出す、自動演	現在各方面で注目されているAIを音楽に導入するために必要な基本的な知識をMAXを使って学習します。AIで音楽を作るには、音楽理論、DTMの経験、MIDIの知識が不可欠です。まだ始まったばかりのこの分野においていち早く技術を習得し新しい音楽の専門家として活躍して欲しいです。Maxで音を出す、自動演奏させるなどの基本を学び、自分のアイデアを形にすることを重視します。音楽を数学的に考察します。AbletonLiveが使用できない場合は、グラフィックと音楽の合成。					
到達目標	MAXの基本操作をマスターします。ソフトの起動から、オブジェクトの設定、MIDIの設定、プログラミングの基礎ができる。						
評価方法と基準	作品の提出・指定した企画の作品70%とオリジナルイ	乍品30%で評価	iします。授業	での指示にし	たがって作業	することが重!	要です。

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	MAXの基本操作確認	授業内容を記録し復讐する
2		講義	counter sel metroの使用	前回の授業内容を記録し復讐する
3		講義	Randomの使用 AI作曲	前回の授業内容を記録し復讐する
4		講義	tempo、同期の設定	前回の授業内容を記録し復讐する
5		講義	自動演奏の作成	前回の授業内容を記録し復讐する
6		講義	今まで作ったファイルを合体させる	前回の授業内容を記録し復讐する
7		講義	Abletonの設定	前回の授業内容を記録し復讐する
8		講義	Abletonの設定	前回の授業内容を記録し復讐する
9		講義	課題作成	前回の授業内容を記録し復讐する
10		講義	課題作成	課題の指示を確認
11		講義	課題作成·提出	指示に従って制作する
12		講義	課題最終提出	指示に従って制作する
13		講義	課題最終提出	指示に従って制作する
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Self accompaniment (1)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大渡 亮
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	八
教員の略歴	日来アクバログ 170年前 昼间部				2年位		
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)	奏技術					

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	講義1年間の説明。 生徒のプレイアビリティ診断。	資料をもとに予習・復習・練習を要する
2		講義・演習	アコースティックギターに必要な道具の紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
3		講義・演習	作成した資料を用いてローポジションでのコード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
4		講義・演習	3コード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
5		講義·演習	ダイアトニックコード紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
6		講義・演習	ストローク紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
7		講義·演習	カポタスト使用方法や目的を説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
8		講義・演習	アルペジオ奏法を紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
9		講義·演習	指弾きについて1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
10		講義・演習	指弾きについて2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
11		講義·演習	選択した楽曲演奏1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
12		講義·演習	選択した楽曲演奏2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
13		講義·演習	選択した楽曲演奏3	資料をもとに予習・復習・練習を要する
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		習 時間外学習 材・参考書】		_

teamsにて共有

科目名	Self Accompaniment (2)	必修 選択	選択	年次	1	担当教員	大渡 亮
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	八波 元
教員の略歴	日末アプロン 170年前 を间的				2年位		
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演習 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)	奏技術					

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。			
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。			
3		演習	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。			
4		演習	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。			
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。			
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。			
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。			
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。			
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。			
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。			
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。			
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。			
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習					

teamsにて共有

科目名	Music History (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	西田	ENI
		授業	講義	総時間	30	担当教員	и п	WJ'J
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態	語我	(単位)	2単位			
教員の略歴								
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、ポップ・ロックミュージックの起こりから現代まで、その発達の歴史を深く学びます。 その歴史や文化に触れ、グローバルな視点でアメリカ・イギリス中心とした英語圏におけるポピュラー音楽の位置づけを概観することができる。							
到達目標	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深くを評価することができる。	時代の流れに沿った、ロック・ポップスの発達を深く知ることで、自分たちの作り出す音楽と、ロック・ポップスの歴史・進化を結び付け 評価することができる。						
評価方法と基準	1)定期テスト80% 2)平常点20%							

			授業計画•内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	ロックミュージックのルーツ	ボビュラー音楽を学ぶ事=アメリカの黒人音楽を知る~授業目的の確認 どのように学ぶのか? 授業の進め方(丁賞料、音源、DVD、実演)の確認 オールディーズ資料としてアメリカングラフィティ考察		
2		講義	20世紀初期のポピュラーミュージック	最も売れたアーテストランキング ビートルズ、ブレスリー、マイケル、マドンナ、ツェッベリンの共通点アメリカの黒人音楽 を世界に広めた・パフォーマー、ブルースの特徴(コード連行、12小節)をクロスロード(ロバートジョンソン、エリッククラブトン)考察し、パターンと言葉を理解する。		
3		講義	ロックンロールの誕生	プレスリー チャックペリー リトルリチャードの考察中心に時代背景を交えて、アメリカ黒人音楽で あるR&Rを学ぶ。 また、自分のアタマで考えることを教える 例えばメンフィスは黒人が多く住んでたと思うか?な ど。		
4		講義	フォークミュージックの再燃と公民権運動	ボブディランを中心にフォークソングを考察 代表曲:風に吹かれて の歌詞の内容を時代背景とともに理解する。 また、時代は異なるが、イマジン: ジョンレノン の歌詞の本質を学ぶ。		
5		講義	イギリス・ポップミュージックの台頭	ビートルズ〜 イギリスアーチストのアメリカ市場への侵攻 ベビーブーム世代 当時の若者の考え方を知る。		
6		講義	フラワームーヴメント	フラワームーブメント、ヒッピー、LOVE&PEACE、公民権運動、ベトナム戦争を、1		
7		小テスト 講義	ポイント整理	R&Rの誕生からウッドストックまでの流れを、しっかりと理解する。		
8		講義	パンクロック。ニューウエイブ	ロンドンパンク(セックスピストルズ、マルコム・マクラーレン、ヴィヴィアン・ウエストウッド) ~ニュー ウェイブの流れ と 70年代のポピュラー音楽の大きな流れ (ハードロック、ファンク、レゲエ、AORなどのジャンルの確 立)を対比させることができる。		
9		講義	MTVの時代	80年代MTV 80年代ビルボードTOP10 マイケルジャクソン「スリラー」考察 MTVのスタートによりプロモーションのあり方自体に大きな変革をもたらしたこと シンセサイザー の発達 女性アーチストの躍進にも注目する。		
10		講義	ヒップホップの誕生	ティスコ ダンスクラシック(サタデーナイトフィーヴァーなど)の傾向を踏まえて、ヒップホップとの関連 ヒップホップの始まり(ラップ、プレイクダンス、グラフィティ)を検証 その他、オールジャンルから超一流のアーチストが集結した「We Are The World」を考察		
11		講義	21世紀の始まり	今世紀に入ってからのポピュラー音楽の傾向を理解する 新たなメディア(Youtube)との向き合い方を各自で考える。		
12		テスト	テスト			
13		講義	振り返り			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	冒 時間外学習				
【使用	【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	Music History (4)	必修 選択	選択	年次	2	• 担当教員	西田 剛
		授業	講義	総時間	30	担当教具	
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態	6円 李文	(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	この授業の目的は「音楽を考える力」を育むことであり、主にヨーロッパ及びアメリカで発生し発展してきた芸術音楽について概要を学びます。 その歴史(中世~20世紀)の中で対位法、オペラ、無調性音楽などに触れ、形式を理解するとともに、音楽的な視野を広めます。						
到達目標	西洋音楽の進化について深い理解を示すことができる。 それは、楽曲を聴いた時の分析力となり、その曲の歴史的な位置づけ・意味合いがわかるようになる。 そして、自分の作品と西洋音楽を深いレベルで結びつけることができるようになる。						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)平常点40%						

	授業計画•内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		講義	中世の音楽 音楽の始まり〜グレゴリオ聖歌 教会旋法	授業の進め方(資料、音源、DVD、実演)の確認 レベルチェック: 小テスト 身近なクラシック曲(あし笛の踊り)				
2		講義	ルネッサンス期の音楽	配布プリント(年表、ルネサンス、バッハのメヌエット) 目標再確認、メヌエットで学ぶ対位法、ルネサンス音楽を聴く				
3		講義	バロック期の音楽(オペラ)	パロックという時代を知る。 オペラの始まり1600~パッハの死1750 名作: 蝶々夫人 椿姫 魔笛 コシ・ファン・トゥッテ 鑑賞 考察:オペラ歌手 ソプラノ(コロラトゥーラ、リリコ、などの違いを聴き分ける)				
4		講義	J.S.バッハの音楽	パロックとバッハ 時代と背景 対位法、カノン形式について学習する 主よ、人の望みの喜びよ パッヘルベルのカノン オペラとオラトリオ などブリントに沿って学習				
5		講義	クラッシック音楽"の時代(ハイドン、モーツァルト)	モーツアルトと古典派 ソナタ形式と交響曲の構成を理解する。その他、協奏曲とはどんな音楽か説明できるようにする。				
6		小テスト 講義	ここまでのポイント整理	カノン形式、ソナタ形式、交響曲の構成、オペラとオラトリオ の違いなどを言葉で説明できる。				
7		講義	クラッシック音楽"の時代(ベートーベン)	ベートーヴェンと古典派~ロマン派の流れを理解する 交響曲「運命」(ソナタ形式)、エリーゼのために、月光など代表曲。 ハイドン 「天地創造」(オラトリオ)				
8		講義	初期ロマン派の音楽(シューベルト、ベルリオーズ)	ロマン派①シューベルト ベルリオーズなど考察 ショパン、シューマン、リスト、メンデルスゾーン(主だったピアノ曲) を聴きピアノという楽器の歴史を理解する。				
9		講義	後期ロマン派の音楽(ワーグナー、マーラー)	ロマン派②ワーグナー、ヴェルディ、ヨハンシュトラウス2世、サン=サーンス、ドヴォルザーク 前週からの2週で、ロマン派の音楽が重視した人間の感情や個性を理解する。				
10		講義	20世紀の音楽(ストラヴィンスキー)	1882~1971 初期の 3 作品(『火の鳥』、『ペトルーシュカ』、 『春の祭典』)				
11		講義	20世紀の音楽(シェーンベルグ) ケージ、ヴェーブルン 芸術音楽	シェーンベルクを中心に20世紀の音楽 12音技法の解説 音列を知る その他(サティ、ラヴェルなど)				
12		テスト	テスト					
13		講義	振り返り	中世から20世紀までの時代を振り返り、曲の雰囲気がわかるようになったか確認する。 オーケストラの基本編成や様々なジャンル(交響曲、協奏曲、ピアノ曲)を再認識する。				
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
		冒 時間外学習						
7 /± ==	*****	++ * **						

科目名	expression A (3) (VT (3))	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	吉田 華奈 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
₩11 ±-L		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	元不 美帆 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	112 iS		(平位)	2単位		10/2 4/4//
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 表現に繋げていけるようにする。						
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%						915

			授業計画•内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践できるロ	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画 チェック
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェックする
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い動画チェックする
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画 チェックする
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画 チェックする
8		演習		全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディ―C 〜上のC までを歌い動画チェックする
10		演習		歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
11		演習		歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる口	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自	目習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	expression A (4) (VT (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	吉田 華奈 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	元 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力か 表現に繋げていけるようにする。	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの)応用と活用力	7法を習得し実	足践できるよう	になる。		
評価方法と基準	実技による採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディー を実践できる	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディー を動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを 歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い動画 チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC ~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC 〜Aを歌い実践できる。。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上の C までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上の C までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディ―C 〜上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC 〜上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC 〜上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	引 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための目	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	expression C (3) (Diction (3))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一朗 橋元 美沙
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	相澤ななみ
教員の略歴	Taxaa ha ha ma mada						
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向	上、基礎力の	定着及び、ア [.]	ーティストとし	ての表現力 <i>の</i>)向上	
評価方法と基準	実技による採点100%						

授業計画•内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が 実践できる	英語の母音の表現確認をし練習しておく。			
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が 実践できる	英語の子音の表現確認確認をし練習しておく。			
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。			
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、 表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する			
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が 実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する			
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が 実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する			
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード 表現が実践できる	主線を覚え復習し実践する			
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	高音部ハーモニーを覚え復習し実践する			
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへの チャレンジをする	低音部ハーモニーを覚え復習し実践する			
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏で きる表現が実践できる	発音する音を全てを覚え復習し実践する			
11		演習	発表会として演奏表現が実践できる	全てのハーモニーを理解し実践する			
12		演習	英語の母音レクチャー、表現が実践できる 英語の子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究 800-1000字以内でレポートを作成する。			
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのバリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポートを作成する。			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	。 時間外学習	正しい英語の発音、リズム、表現力	を養うための繰り返し練習、週4時間			

科目名	expression C (4) (Diction (4))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	田原 佑一朗 國末 慶宏 橋元 美沙
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	偏元 美沙 キム ゴンヒョ ン
教員の略歴						-	
授業の学習 内容	英語の発音、ボイストレーニング、および、歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、歌唱において英語の発音力向。	上、基礎力の対	定着及び、応月	用カとアーティ	ィストとしてのま	長現力の向上	
評価方法と基準	実技試験100%						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。			
2		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認確認をし練習しておく。			
3		演習	R&Bリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	R&Bリズムのバリエーションを復習し実践する。			
4		演習	サンバ系ミュージックの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	サンバ系ミュージックリズムのバリエーションを復習し実践する			
5		演習	POPSリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	POPSリズムのバリエーションを復習し実践する			
6		演習	JAZZのリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる	JAZZのリズムのバリエーションを復習し実践する			
7		演習	ヴォーカル主体でリズム、グルーヴを作ってリード表現が実践できる	課題曲の歌詞Aパートを覚え復習し実践する			
8		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへ表現が実践できる	課題曲の歌詞Bパートを覚え復習し実践する			
9		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージへのチャレンジをする	課題曲の歌詞Cパートを覚え復習し実践する			
10		演習	パフォーマンスを含む、総合的なステージを意識して演奏できる表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する			
11		演習	発表会の曲を演奏表現が実践できる	課題曲の歌詞全てを覚え復習し実践する			
12		演習	英語の母音、子音レクチャー、表現が実践できる	英語の母音、子音の表現確認をし練習しておく。 英語を発音するための研究、800-1000字以内でレポート作成。			
13		演習	ROCKリズムの英語歌詞の発音、母音レクチャー、表現が実践できる 試験と復習	ROCKリズムのパリエーション確認をし練習しておく。 振り返りを行いレポート作成			
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	日時間外学習	正しい英語の発音、リズム、表現力	・ を養うための繰り返し練習、週4時間			
【使用	学順子自 时间か子自						

科目名	Inst Ensemble A (3) (Piano Duo (1))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担ヨ教員	田原 佑一朗熊谷 穣
教員の略歴	TWY TO THE THIRD						i
授業の学習 内容		音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターン にあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルス	キルを習得し	実践できる。				
評価方法と基準	実技による採点100%						

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
2		演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
3		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
4		演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
5		演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
6		演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
7		演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。				
8		演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。				
9		演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
10		演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
11		演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。				
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる				
13		演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成				
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
	準備学習	冒 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間				

科目名	Inst Ensemble A (4) (Piano Duo (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	世当教員	田原 阳一朗 熊谷 穣
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成など、演奏を通してアンサンブルカを育てる						
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。						
評価方法と基準	実技試験100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実 践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し 実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し 実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習 得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZIJズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZIJズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	引 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間

科目名	Vocal Reading (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷	臸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	1 担ヨ教員	熊台	俄
教員の略歴	DANAGE TO THE TRANSPORT	<u></u>			<u> </u>	<u> </u>		
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽 曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。							
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。							
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	Bbメジャースケールについて説明できる。	B b メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールと コード進行について説明できる。	B ♭ メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールと コード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コードについて説明できる。	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	D マイナースケールについて説明できる。 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間

科目名	科目名 Vocal Reading (4)		選択	年次	2	担当教員	熊谷	吞
半い 本な	호호 = 6 / 마양 - 전 0 / 개 - 모 및 현	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教貝	熊台	依
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	112165		(412)	2単位			
教員の略歴 								
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読 曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽 由を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピが	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説 明できる。	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義		A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 Eb メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	Dマイナースケールについて説明できる。]種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について 説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間

科目名	Broadway Seminar (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	恋 薛 目	3 英
		授業	演習	総時間	60	担当教員	月豚 千	<u>-</u> -1
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	4単位			
教員の略歴								
	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が原現に繋げていけるようにする。	ュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表 記に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要なジ基礎とその	ミュージカルで活躍していく為に必要なジ基礎とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		演習	イントネーションテクニックをを理解し実践でき る。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめ る。
6		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践でき る。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践 できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践 できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習	ミュージカルで必要なスキルの習得するための	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	Broadway Seminar (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	赤苺	日本
		授業	演習	総時間	60	担ヨ教貝	角膝 -	千甘
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	4単位			
教員の略歴								
	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が娘現に繋げていけるようにする。	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表見に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。							
評価方法と基準	実技による採点100%							

授業計画・内容						
回数 日	程 授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	演習	できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。			
2	演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。			
3	演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。			
4	演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。			
5	演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめ る。			
6	演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。			
7	演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実 践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。			
8	演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解 し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。			
9	演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。			
10	演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践でき る。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめ る。			
11	演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解 し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。			
12	演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。			
13	演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる			
14	講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
15	講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出			
準値	備学習 時間外学習	ミュージカルで必要なスキルの習得するための	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。			

科目名	ダンス基礎(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	木本 雄
		授業 形態	演習	総時間	30	担ヨ教員	个个 雄
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形忠		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業の出席率による平常点						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	業界の仕事をすると言うこと。授業を受けるうえでの心構え	授業内容を自主練習
2		講義∙演習	筋トレストレッチによる体づくり	授業内容を自主練習
3		講義∙演習	基礎的な振付	授業内容を自主練習
4		講義∙演習	振付けの踊りこみ	授業内容を自主練習
5		講義∙演習	振付けの応用	授業内容を自主練習
6		講義∙演習	応用の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義∙演習	HIPHOPの振付け	授業内容を自主練習
8		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付け開始。	授業内容を自主練習
9		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用	授業内容を自主練習
10		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ	授業内容を自主練習
11		講義∙演習	HIPHOPの要素を多く入れた振付けの応用踊りこみ②	授業内容を自主練習
12		講義∙演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義∙演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		る 時間外学習 ************************************		

科目名	科目名 ダンス基礎(4)		選択	年次	2	. 扣坐 <u>粉</u> 昌	木本 雄
W 4 1		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	个个 雄
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ル忠		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①基礎的なダンスを深めると共に魅せることを意識する ②ダンスに関しては全般 ③一線で活躍できるアーティスト ④単純な振り落としの授業ではく、体の使い方なども含めた内容						
到達目標	ダンスの技術的向上、その習慣化。						
評価方法と基準	実技テストによる採点と授業出席率の平常点						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	前期の復習。体づくりの見直し	授業内容を自主練習
2		講義∙演習	前期のダンスの見直し、復習。	授業内容を自主練習
3		講義∙演習	前期より難易度を高めた振付	授業内容を自主練習
4		講義∙演習	難易度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
5		講義∙演習	より難しい振付。	授業内容を自主練習
6		講義∙演習	振付の踊り込み	授業内容を自主練習
7		講義∙演習	これまでの物を入れたうえで自由度を高めた振付	授業内容を自主練習
8		講義∙演習	自由度を高めた振付の踊り込み	授業内容を自主練習
9		講義∙演習	より自由度と難易度の高い振付	授業内容を自主練習
10		講義∙演習	前週の踊り込み	授業内容を自主練習
11		講義∙演習	自己表現を求めた踊り	授業内容を自主練習
12		講義∙演習	テスト振付	授業内容を自主練習
13		講義∙演習	テスト	授業内容を自主練習
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	Chorus Work (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	細井康行
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	12.1 秋兵	МШУ (13 К 13
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形忠		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	"1.音楽する上でハーモニーは必要不可欠な為この授業を受講する意味がある 2.全ての授業にハーモニーはリンクする 3.どんな曲にも対応できるハーモニー感覚を養ってほしい 4.これらを踏まえコードを使い音感を鍛える耳を鍛える実践に使える講義をする"						
到達目標	1.先ずはハーモニーの基本とされる3度のハーモニーを確実に身に付ける 2.次に4.5.6.7度等の難易度が高いハーモニーを身に付ける 3.1番難しいとされるユニゾン、オクターブユニゾンを身に付ける 4.最終的に人が歌っている曲に自動的にハーモニーを載せる事ができるようにする						
評価方法と基準	授業内発表60%(出席率含む) 授業内取り組み30%	独自に作って	いるコメントシ	一卜記入10%			

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	基本である姿勢.呼吸、体幹を学ぶ	オリジナル体幹理論プリント使用
2		講義∙演習	様々なコードを使い音感を鍛える	コードプリントで事前学習
3		講義∙演習	コードを使ったハーモナイズ実践	前週に配布したコードプリント参照
4		講義∙演習	基本の3度ハーモニーを学ぶ	引き続きプリント参照
5		講義∙演習	4.5.6.7度のハーモニーも加えて学ぶ	プリントで事前学習
6		講義∙演習	既存の楽曲を使いハーモニー実践	その場で楽譜配布して読譜する
7		講義∙演習	前週の楽曲を更に深め仕上げる	楽譜を読んで準備学習させる
8		講義∙演習	グループを作り色々な人とハーモニー実践	プリントで事前学習
9		講義∙演習	グループで楽曲を使いハーモニーを付ける練習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
10		講義∙演習	前週の復習	事前に楽譜収集又はコード譜製作
11		講義∙演習	グループ変えてハーモニー実践	グループ変えてハーモニー実践
12		授業内発表	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
13		授業内発表	今までの実践曲をグループで発表	コメントシート記入
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		日 時間外学習		

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜

科目名	Chorus Work (4)	必修 選択	選択	年次	2	七	細井康行
W.51		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ叙貝	神开康1丁
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	心思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習内容	前期に学んだ内容を更に深め仕事の現場で使える力を養う ア・カペラ含む更に高度な技術を身に付ける 譜面を使い初見カトレーニング						
到達目標	1.読譜力、初見力をトレーニングし現場で実践に繋げる力を養う 2.どんな曲にもハーモニーを付けられる実力を付ける 3.ハーモニーを通して、音感、リズム感、自身の歌唱力も向上させる						
評価方法と基準	前期同様プラス学校のイベントや学校の案件にどれ	だけ参加した	かも成績に加	味する			

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	課題曲実践	夏休み中に出した課題曲の練習
2		講義∙演習	前週の復習で修正や内容の掘り下げ	課題曲の練習
3		講義·演習	1人1人課題曲を決めハーモニー付け	パートナーと課題曲の練習
4		講義·演習	前週の引き続き実践	パートナーと課題曲の練習
5		講義∙演習	ア・カペラで音感を養う	配布プリントで事前学習
6		講義∙演習	様々な楽曲をア・カペラで実践	配布プリントで事前学習
7		講義∙演習	ア・カペラを使ってグルーヴ感ピッチ感 矯正する	シェーカー等事前告知し練習する
8		演習	少人数~大人数でのア・カペラ体験	配布プリントで事前学習
9		演習	前週のア・カペラをブラッシュアップ	事前に映像等紹介し練習する
10		演習	クラップやスナップ取り入れて ア・カペラ実践	配布プリントで事前学習
11		演習	実践踏まえたハーモナイズ 身体のスイング等取り入れて歌う	配布プリントで事前学習
12		発表	前期、後期の総まとめ	コメントシート
13		発表	前期、後期の総まとめ	コメントシート
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習		

オリジナル体幹理論、コードプリント、発声に関するオリジナルプリント、既存の楽曲の歌詞と楽譜とハーモニー譜 東京スクールオブミュージック専門学校渋谷

科目名	著作権(1)	必修 選択	選択必修	年次	2	→ 担当教員	峰松毅
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	₩ 華 የΔ 3文
教員の略歴						<u>-</u>	
授業の学習 内容	エンターテインメント業界における著作権トラブルの実例を基本に、著作権の知識の大切さを伝える。						
到達目標	問題意識の向上。己の将来像を考え、社会生活とは何かを基本に分からない事を知る方法を伝える。						
評価方法と基準	出席率とテストの採点結果。						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	著作権概要	宿題提示、一週間以内に提出
2		講義	宿題提出に伴う議論	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
3		講義	原盤権とは何か、契約交渉のテクニック	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
4		講義	マネージャーとは何か、欧米との違い	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
5		講義	プロデューサーとは何か前編	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
6		講義	プロデューサーとは何か後編	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
7		講義	企画力と著作権	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
8		講義	論理性の大切さとプレゼンテーション	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
9		講義	JASRACサイトの活用法	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
10		講義	講演会と著作権	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
11		講義	テスト	テスト
12		講義	テスト回答と説明/作家契約とは何か	関連サイトを視聴
13		講義	JASRAC VS YAMAHA (裁判辞令)	関連サイトを視聴
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	。 時間外学習		

独自に作成したPDFもしくはPowerPointのファイルを使用

科目名	著作権(2)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	峰松毅
₩51 ±-1-	호텔트 5 Jan 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19 19	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教具	叫事 化公 豕又
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルル		(牛匠)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	エンターテインメント業界における著作権トラブルの実例を基本に、著作権の知識の大切さを伝える。						
到達目標	問題意識の向上。己の将来像を考え、社会生活とは何かを基本に分からない事を知る方法を伝える。						
評価方法と基準	出席率とテストの採点結果。						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	JASRAC三大問題	宿題提示、一週間以内に提出
2		講義	アマチュアが自作楽曲を守る方法	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
3		講義	youtuber炎上問題、原因と解決策	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
4		講義	著作人格権とは何か	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
5		講義	著作権基本問題	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
6		講義	コンピューターと著作権	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
7		講義	音楽配信・サブスクリプション問題	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
8		講義	肖像権の深読み	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
9		講義	サンプリングと著作権	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
10		講義	レコード業界衰退の原因と解決策	関連サイトを案内、各自視聴させる次回に感想を述べさせる
11		講義	テスト	テスト
12		講義	テスト回答と説明/ライブ配信と著作権	関連サイトを視聴
13		講義	著作権講義のまとめ/質疑応答	今までのふりかえり
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	。 時間外学習		

独自に作成したPDFもしくはPowerPointのファイルを使用

科目名	科目名 音楽業界知識(1)		選択	年次	2	担当教員	吉田 ta	雄貴
W 51 /		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	同田 仏	雄 貝
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	心思		(単位)	2単位		<u> </u>	
教員の略歴								
授業の学習 内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケ ティングの基本を学習する							
到達目標	[2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてたる	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する る [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	音楽ビジネスの仕組みを知る	音楽事業者協会を調査する
2		講義	売れてるってどう言う事	ヒットチャート(オリコン)を調査する
3		講義	制作会議の進め方	会議の種類について調査する
4		講義	CDはどのような流れでマーケットに出るのか	音楽制作者連盟を調査する
5		講義	ビジネス文書の送り方	仮メールアドレスにビジネス文書を送る
6		講義	5月の音楽業界と全国展開	ガントチャートについて知る
7		講義	平成のエンタテインメント業界史を振り返る	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
8		講義	AIDMAの法則とプロモーション	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
9		講義	年間計画とタイムマネジメント	ガントチャートについて知る
10		講義	音楽フェスティバルについて知る	今年開催の音楽フェスの調査リスト化
11		講義	海外のエンタテインメント(シルクドソレイユ)の研究	テーマパークを調査する
12		講義	音楽ビジネスの収益モデル	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
13		講義	ターゲットを分析する(女性向け雑誌のマッピングから見る)	雑誌協会について調査する
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習	授業時間内の制作が中心で、教室内で扱	えないものを時間外学習として進めます。

昨年度実績の慨要書・終了報告書参照・自作PPT

科目名	科目名 音楽業界知識(2)		選択	年次	2	担当教員	吉田 ta	雄貴
W 51 /		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	同田 仏	雄 貝
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位			
教員の略歴								
授業の学習 内容	[1] 音楽業界へ進む上で必要とされる基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスの企業で勤務する際に必要なビジネススキルの基礎知識や実務の基本を学習するを学習する [3] 最新の音楽業界の動向や、一般的なメディアの取り扱いなどを検証分析することで、音楽ビジネスにおけるマーケ ティングの基本を学習する							
到達目標	[2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてたる	[1] 音楽業界への就職した際に、先輩業界人達とスムーズにコミュニケーションを取る為に必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職した際に、音楽業界人としてだけでなく一般社会人との業務において必要な基礎知識や実務の流れを構築する る [3] 音楽業界への就職後に必要となる、業界人としての目線で流行やトレンドを読むセンスを身につける						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※レポート課題提出 (評価割合 60%)							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	演劇の世界(ロングランミュージカル)	劇団四季について調査しレポートとして提出
2		講義	レコード業界のビジネスモデル	レーベルについて調査しレポートとして提出
3		講義	マーケットの変遷(東京中心から地元主義)	地域密着アーティストを調査しレポートとして提出
4		講義	クチコミプロモーションからSNSへ	SNSの媒体を調査しレポートとして提出
5		講義	ファンクラブビジネスについて知る	ファンクラブについて調査しレポートとして提出
6		講義	イベントと保険を学ぶ	各保険について調査しレポートとして提出
7		講義	プロモーションについて考える	本日の授業をもとにプロモーション案を提案
8		講義	アーティストという職業について知る(声優編)	声優を調査しレポートとして提出
9		講義	アーティストという職業について知る(YOUTUBER編)	YOUTUBERを調査しレポートとして提出
10		講義	著作権について考える	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
11		講義	仕事のできない人は「5W1H」がわかっていない	授業で出された課題に取り組む
12		講義	今さら聞けないメールの作法、宛名の書き方	仮メールアドレスにビジネスメールとしての文章を送信
13		講義	音楽業界の仕事基礎知識を再確認	本日の授業をもってレポートを800字以内で作成し提出
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
7.45円	準備学習 時間外学習 授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。			

自作PPT・プリント配布

科目名	アレンジング(1) (生楽器知識(1))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態			30 2単位		
教員の略歴			•	•	•	•	•
授業の学習 内容	ー年を通して、リズムセクションそしてオーケストラ全ての管弦打楽器のプロの奏者を毎回順番にゲストに招き、 楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して楽器の特性や奏法の知識習得を目指します。サンプルライブラリ の技術革新のおかげで生楽器を実際に使用する機会が少なくなった昨今、そうした知識を持つクリエイターやエ レジニアは非常に有益です。この生楽器知識で得た情報は、作編曲・エンジニアリングをテーマとするどの授業 であれ役立つものであり、また、自身のミュージシャンとしての学習過程において様々な場面で役立つ機会が幾 度となく訪れると信じます。						
到達目標	リズムセクションと金管楽器の各楽器の形状、名前、音色をきちんと把握している。 リズムセクションと金管楽器の各楽器の音域、特性、奏法について説明することができる。 リズムセクションと金管楽器の各楽器のアンサンブルにおける役割を説明できる。 楽器の特性をしったうえで正しく作編曲およびレコーディング・ミキシングを実践できる。						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。各種楽器の分類とアンサンブルの形態について正しく説明することができる。振り返りと自習		
2		講義	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、 奏法について説明できる。	リズムセクション1:ドラムセットの各種パーツの役割、音域、音色、 奏法について説明できる。振り返りと自習		
3		講義	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、 音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション2:エレキベース、アコースティックベースの役割、 音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返 りと自習		
4		講義	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、 音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。	リズムセクション3:エレキギター、アコースティックギターの役割、 音域、音色、奏法、各種パーツの役割について説明できる。振り返 りと自習		
5		講義	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、 役割について説明できる。	リズムセクション4:ピアノ、キーボードの役割、音域、音色、奏法、 役割について説明できる。振り返りと自習		
6		講義	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学 に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)	リズムセクション5:実際にグランドピアノ、アップライトピアノを見学に行き、その仕組みを学ぶ。(タカギクラヴィア訪問)振り返りと自習		
7		講義	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッ ションの種類や役割について説明できる。	リズムセクション6:主にジャズポピュラーの現場におけるパーカッションの種類や役割について説明できる。振り返りと自習		
8		講義	シンガー: 男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。	シンガー: 男性女性シンガーの音域や歌唱法、アンサンブルにおける役割などを学び、説明できる。振り返りと自習		
9		講義	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、 奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器1:トランペットとフリューゲルホルンの歴史、音域、音色、 奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習		
10		講義	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	金管楽器2:トロンボーンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習		
11		講義	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	金管楽器3:ホルンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。振り返りと自習		
12		講義	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	金管楽器4:チューバの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習		
13		講義∙試験	テスト	テスト		
14		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習 時間外学習 リスニング課題として、毎回学習した楽器に関する曲を提示します。					
		教材・参考書】 よじめてのオーケスト -	ラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)			

科目名	アレンジング(1) (インストゥルメンテーション (1))	必修 選択	選択	年次	2	坦	大貫和紀
W. # 1		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	人具和礼
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	心思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてそ ラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きなが	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。前期はリズムセクションと金管楽器について学習します。					
到達目標	リズムセクション、金管楽器の各楽器におい様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器の					ヽて理解して	いる。
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記30% 実技70%)						

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラと ビッグパンドの編成について正しく説明することができる。	授業の心構えとガイダンス。管弦打楽器の分類と、オーケストラと ビッグパンドの編成について正しく説明することができる。振り返り と自習		
2		講義	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ドラムのグルーヴについて認識できる。	ドラムの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ドラムのグルーヴについて認識できる。 振り返りと自習		
3		講義	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ベースのアレンジについて基礎的な理解がある。	ベースの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ベースのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
4		講義	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ギターのアレンジについて基礎的な理解がある。	ギターの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせた ギターのアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
5		講義	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイル に合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ピアノ・キーボードの記譜について理解があり、ジャンルやスタイル に合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
6		講義	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々な ジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。	リズムセクションのスコアをひもときながらその処方の確認、様々な ジャンルやスタイルのアレンジについて基礎的な理解がある。振り 返りと自習		
7		講義	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	パーカッションの記譜について理解があり、ジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
8		講義	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤーまで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	シンガーのための記譜について理解があり、小編成からクワイヤー まで様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的 な理解がある。振り返りと自習		
9		講義	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイル に合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トランペットの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイル に合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
10		講義	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	トロンボーンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
11		講義	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合 わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	ホルンの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合 わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
12		講義	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに 合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。	チューバの記譜について理解があり、様々なジャンルやスタイルに合わせたアレンジについて基礎的な理解がある。振り返りと自習		
13		講義∙試験	テスト	テスト		
14		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	¹ 時間外学習				
【使用	【使用教科書·教材·参考書】					

科目名	アレンジング(2) (生楽器知識 (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大雪和紀
	\	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	八貝和礼
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形忠		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	ー年を通して、リズムセクションそしてオーケ楽器の実演と解説を聞き、質疑応答を通して技術革新のおかげで生楽器を実際に使用すジニアは非常に有益です。この生楽器知識であれ役立つものであり、また、自身のミュージとなく訪れると信じます。	楽器の特性 る機会が少 で得た情報	生や奏法の なくなった は、作編曲・	… 知識習得を 作今、そうし エンジニア	目指します。 た知識を持 リングをテー	。サンプルラ :つクリエイタ -マとするど	イブラリの マーやエン の授業で
到達目標	木管楽器と弦楽器の各楽器の形状、名前、 木管楽器と弦楽器の各楽器の音域、特性、 木管楽器と弦楽器の各楽器のアンサンブル 楽器の特性をしったうえで正しく作編曲および	奏法につい たおける役	て説明する 割を説明で	ことができる きる。			
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記60% 実技40%)						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	木管楽器1:サックスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	木管楽器1:サックスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。振り返りと自習			
2		講義	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	木管楽器2:フルートの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。振り返りと自習			
3		講義	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	木管楽器3:オーボエの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習			
4		講義	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	木管楽器4:クラリネットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習			
5		講義	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	木管楽器5:ファゴットの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。振り返りと自習			
6		講義	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性 と各種パーツについて説明できる。	弦楽器1:バイオリンとビオラの歴史、音域、音色、奏法などの特性 と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習			
7		講義	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツ について説明できる。	弦楽器2:チェロの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツ について説明できる。振り返りと自習			
8		講義	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。	弦楽器3:コントラバスの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種 パーツについて説明できる。振り返りと自習			
9		講義	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	弦楽器4:ハープの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習			
10		講義	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	その他の楽器1:アコーディオンの歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。振り返りと自習			
11		講義	その他の楽器2:三味線の歴史、音域、音色、奏法などの特性と各種パーツについて説明できる。	次週のプレゼンテーションに向けた各自まとめ作業			
12		講義	後期に学習した各楽器をふりかえり、学習した内容を各自がまとめ プレゼンテーションをおこなう。	試験に向けた振り返りと自習			
13		講義·試験	テスト	テスト			
14		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	[]] 時間外学習	リスニング課題として、毎回学習し	た楽器に関する曲を提示します。			

参考書として:「はじめてのオーケストラ・スコア」 野本由紀夫(音楽之友社)

科目名	アレンジング(2) (インストゥルメンテーション(2))	必修 選択	選択	年次	2	坦	大貫和紀
24.7.1		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当软具	八貝和北
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルグには		(年四)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてそ ラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きなが	この授業の直前のコマにおこなわれる「生楽器知識」であつかう楽器と連動し、その日に見た楽器についてさらに掘り下げながら、音域、奏法、音色、そしてその楽器のスコアリング等について総合的に学習します。オーケストラ、ビッグバンドのスコアなどを読み解きながら、DAWでのよりリアルな制作ができるよう、そしてレコーディングに必要なスコアを書くことをめざします。後期は木管楽器と弦楽器について学習します。					
到達目標	木管楽器、弦楽器の各楽器において、楽譜。 様々なジャンルやスタイルにあわせた楽器の					たいる 。	
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記30% 実技70%)						

			授業計画·内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	サックスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	サックスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特 性、奏法について理解している。振り返りと自習			
2		講義	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	フルート、ピッコロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
3		講義	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上 でそれらの音域、特性、奏法について理解している。	オーボエ、イングリッシュホルンの記譜について理解があり、楽譜上 でそれらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
4		講義	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上で それらの音域、特性、奏法について理解している。	クラリネット、バスクラリネットの記譜について理解があり、楽譜上で それらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
5		講義	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上で それらの音域、特性、奏法について理解している。	ファゴット、コントラファゴットの記譜について理解があり、楽譜上で それらの音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
6		講義	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの 音域、特性、奏法について理解している。	バイオリンとビオラの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの 音域、特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
7		講義	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、 奏法について理解している。	チェロの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、 奏法について理解している。振り返りと自習			
8		講義	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、 特性、奏法について理解している。	コントラバスの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、 特性、奏法について理解している。振り返りと自習			
9		講義	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、 奏法について理解している。	ハープの記譜について理解があり、楽譜上でそれらの音域、特性、 奏法について理解している。振り返りと自習			
10		講義	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、 奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。	諸外国の様々な民族楽器について考察。その歴史、音域、音色、 奏法、アレンジなどを幅広く教養的に理解する。振り返りと自習			
11		講義	生楽器以外の様々なサウンドデザインの素材について考察。シンセやエフェクトを用いてのサウンドFXの制作について。	プレゼンテーション準備			
12		講義	1年間通して学習した全ての楽器の振り返りと、学習した内容を各自がまとめプレゼンテーションをおこなう。	試験準備			
13		講義∙試験	テスト	テスト			
14		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	¹ 時間外学習					
【使用	【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	ProTools(1) (ProTools Basic(1))	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一			総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	八竹茄叶
教員の略歴						<u> </u>	
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法を	を理解し、留ま	ミる事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義·演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義·演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義·演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義·演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義·演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義·演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義·演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義·演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義·演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義·演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義·演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義∙演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習 ************************************		

科目名	ProTools(1) (ProTools Advance (1))	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	八門新世
教員の略歴	DW//// PA MACHINI TIME						
授業の学習 内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的技術とスピードでオペレーションできるようにする					
到達目標	プリプロ段階からマスタングまでの音楽制作におい	ハてProToolsを	をフル活用し、	プロと同等の	クオリティーで	で仕上げられる	らようにする
評価方法と基準	1)実技判定)60% 2)出席率40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのF	ProToolsセッシ	ィョンのオペレ・	一ションで出羽	そるようにする	,	

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	DAWルームの回線、I/Oを理解する	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
2		講義·演習	Wavファイルから5分でVoダビング出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
3		講義∙演習	複雑なプレイリストでのVoダビング作業を出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
4		講義·演習	Voダビングしながら編集など効率化を行えるようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
5		講義·演習	ダビング終了から10分でコンピング終了出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
6		講義·演習	円滑なVo、Choダビングのオペレーションをする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
7		講義·演習	マルチトラックWavから10分でダビングスタート出来るようにする	個人でVoダビングセッション作成・添削・修正
8		講義·演習	複雑なVoのEDIT作業工程を理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
9		講義·演習	VoのタイミングEDIT(エラスティックを含む)を理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
10		講義·演習	VoのピッチEDIT工程を理解する(AutoTune,Melodyne)	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
11		講義∙演習	VoのピッチEDITが出来るようにする(個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
12		講義·演習	Voのフォルマントを意識した高度なEDITを理解する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
13		試験	Voをブラッシュアップ完了させる実技テスト	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	ョ 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日		

科目名	ProTools(1) (ProTools 101(1))	必修 選択	選択	年次	1	、切尘数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	世ヨ教貝	人们 新冲
教員の略歴	日末アプノロン―143年前 昼间印			<u> </u>	2年位		
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法を	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーショ						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義·演習	Macとアプリの適正使用できるようにする	Macの適正使用、ファイル管理を出来るようにする振り返りと自習
2		講義·演習	セッション作成、セッション管理できるようにする	個人でセッションを作成、保存
3		講義·演習	ウインドウ構成、トランスポートを理解する	ウインドウ構成、トランスポートを理解する振り返りと自習
4		講義·演習	各種モードを理解する	各種モードを理解する振り返りと自習
5		講義·演習	各種ツールを理解する	各種ツールを理解する振り返りと自習
6		講義·演習	録音用トラックセッティングをできるようにする	録音用トラックセッティングをできるようにする振り返りと自習
7		講義·演習	セッションに音を取り込めるようにする	セッションに音を取り込めるようにする振り返りと自習
8		講義·演習	簡単な録音、編集をできるようにする	個人で録音セッションのセッティングを行う
9		講義·演習	トラックの構成、グループ管理などの機能を理解する	トラックの構成、ミックス機能を理解する振り返りと自習
10		講義·演習	ラフミックスを実際に行い、機能を理解する	課題曲を使用して個人でミックス作業を行う
11		講義·演習	プレイリストによるテイクの管理を理解する	レポート提出
12		講義·演習	MIDI機能の初段階を理解する	MIDI機能の初段階を理解する振り返りと自習
13		講義∙演習	新規セッションからダビングまでのセッティング実技	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		留 時間外学習 ************************************		

科目名	ProTools(2) (ProTools Basic(2))	必修 選択	選択	年次	1	. 切	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 - 形態 ^{講義}		総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	八竹茄件
教員の略歴							<u> </u>
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義と演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の 振り返りと自習
3		講義と演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の 振り返りと自習
4		講義と演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の 振り返りと自習
5		講義と演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の 振り返りと自習
6		講義と演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義と演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義と演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義と演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義と演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義と演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義と演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の 振り返りと自習
13		試験	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	ProTools(2) (ProTools Advance (2))	必修 選択	選択	年次	1	切尘数昌	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	八个)希中
教員の略歴	日本ノングログ 「竹○十冊」 空間間				74-12		
授業の学習 内容	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的	業界の録音標準のアプリProToolsを、より実践的技術とスピードでオペレーションできるようにする					
到達目標	プリプロ段階からマスタングまでの音楽制作におい	いてProToolsを	テフル活用し、	プロと同等の	クオリティーで	で仕上げられる	ようにする
評価方法と基準	1)実技判定)60% 2)出席率40% プロレベルのスピード、正確性、クオリティーでのF	ProToolsセッシ	rョンのオペレ·	ーションで出羽	そるようにする		

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	Voの高度なPitchEditの完結	VoPitchEdit完了のセッション作成
2		講義·演習	ラフミックスとShortVerのファイルを最速で作成出来るようにする	個人でマルチEDITのセッションを作成口
3		講義·演習	プリプロから楽曲完パケまでのプロセスを理解する	個人でMIDIを使用したセッションを作成
4		講義∙演習	実際にゲストを呼んで、プリプロを完結できるようにする	個人でMIDIを使用したセッションを作成・添削・修正
5		講義∙演習	プリプロから本録音へのブラッシュアップを理解する	個人でMIDIを使用したセッションを作成・添削・修正
6		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
7		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
8		講義∙演習	ゲストを呼んで本録音を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
9		講義∙演習	ネットワーク上での共同制作プロセスを理解する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
10		講義∙演習	実際にネットワークでの共同制作を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
11		講義∙演習	実際にネットワークでの共同制作を実践する	作家データをセッションに反映させたセッション提出
12		講義∙演習	本録音からの完パケ作業を実践する	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
13		講義∙演習	完パケマスターおよび各用途ファイル作成の実技	個人でVoエディットセッション作成・添削・修正
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	ProTools(2) (ProTools 101(2))	必修 選択	選択	年次	1	. 切	大村 嘉伸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	世当教員	八竹茄甲
教員の略歴							
授業の学習 内容	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法	業界録音標準のアプリProToolsの機能と使用方法をマスターする					
到達目標	録音実習過程と並行してProToolsの機能とオペレ	ーション方法	を理解し、留ま	₹る事なくオペ	レート出来る。	ようにする	
評価方法と基準	1)配布資料の補足レポート40% 2)定期テスト(リ ProToolsでの録音、編集の基礎となるオペレーシ:						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と演習	ミックス時におけるプラグインを理解する	ミックス時におけるプラグインの振り返りと自習
2		講義と演習	サブグループ等高度なルーティン構成を理解する	サブグループ等高度なルーティン構成の 振り返りと自習
3		講義と演習	マスターレベルのコントロール仕上げ方を理解する	マスターレベルのコントロール仕上げ方の 振り返りと自習
4		講義と演習	実際にミックスを仕上げ、File化できるようにする	実際にミックスを仕上げ、File化の 振り返りと自習
5		講義と演習	Voトラックのコンピング機能を理解する	Voトラックのコンピング機能の 振り返りと自習
6		講義と演習	Voトラックのコンピングを出来るようにする	Voトラックのコンピングの振り返りと自習
7		講義と演習	2Mixでの編集プロセス、手法を理解する	2Mixでの編集プロセス、手法の振り返りと自習
8		講義と演習	実際にサイズ編集してFile完成させる	実際にサイズ編集してFileを作成する
9		講義と演習	テンポ検出を理解する	テンポ検出の振り返りと自習
10		講義と演習	テンポ管理、テンポ変更プロセスを理解する	テンポ管理、テンポ変更プロセスの振り返りと自習
11		講義と演習	キーの変更手順を理解する	キーの変更手順の振り返りと自習
12		講義と演習	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成実技	テンポ、キーを管理したダビングセッション作成の 振り返りと自習
13		試験	Voダビングができる整合性の取れたセッションを完成する	これまでの授業を通じて学んだポイントをポートフォリオとしてまとめる
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Ableton Advance (1)	必修 選択	選択	年次	1	切出数昌	阿瀬 文彦
₩ 7.1 ±-L	**************************************	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	門/棋 又彡
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	11218		(年位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton Liveの使用法の学習。						
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習行	える。					
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	起動方法からLiveの初期設定、基本概念と特徴、PA現場での具体的な活用方法	授業内容の復習
2		講義	Ableton Liveセッションビューについて	セッションビューについて復習
3		講義	Ableton Liveアレンジメントビューについて	アレンジメントビューについて復習
4		講義	Ableton LiveのWarpモードでの各パラメーターの特性	授業で学んだ特性について復習
5		講義	舞台を想定したポン出しの仕込み1	仕込みと手順について復習1
6		講義	舞台を想定したポン出しの仕込み2	仕込みと手順について復習2
7		講義	MIDIコントローラーの設定と操作	設定と操作について復習
8		講義	ライブ・コンサートでのマニピュレート技術を学習	授業内容の復習
9		講義	ライブ・コンサートでのオケの仕込み	授業内容の復習
10		講義	演者のイヤモニへ送るクリック・トラックの作成とルーティングを学習	授業内容の復習
11		講義	ライブ・トラックのサイズや構成の変更を学習	授業内容の復習
12		講義	内蔵エフェクトについて学習	授業で紹介した各エフェクトについて復習
13		試験	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容を復習
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Ableton Advance (2)	必修 選択	選択	年次	1	. 切	阿瀬 文彦
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	門根 人区
教員の略歴	日本ノングラン 「竹○十冊」 空間間				2412		
授業の学習 内容	コンサートや舞台などの現場を想定したAbleton Liveの使用法の学習。						
到達目標	・PA現場で必須となっているAbleton Liveのオペレ・現場でのLiveセットの仕込みをスピーディーに行・オーディオトラック、MIDIトラックの編集技術を習行	える。					
評価方法と基準	定期テスト(実技試験:70%) 出席率30%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・実習	Ableton Liveでのオーディオレコーディング実習	授業内容の復習
2		講義·実習	前回の授業でレコーディングしたオーディオ素材のエディット作業	学習したエディット方法の復習
3		講義·実習	Ableton Liveでマルチマイクで収録したドラム素材のミックス処理	学習したミックスの復習
4		講義·実習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習1	授業で配布したデータの確認と整理1
5		講義·実習	Ableton Liveでの楽曲パラデータを使用してのミックスを学習2	授業で配布したデータの確認と整理2
6		講義·実習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習1	授業内容の復習
7		講義·実習	MIDIトラックでの基本的な打ち込みを学習2	授業内容の復習
8		講義·実習	Ableton Live内蔵サンプラーの学習	授業内容の復習
9		講義·実習	Ableton Live内蔵シンセサイザーの学習	授業内容の復習
10		講義·実習	Ableton Liveのグルーブクオンタイズについて学習	オーディオのクオンタイズについて復習
11		講義·実習	サンプルエディタを使用したオーディオのタイミング補正を学習	タイミング補正について復習
12		講義·実習	セッションビューを使用してのライブパフォーマンス。素材仕込み	授業で作成したデータの整理
13		試験	実技試験	試験で作成したLiveセットを再度確認し内容をしっかり復習する
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	B 時間外学習		

科目名	Self accompaniment (3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	大渡 亮
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	八版
教員の略歴						=	
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試み 授業進行状況により作詞作曲のディレクション	プコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 受業進行状況により作詞作曲のディレクション					
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演習 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)	奏技術					

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	講義1年間の説明。 生徒のプレイアビリティ診断。	資料をもとに予習・復習・練習を要する
2		講義・演習	アコースティックギターに必要な道具の紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
3		講義·演習	作成した資料を用いてローポジションでのコード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
4		講義·演習	3コード紹介	資料をもとに予習・復習・練習を要する
5		講義・演習	ダイアトニックコード紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
6		講義・演習	ストローク紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
7		講義·演習	カポタスト使用方法や目的を説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
8		講義・演習	アルペジオ奏法を紹介、説明	資料をもとに予習・復習・練習を要する
9		講義・演習	指弾きについて1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
10		講義・演習	指弾きについて2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
11		講義・演習	選択した楽曲演奏1	資料をもとに予習・復習・練習を要する
12		講義・演習	選択した楽曲演奏2	資料をもとに予習・復習・練習を要する
13		講義・演習	選択した楽曲演奏3	資料をもとに予習・復習・練習を要する
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

teamsにて共有

科目名	Self Accompaniment (4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	十歩 点
₩51 ±-L	호 호 = 5 / - ** - 5 / - 6 / - 1 -	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	八波 元
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	117 ibs		(40)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	アコースティックギターを使用して自己表現を試みるシンガーソングライターをサポート 授業進行状況により作詞作曲のディレクション						
到達目標	自信を持って自作曲を表現できるようにする						
評価方法と基準	弾き語りに必要とされるアコースティックギターの演習 平常点(受講姿勢、復習状況、出席率)	奏技術					

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践、確認動画でチェックする。
2		演習	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践する。	歌唱時のフォームを意識しパフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
3		演習	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
4		演習	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践できる。	リズム+グルーブを意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
5		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
6		演習	パフォーマンスの緩急を表現できる	パフォーマンスの緩急を表現確認動画でチェックする。
7		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
8		演習	共鳴(頭部)について理解し実践できる。	共鳴(頭部)について理解し実践確認動画でチェックする。
9		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
10		演習	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践できる	共鳴を意識した歌唱パフォーマンスが実践確認動画でチェックする。
11		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
12		演習	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践できる	自分で付けた振り付けに合わせて、歌唱パフォーマンスを実践確認動画でチェックする。
13		演習	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践する	歌唱パフォーマンスのクオリティを高める実践確認動画でチェックする。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	引 時間外学習		

科目名	Lyrics(1)	必修 選択	選択	年次	2	. 扣坐 <u>粉</u> 昌	脇阪 真由
₩11 ±+L	*** = L / - \	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	励似 具田
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルグには		(辛四)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	既存曲の分析を通して、作詞に必要な知識、スキ	既存曲の分析を通して、作詞に必要な知識、スキルを養うとともに、エクササイズを通したアウトプットで演習を重ねる。					
到達目標	オーディエンスに効果的に伝わる作詞ができるように	こなること。					
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20,	点の100点満点	点にて評価				

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	作詞とは?まずは自分の好きな歌詞を分析することで、何が自分の心を掴んだか、人の心を掴むのかを理解しよう。	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
2		講義・演習	テキスト第1章 作詞に必要な要素とは1 &タイトルとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
3		講義・演習	テキスト第1章 作詞に必要な要素とは2 &歌詞の最初の一行からわかること	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
4		講義・演習	テキスト第2章 作詞効果的な単語の使い方	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
5		講義・演習	テキスト第2章 作詞効果的な単語の使い方2 言いたい内容を別の効果的な	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
6		講義・演習	テキスト第3章 印象的なワンフレーズとは?自分の好きな歌詞を分析して、何が人の心を揺むのかを理解しよう。	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
7		講義・演習	テキスト第3章 テキストの内容を踏まえて実際に印象的なワンフレーズを考えてアウトブットしてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
8		講義・演習	テキスト第4章 楽曲の構成 AB, AABA, ABCなど様々な曲の構成と働きを理解	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
9		講義・演習	テキスト第4章 効果的なAメロとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
10		講義・演習	テキスト第4章 効果的なBメロとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
11		講義・演習	テキスト第4章 効果的なサビとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
12		講義・演習	アウトプット1実際にあるメロディーに対して歌詞を書いてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
13		講義・演習	アウトプット1実際にあるメロディーに対して歌詞を書いてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
		引 時間外学習					

15秒作詞入門

科目名	Lyrics(2)	必修 選択	選択	年次	2	. 扣坐 <u>粉</u> 昌	脇阪 真由
쓰다 보다	호텔트 5 John Hamm	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	励似 具田
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	112 iS		(平位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	既存曲の分析を通して、作詞に必要な知識、スキ	既存曲の分析を通して、作詞に必要な知識、スキルを養うとともに、エクササイズを通したアウトプットで演習を重ねる。					
到達目標	オーディエンスに効果的に伝わる作詞ができるように	こなること。					
評価方法と基準	授業出席率 40点、課題提出 40点、毎週の達成 20月	点の100点満点	気にて評価				

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	作詞とは?まずは自分の好きな歌詞を分析することで、何が自分の心を掴んだか、人の心を掴むのかを理解しよう。	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
2		講義・演習	テキスト第1章 作詞に必要な要素とは1 &タイトルとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
3		講義・演習	テキスト第1章 作詞に必要な要素とは2 &歌詞の最初の一行からわかること	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
4		講義・演習	テキスト第2章 作詞効果的な単語の使い方	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
5		講義・演習	テキスト第2章 作詞効果的な単語の使い方2 言いたい内容を別の効果的な	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
6		講義・演習	テキスト第3章 印象的なワンフレーズとは?自分の好きな歌詞を分析して、何が人の心を握むのかを理解しよう。	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
7		講義・演習	テキスト第3章 テキストの内容を踏まえて実際に印象的なワンフレーズを考えてアウトブットしてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
8		講義・演習	テキスト第4章 楽曲の構成 AB, AABA, ABCなど様々な曲の構成と働きを理解	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
9		講義・演習	テキスト第4章 効果的なAメロとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
10		講義・演習	テキスト第4章 効果的なBメロとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
11		講義・演習	テキスト第4章 効果的なサビとは	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
12		講義・演習	アウトプット1実際にあるメロディーに対して歌詞を書いてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
13		講義・演習	アウトプット1実際にあるメロディーに対して歌詞を書いてみよう	資料をもとに予習・復習・練習を要する			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
		引 時間外学習					

15秒作詞入門

科目名	オーケストレーション(1)	必修 選択	選択	年次	3	· 担当教員	十贯和幻
W 7.1 -		授業 形態	講義	総時間(単位)	60	担ヨ教貝	人貝和和
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	心思		(単位)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	2年時に履修した「インストゥルメンテーション」で学習した管弦打楽器の各種楽器についての理解をもとに、1年を通してビッグバンドとオーケストラのためのラージアンサンブルのための書法、そしてDAWでの制作における生楽器とサウンドデザイン(シンセや様々なFX)の素材とのハイブリッドな音の構造にも領域を広げていきます。前期では主にポップスやジャズにおけるブラスアンサンブル(2管編成〜ビッグバンドまで)のスコアをひもときながら、基礎的な書法を学習し自己の作編曲作品にいかしていきます。						
到達目標	各種金管楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 小編成(2~5管編成)のブラスアレンジができる。 ビッグバンドの基礎的な書法の理解があり、簡単なアレンジができる。						
評価方法と基準	-1)定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。	今後の授業の予定とガイダンス。インストゥルメンテーションとの違い、オーケストレーションの意義の確認。振り返りと自習		
2		講義	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サックス各種の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。	コードとスケールの理論、トランペット、トロンボーン、サックス各種 の楽器法、リズムセクションの書法をスコアで確認。振り返りと自習		
3		講義	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾン による楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。	ユニゾンとハーモニーについて考察。ユニゾン、オクターブユニゾン による楽器の重なりから音色の変化を感じ取ることができる。振り 返りと自習		
4		講義	ハーモニーについての考察① 2~3管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。	ハーモニーについての考察① 2~3管編成におけるアレンジのバリ エーションと、ボイシングの理解がある。振り返りと自習		
5		講義	ハーモニーについての考察② 4~5管編成におけるアレンジのバリエーションと、ボイシングの理解がある。	ハーモニーについての考察② 4~5管編成におけるアレンジのバリ エーションと、ボイシングの理解がある。振り返りと自習		
6		講義	ビッグパンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトランペットセクションの書法について考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習		
7		講義	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。 そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるトロンボーンセクションの書法について考察。 そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習		
8		講義	ビッグパンドにおける8ブラス(トランペットとトロンボーン)について 考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグパンドにおける8ブラス(トランペットとトロンボーン)について 考察。そのアレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返り と自習		
9		講義	ビッグパンドにおけるサックスセクションの書法について考察。その アレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグパンドにおけるサックスセクションの書法について考察。その アレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習		
10		講義	ビッグパンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。その アレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。	ビッグバンドにおけるフルアンサンブルの書法について考察。その アレンジ、ボイシングについて基礎理解がある。振り返りと自習		
11		講義	スコアリーディング① ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。	スコアリーディング① ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。振り返りと自習		
12		講義	スコアリーディング② ビッグバンドの作品分析、そのアレンジやボイシングについて理解がある。	試験準備		
13		試験	これまで学習したビッグバンドの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	テスト		
14		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	¹ 時間外学習				
【使月	【使用教科書·教材·参考書】					

科目名	オーケストレーション (2)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態			60 4単位	担当教員	八貝和北
教員の略歴							
授業の学習 内容	前期に学習したブラスアンサンブルの知識と ときながら、オーケストレーションの基礎的な ジャンルにおいてDAWでのハイブリッドなオー	書法を学習	するととも	こ、ポップス	、劇版、サワ	ウンドデザイ	
到達目標	木管楽器と弦楽器、打楽器の特性、アーティキュレーションについて理解がある。 コードネームから様々なボイシングと、メロディラインを作る知識がある。 オーケストラの書法について基礎的な理解があり、譜面を書くことができる。 DAWでのオーケストラサウンド、サウンドデザイン要素とのハイブリッドな作品を制作できる。						
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。	クラシック、フィルムスコア、サウンドデザインの作品をひもときながら、オーケストレーションの意義と学習についてディスカッション。 振り返りと自習		
2		講義	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。	弦楽器各種の楽器法についてふりかえり、書法をスコアで確認。振 り返りと自習		
3		講義	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサ ウンドの分析ができる。	弦楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとにサ ウンドの分析ができる。振り返りと自習		
4		講義	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける 書法をスコアで確認。	金管楽器各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける 書法をスコアで確認。振り返りと自習		
5		講義	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとに サウンドの分析ができる。	金管楽器のボイシング、アレンジについて考察、その理解をもとに サウンドの分析ができる。振り返りと自習		
6		講義	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。	パーカッション各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法をスコアで確認。振り返りと自習		
7		講義	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	パーカッションのアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習		
8		講義	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法 をスコアで確認。	木管各種の楽器法についてふりかえり、オーケストラにおける書法 をスコアで確認。振り返りと自習		
9		講義	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。	木管楽器のアレンジについて考察、その理解をもとにサウンドの分析ができる。振り返りと自習		
10		講義	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。	サウンドデザインの考察① 生楽器以外のシンセやサウンドFXの 素材について知識と理解があり、曲中でのサウンド分析ができる。 振り返りと自習		
11		講義	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。	サウンドデザインの考察② オーケストラサウンドとサウンドデザイン素材とのハイブリッドなサウンドの分析ができる。振り返りと自習		
12		講義	サウンドデザインの考察③ サウンドデザインの素材のみで作られたトラックの分析ができる。	試験準備		
13		試験	これまで学習したオーケストラの基礎的な処方について確認する試験を実施するとともに、アレンジ作品の提出。	テスト		
14		講義•実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義·実習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	時間外学習				
【使月	【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	サウンドプロデュース(1)	必修 選択	選択	年次	3	切尘数昌	今関 邦裕
学科, 東佐	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	担ヨ教貝	ラぼ が俗
学科·専攻 数員の略歴	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	712 72.		(4単位		
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点から アドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を る。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽由 広げる。	由が伝えたい	事を作り手のご	立場になって−	-・制作者に <i>な</i>	る。楽曲が持	つ可能性を
評価方法と基準	1)授業態度·姿勢100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	スタジオワークでの作法① ミックスルーティングの作り方①	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	スタジオワークでの作法② ミックスルーティングの作り方②	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 2	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践3	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	マスタリング基礎	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	マスタリング応用	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 4	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 5	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 6	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践7	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践8	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 9	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		引 時間外学習		

科目名	サウンドプロデュース(2)	必修 選択	選択	年次	3	扣 业数号	今関 邦裕
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担ヨ教貝	ラぼ が俗
教員の略歴	日末アクノログー行3千両 昼间即				4年位		
授業の学習 内容	ミキシングの基礎知識、応用、ミキシングの観点から アドバイス、実演を交えてミキシングによる伝え方を る。						
到達目標	楽曲の在り方をミキシングの視点から感じる。 楽曲 広げる。	目が伝えたいる	事を作り手のご	∑場になって−	・・制作者にな	る。楽曲が持	つ可能性を
評価方法と基準	1)授業態度·姿勢100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 0	授業内で扱うためのパラデータ作成
2		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 1	授業内で扱うためのパラデータ作成
3		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 2	授業内で扱うためのパラデータ作成
4		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 3	授業内で扱うためのパラデータ作成
5		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 4	授業内で扱うためのパラデータ作成
6		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 5	授業内で扱うためのパラデータ作成
7		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 6	授業内で扱うためのパラデータ作成
8		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 7	授業内で扱うためのパラデータ作成
9		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 8	授業内で扱うためのパラデータ作成
10		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践 1 9	授業内で扱うためのパラデータ作成
11		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践20	授業内で扱うためのパラデータ作成
12		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践21	授業内で扱うためのパラデータ作成
13		講義・演習	ミキシングの応用技術習得・実践22	授業内で扱うためのパラデータ作成
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		明明外学習		

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作(1)	必修 選択	選択	年次	3	扣业 数号	野崎 貴潤
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120 8単位	担当教員	野啊 貝川
教員の略歴	日末 / / / ロノ 170 年前 昼间印				0年位	<u> </u>	
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として, 現実に近いまる様に力をつける	環境・形態で	₹, 限りなくこ	プロクォリティ	化近い音楽	楽アルバム制	制作を出来
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール を発揮できる	√作成・ミュ-	ージシャン争	*注等を総合	さした「トーク	タルプロデュ	ース」のカ
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:50%、作品提出:5	0%)					

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		実習•演習	テーマ決定・チーム編成	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
2		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
3		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
4		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
5		実習·演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
6		実習·演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
7		実習·演習	10分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
8		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
9		実習·演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
10		実習·演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
11		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
12		実習•演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
13		試験	20分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備			
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	[」] 時間外学習	余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・	授業外のスケジューリングを心がける			
【使月	【使用教科書·教材·参考書】						

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作(2)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
24대	文学 = 4 , 中学 - 4 , 6 , 7 , 11 , 日 日 中	授業 形態	演習	総時間 (単位)	120	担当教員	野剛 貝川
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルグには		(年位)	8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	三年間の学習の総決算として, 現実に近いまる様に力をつける	環境・形態で	き, 限りなくつ	プロクォリティ	イに近い音導	楽アルバム(制作を出来
到達目標	自分達でサウンドプロデュース・スケジュール を発揮できる	√作成・ミユ−	ージシャン勇	&注等を総合	さした「トーク	タルプロデュ	ース」のカ
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:50%、作品提出:5	0%)					

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	30分以上のアレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
2		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
3		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
4		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
5		演習	40分以上の全アレンジ・レコーディング・編集済み作品提出	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
6		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
7		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
8		演習	ミキシング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
9		演習	全作品ミキシング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
10		演習	テーマに沿った楽曲制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
11		演習	マスタリング	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
12		演習	全作品マスタリング済み作品提出及び確認	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
13		演習	ジャケット・パッケージ制作	スケジュール通りに授業で進行しなかった作業を行う・スケジュールに先行した制作の準備
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	時間外学習	余裕を持った作成環境を作る為に、効率的な授業・	授業外のスケジューリングを心がける
【使月	用教科書・	教材·参考書】		

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作(2)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
		授業	演習	総時間	120	担当教員	封剛 貝川
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	形態		(単位)	8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場で役立つ応用まで1年かけて身につけていく。 Microsoftの検定を取れるようにするのではなく、あくまでも業界でよく使われたり役立つ部分に特化して即戦力を目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須となっており、またその求められるレベルは年々上がってきています。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアにも対応が求められるため、習得すべきスキルは多いのですが、エレタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率よく習得できるように授業は進めていきます。						
到達目標	(1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、計算式)を身につける。 (2)PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 (3)Wordの基本的な使い方を身につける。					
評価方法と基準	1. レポート提出(%): 50% 2. 筆記課題(%): 50%						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	WindowsとMacの違いを理解する。 ショートカットキーが使えるようになる。	キーボード配列を覚える。ショートカットを覚える。		
2		講義	【Excel】罫線について、表の作り方を理解する。	セルの仕組みを覚え、エクセルの基本操作を覚えること を目標に提示した課題の表を作成する。		
3		講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの横軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。		
4		講義	【Excel】表の作り方/タイムテーブルの縦軸が作成出来るようになる。	授業内課題を30分以内で作れることを目標に提示した課題の表を作成する。		
5		講義	【Excel】表と計算式/動員集計表を理解する。	計算式の仕組みを覚えることを目標に提示した課題の表 を作成する。		
6		講義	【Excel】表と計算式/動員集計表が作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に 提示した課題の表を作成する。。		
7		講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表から数字を理解出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示 した課題の表を作成する。。		
8		講義	【Excel】表と計算式/売り上げ管理表を理解する。作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示 した課題の表を作成する。		
9		講義	【Excel】表と計算式/テストの平均点を理解し、作成出来るようになる。	授業内で扱った数式の仕組みを覚えることを目標に提示 した課題の表を作成する。		
10		講義	【Excel】表と計算式/予算表を作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に 提示した課題の表を作成する。		
11		講義	【Excel】表と計算式/請求書を作成出来るようになる。	授業内課題を45分以内で作れるようにすることを目標に 提示した課題の表を作成する。		
12		講義	【Excel】図形描画/イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	造形描画の種類と使いかたを覚えることを目標に提示した課題の図形を作成する。		
13		講義	【Excel】図形描画/イベントシートとステージ簡易図面が作成出来るようになる。	授業内課題を60分以内で作れるようにすることを目標に 提示した課題の表を作成する。		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	[」] 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時	に確認。		
【使月	【使用教科書·教材·参考書】					

科目名	音楽デジタルコンテンツ制作(2)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	野崎 貴潤
		授業	演習	総時間	120	担当软具	되며 옷세
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	Excelを中心に基本的な使い方から、現場でMicrosoftの検定を取れるようにするのではた目指してスキルを身に付けます。 現在の就職におけるパソコンスキルは必須はす。テクノロジーの進化と最新のソフトウェアンタメ業界で働く上で最低限のスキルを効率	ょく、あくまて ∸なっており にも対応が	・も業界でよ 、またその3 求められる	く使われた 求められるし ため、習得・	り役立つ部 レベルは年 すべきスキ	々上がってき	きていま
到達目標	(1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、	以下の3点が達成出来るようになることを目標としている。 (1)Excelの基本的な使い方(表のデザイン、計算式)を身につける。 (2)PowerPointの基本的な使い方を身につけプレゼンテーションスキルを上げる。 (3)Wordの基本的な使い方を身につける。					
評価方法と基準	1. レポート提出(%): 50% 2. 筆記課題(%): 50%						

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	【PowerPoint】PPの基本仕様、Word、Excelとの互換性を理解する	スライド3枚で自分のお気に入り紹介資料を作成する。		
2		演習	【PowerPoint】スライドマスタを理解し、用途に合ったスタイルを使用することが出来る	スライドマスタを理解して、マスタを5種類作る。		
3		演習	【PowerPoint】挿入出来る種類の図と挿入方法を理解して、プロフィールシートを作成する	授業内で作ったプロフィールシート以外で1種類作る。		
4		演習	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成:スライドを理解し、設定出来るようになる	これまで作成した資料をスライド設定させる。		
5		演習	【PowerPoint】プレゼンテーション資料の作成: アニメーションを理解し、効果的に設定できるようになる	これまで作成した資料にアニメーションを加える。		
6		演習	【Excel】作業工程表の作成が出来るようになる	授業内課題に取りかかるにあたり作業行程表を作成する。		
7		演習	【Word】段組、文字の回り込みを理解し、プレゼンテーション原稿を作成する	Wordの基本的な仕組みを復習るすることを目的に新聞を 作成する。		
8		実習	これまで学んだ総まとめとしてプレゼンテーション資料(原稿・アニメーション付)を作成する	次回プレゼンテーション発表が出来るように練習してお く。		
9		実習	PC設定も自身で行い、プレゼンテーションを発表する	他人の発表を見てどのパワーポイントが効果的に伝わったかを考察し800字以内で提出。		
10		演習	PowerPointとExcel·Word全てのソフトを使用し自己紹介を行うための資料を作成する。	次回の発表に向けて準備を行う。		
11		実習	PowerPointとExcel・Word全てのソフトを使用し自己紹介の発表を行う。	他人の発表を見てどの資料が効果的に伝わったかを考察し800字以内で提出。		
12		演習	【PowerPoint】進級制作展を校内宣伝するための資料を作成する	資料を基に各校舎教職員に確認してもらい校内放送して もらう。		
13		実習	【PowerPoint】進級制作展で使用するサイン・チケットのデザインを作成する。	作成したデザインを本番日に使用する		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	· 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時	に確認。		
【使月	【使用教科書·教材·参考書】					

科目名	コンサート演出研究(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
学到 東佐		授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	世ヨ教貝	眉痒仔
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	71276		(十四/	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情 柔軟な思考を育てる。 1)最先端のコンサート演出、情報を知る。 2)最先端の情報の収集が出来るようになる。 3)海外コンサートの実態を知る。	青の歴史を知	り、考察するこ	とで、新しいコ	コンサートを作	きるための	
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることだ	ができるスタッ	フを目指す。				
評価方法と基準	1. 実技試験(%):50% 2. 課題提出(%):50%						

			授業計画·内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義	最先端コンサートに興味を持とう	最先端のコンサートについて復習レポート を作成。		
2		講義	4/19-21のコーチェラフェスティバルを振り 返る	コーチェラフェスティバルについて調べて レポートを作成。		
3		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう1995-2004、2022	レポートを作成。 近代コンサートについて調べてレボートを 作成。		
4		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2005-2013、2021	近代コンサートについて調べてレポートを 作成。		
5		講義	NFL Superbowl Halftime Showで近代コンサートを見てみよう2014-2020	近代コンサートについて調べてレポートを 作成。		
6		講義	コンサートとは何か?なぜ行うのか?を考える。 える	授業内容について復習レポートを作成。		
7		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有 (1)	オススメコンサートの資料を準備する。		
8		講義	U2を中心に近代の演出考察	U2というバンドについて調べてレポート を作成。		
9		講義	BrunoMars/2017-2018 TOURを中心に近代の 演出考察	BrunoMarというバンドについて調べてレポートを作成。		
10		講義	みんなのオススメコンサート演出の共有 (2)	オススメコンサートの資料を準備する。		
11		講義	海外フェス演出	海外フェスについて調べてレポートを作 成。		
12		講義	イベントスタッフとして演出を学ぶ①	イベントの演出についてレポートを作成。		
13		講義	イベントスタッフとして演出を学ぶ②	イベントの演出についてレポートを作成。		
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出		
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出		
	準備学習	3 時間外学習	授業に向けて事前調べと資料の準何	帯、授業内容の復習レポートを作成。		
【使田						

科目名	コンサート演出研究(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤淳
₩51 ±-4	立立 = 5 / - 2 - 3 - 5 / - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60	担当教具	冶净净
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルン心		(牛匠)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	海外の最先端コンサート情報と近代コンサート事情新しいコンサートを作るための柔軟な思考を育てる1)最先端のコンサート演出、情報を知る。2)最先端の情報の収集が出来るようになる。3)海外コンサートの実態を知る。		り、考察するこ	ことで、			
到達目標	最先端のコンサートを知ることで、未来を創ることだ	ができるスタッ	フを目指す。				
評価方法と基準	1. 実技試験(%):50% 2. 課題提出(%):50%						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	現在のアメリカコンサート事情	現在のアメリカコンサート事情について復習レポートを作成。			
2		講義	Drake/2018、the carters/2018、Travis Scott/2019などHIP-HOP	HIP-HOPについて調べてレポートを作成。			
3		講義	THIS IS ITでMichel Jacksonを知る	Michel Jacksonについて調べてレポートを作成。			
4		講義	INTER BEE見学(開催日によって前後あり)	INTER BEEを調べてレポートを作成。			
5		講義	MADONNA、JanetなどのGIRL'S POPクラシック	MADONNA、 Janet			
6		講義	Areana、Katy、Taylor、GagaなどのGIRL'S POP最先端	Areana、Katy、Taylor、Gaga			
7		講義	IDOL(日本除く)コンサート	IDOL(日本除く)コンサート			
8		講義	コンサート機材最新情報(Lighting & Sound Americaを使用)	コンサート機材最新情報			
9		講義	オリンピック開会式演出(平昌2018、日本2021)	オリンピック開会式演出(平昌2018、日本2021)			
10		講義	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション	オリンピック開会式演出(リオ2016、平昌2018)、リオ東京プレゼンテーション			
11		講義	最新コンサート情報についての考察(1)	授業内容の復習レポートを作成。			
12		講義	最新コンサート情報についての考察(2)	授業内容の復習レポートを作成。			
13		試験	Superbowl 振り返り。復習試験。	Superbowl についてレポートを作成。			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習	授業に向けて事前調べと資料の準値	帯、授業内容の復習レポートを作成。			

科目名	舞台知識 (5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	水見博
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	小元诗
教員の略歴		9-				=	
授業の学習 内容	劇場や舞台の機構、使用する物の名称や使い方 必要と思われる基本的な知識を身につける。	、仕事の段取	りなど舞台のイ	仕事を行ってし	- V上で		
到達目標	学生は、舞台を制作していく上で必要な基本的事他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスク				こ入っても		
評価方法と基準	レポート課題提出 30% 筆記による舞台知識を測る期末試験の得点で 評	価 70%					

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台用語を習得する。	習った舞台用語を復習し、覚える。
2		講義	劇場/舞台という空間についての知識を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
3		講義	劇場やホールの種類と形状を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
4		講義	搬入・搬出方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	吊りものの種類を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
6		講義	吊り方の理論を習得する。	舞台平面図にバトン位置を記入する
7		講義	照明卓の操作方法を習得する。	舞台断面図に照明バトンを記入する
8		講義	幕の吊りものの種類を取得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
9		講義	幕の吊り方・照明のシュートの作業方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	緞帳の操作方法を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
11		講義	舞台道具(箱馬・平台)の説明や使い方を習得する。	平台、箱馬などを図面化する
12		講義	舞台道具(トラス・バトン)の説明や使い方を習得する。	本日の授業を基に出された課題を提出する。
13		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り	組む。次回の授業時に確認。

「ステージ・PA・照明用語辞典」 リットーミュージック

科目名	舞台知識 (6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	水見博
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	小兄 母
教員の略歴	日末ナクノロン一行3千両 昼间叩			,,,,,,,,	4年位		
授業の学習 内容	運営・制作以外の裏方の仕事の段取りなど舞台の仕事を行っていく上で必要と思われる基本的な知識を身につける。						
到達目標	舞台を制作していく上で必要な基本的事柄を学習 他のスタッフとコミュニケーションを円滑に行いスク				ŧ		
評価方法と基準	舞台知識を問う課題提出 30% 知識を活かし、進級制作展への積極的な参加によ 円滑に出来たかを演習を通して評価 70%	ちり、コミュニク	・―ションを図「	り仕事が			

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	舞台装置の種類と効果を習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
2		講義	舞台美術で使用する道具について習得する	教室の平面図を作成する
3		講義	舞台の空間認識について習得する	舞台美術を自分自身でプランする
4		講義	舞台の寸法・縮尺の知識について習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
5		講義	舞台で使用する図の解釈と使用方法を習得する	教室の平面図を作成する
6		講義	舞台の流れ(段取り・音響の流れに関して)を習得する	PAエンジニアから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
7		講義	音響が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
8		講義	舞台の流れ(段取り・照明の流れに関して)	照明スタッフから「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
9		講義	照明が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
10		講義	舞台の流れ(段取り・舞台監督の流れに関して)	舞台制作から「明日への扉」時の流れを聞きれポートにて提出
11		講義	舞台監督が実際に使う機材を時間の流れに沿って習得する	本日の授業を基に出された課題を提出する。
12		講義	筆記復習テスト	試験にて出来なかった部分を復習する。
13		講義	進級制作展で使用する実際の図面や資料を見て流れを舞台の流れを習得する。	進級制作展の図面資料を元にレポートの作成。
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り	組む。次回の授業時に確認。

「ステージ・PA・照明用語辞典」リットーミュージック

科目名	K-POP ビジネス(5)	必修 選択	選択		3	担当教員	片桐豊
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	刀侧豆
教員の略歴	日本///・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				2412		
授業の学習 内容	K-POPビジネス及びファンクラブ、音楽業界の基础	楚知識を学び、	、実習を通して	「即戦力となる	人材育成を行	テうカリキュラノ	۵.
到達目標	ファンクラブのビジネス構造を述べることができる。 Excelを使用したユーザー分析ができ、会員数増減		てることができ	ే .			
評価方法と基準	授業中や出されるレポート/ワークシートによってタ	並績を判定し る	ます。				

	授業計画•内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	ガイダンス	アンケート提出			
2		講義	K-POP業界の基本構造と特徴(1)	ワークシート提出			
3		講義	K-POP業界の基本構造と特徴(2)	ワークシート提出			
4		講義・演習	アーティスト研究(1)	プレゼン準備			
5		講義・演習	アーティスト研究(2)	プレゼン準備			
6		講義・演習	アーティスト研究(3)	ワークシート提出			
7		講義	ファンクラブの基本構造(1)	レポート			
8		講義	ファンクラブの基本構造(2)	レポート			
9		講義	ファンクラブの基本構造(3)	レポート			
10		講義・演習	ユーザー分析 (1)	ワークシート提出			
11		講義・演習	ユーザー分析 (2)	ワークシート提出			
12		講義・演習	ユーザー新規獲得と継続維持(1)	プレゼン準備			
13		講義・演習	ユーザー新規獲得と継続維持(2)	プレゼン準備			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習	授業内容について征	复習レポートを作成。			

科目名	K-POP ビジネス(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	片桐豊
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	기 1번호
教員の略歴							
授業の学習 内容	K-POPビジネス及びファンクラブ、音楽業界の基础	楚知識を学び、	、実習を通して	「即戦力となる	人材育成を行	テうカリキュラノ	<i>ن</i> ه.
到達目標	新規獲得や継続促進の戦略をたてることができる コンテンツ提供を通して企画書を作成、ライティン 情報によるトラブルを予想し未然に防ぐことができ	グなどのコンラ					
評価方法と基準	授業中や出されるレポート/ワークシートによってタ	或績を判定し る	ます。				

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	ファンクラブ研究(1)	プレゼン準備			
2		講義・演習	ファンクラブ研究(2)	プレゼン準備			
3		講義・演習	ファンクラブ研究(3)	ワークシート提出			
4		講義・演習	ライティング(1)	ワークシート提出			
5		演習	ライティング(2)	ワークシート提出			
6		演習	ライティング(3)	レポート			
7		講義・演習	アーティストプロモーション活動とFCの違いと共栄(1)	プレゼン準備			
8		講義・演習	アーティストプロモーション活動とFCの違いと共栄(2)	レポート			
9		講義	WEBサイトの構造	レポート			
10		講義・演習	取材用企画書~実行するまでのアクション(1)	ワークシート提出			
11		演習	取材用企画書~実行するまでのアクション(2)	ワークシート提出			
12		講義・演習	撮影基本(1)	ワークシート提出			
13		講義・演習	撮影基本(2)	ワークシート提出			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習	授業内容について征	复習レポートを作成。			

科目名	VT advance(1)	必修 選択	選択必修	年次	2	担当教員	吉田 華奈 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	但日扒員	元不 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
教員の略歴			•				•
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力か 表現に繋げていけるようにする。	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの	0応用と活用力	7法を習得し実	足践できるよう	になる。		
評価方法と基準	実技による採点100%						

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを実践 できる口	音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディーを動画 チェック				
2		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェックする				
3		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェック				
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする				
5		演習	高度な歌唱→4分音符のメロディ—C ~Gまでを歌い実践で きる。	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い動画チェックす る				
6		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディ—C~Aを歌い動画 チェックする				
7		演習	高度な歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディ—C~Aを歌い動画 チェックする				
8		演習	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上のC までを歌い動画チェックする				
9		演習	高度な歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上 のC までを歌い動画チェックする				
10		演習		歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌 い動画チェックする				
11		演習	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌 い動画チェックする				
12		演習	アカペラアンサンブルを学び実践できる口	アカペラアンサンブルを動画チェックする				
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる				
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出				
	準備学習	冒 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自	目習を行いまたチェックする、週4時間をかける。				
【佑田教利主·教材·参考主】								

科目名	VT advance(2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	吉田 華奈 橋元 美沙 近原 淳博 荒木 美帆
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	元不 近野 飛暁 榎畑 孝一 相澤 ななみ
教員の略歴							
授業の学習 内容	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力か 表現に繋げていけるようにする。	ヴォーカリストで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではヴォーカリスにおける応用とそのスキルを学び、実際に 長現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの	音楽業界で活躍していく為に必要なヴォーカリストの応用と活用方法を習得し実践できるようになる。					
評価方法と基準	実技による採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習		音符、休符の長さの説明。簡単なリズムとメロディー を動画チェック
2		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェックする
3		演習	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを歌う	歌唱→4分音符のメロディーC~Fまでを動画チェック
4		演習	メロディーC~Gまでを歌い実践できる。	メロディーC~Gまでを動画チェックする
5		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い実践できる。	歌唱→4分音符のメロディーC ~Gまでを歌い動画 チェックする
6		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC ~Aを歌い実践できる。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動画チェックする
7		演習	高度な歌唱歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC ~Aを歌い実践できる。。	歌唱→4分音符・2分音符のメロディーC~Aを歌い動 画チェックする
8		演習		全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上のC までを歌い動画チェックする
9		演習	高度な歌唱歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→全音符・2分音符・付点2分音符のメロディーC 〜上のC までを歌い動画チェックする
10		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C 〜上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディ―C ~上のC までを歌い動画チェックする
11		演習	高度な歌唱歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い実践できる。	歌唱→タイ・8分音符を含めたメロディーC ~上のC までを歌い動画チェックする
12		演習	高度な歌唱アカペラアンサンブルを学び実践できる	アカペラアンサンブルを動画チェックする
13		演習	試験	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	3 時間外学習	ヴォーカルに必要なスキルの習得するための自	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	Broadway seminar advance(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	旅遊	日寿
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	1 担当教員	戸豚	千甘
教員の略歴							•	
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が』 現に繋げていけるようにする。	ュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける基礎とそのスキルを学び、実際に表 記に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に必要なジ基礎とその	スキルを習得	と実践できる	ようになる。				
評価方法と基準	実技による採点100%							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		演習	イントネーションテクニックをを理解し実践でき る。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめ る。
6		演習	即興演奏の基礎を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		演習	リード曲のミュージカル研究を理解し実践でき る。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまと める。
8		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		演習	ポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		演習	ポエムで発声のやり方を理解し実践できる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめる。
11		演習	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	B 時間外学習	ミュージカルで必要なスキルの習得するための	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	Broadway seminar advance(1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	旅遊	日寿
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4	1 担当教員	戸 歴	千甘
教員の略歴								
授業の学習 内容	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が劇現に繋げていけるようにする。	ミュージカルで活躍していく為には幅広い表現力が必要となる。本講義ではミュージカルにおける応用とそのスキルを学び、実際に表 見に繋げていけるようにする。						
到達目標	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを	ミュージカルで活躍していく為に応用とそのスキルを習得し実践できるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%							

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
2		演習	高度なイントネーションテクニックを理解し実践 できる。	イントネーションテクニックを理解し理解し動画にまとめる。
3		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
4		演習	より深いポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
5		演習	より深いポエムで発声のやり方を理解し実践で きる。	ポエムで発声のやり方を理解し動画にまとめ る。
6		演習	高度な即興演奏を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。
7		演習	高度なリード曲のミュージカル研究を理解し実 践できる。	リード曲のミュージカル研究を理解し動画にまとめる。
8		演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解 し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
9		演習	応用のポエムを理解し実践できる。	ポエムを理解し動画にまとめる。
10		演習	応用のポエムで発声のやり方を理解し実践でき る。	る。
11		演習	応用のストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解 し実践できる。	ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
12		演習	より高度な即興演奏を理解し実践できる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し実践できる。	即興演奏の基礎を理解し動画にまとめる。 ストレッチ、ダンスのリズム、発声を理解し動画にまとめる。
13		演習	発表会の流れで練習し実践する。	これまでの動画を確認し、成果をレポートにまとめる
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	留 時間外学習	ミュージカルで必要なスキルの習得するための	自習を行いまたチェックする、週4時間をかける。

科目名	Vocal Reading (1)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷	臸
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担当教員	飛台	依
教員の略歴						<u> </u>		
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き	楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピが	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技と筆記よる採点100%	実技と筆記よる採点100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B b メジャースケールについて説明できる。	B b メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールと コード進行について説明できる。	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールと コード進行復習レポート作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コードについて説明できる。	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	D マイナースケールについて説明できる。 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について説明できる。。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験と復習	種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	B 時間外学習	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間

科目名	Vocal Reading (2)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	熊谷	琻
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	担ヨ教員	熊 台	饿
教員の略歴							1	
授業の学習 内容	音楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読 曲を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き	楽業界でステップアップしていく為には、楽譜を読み初見で歌う能力、聴こえる音の分析能力が必要となる。本講義では、実際に楽を聴き、聴こえる音やリズムを正しく五線紙に書き記す事ができるよう訓練し、現場で即戦力となる人材を育成する。						
到達目標	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピが	楽譜を初見で演奏できるようになり、さらに耳コピができるようになる。						
評価方法と基準	実技による採点100%							

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
2		講義	コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程	G メジャースケール(1) コードシンボルとコードサウンド、分散和音と音程復習レポート作成
3		講義	G メジャースケールについて説明できる。	G メジャースケール復習レポート作成
4		講義	B♭メジャースケールについて説明できる。	B♭メジャースケール復習レポート作成
5		講義	B♭メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行について説 明できる。	B b メジャースケール(2) メジャーダイアトニックスケールとコード進行復習レポー ト作成
6		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
7		講義	A マイナースケールについて説明できる。	A マイナースケール復習レポート作成
8		講義	中間試験及び中間課題の提出。	中間試験及び中間課題準備
9		講義	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コードについて説明できる。	A b メジャースケール。メジャーキーでのノンダイアトニック コード復習レポート作成
10		講義	E マイナースケールについて説明できる。	E マイナースケール復習レポート作成
11		講義	D メジャースケールについて説明できる。 E b メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニーについて説明できる。	D メジャースケール復習レポート作成 Eb メジャースケール。 マイナーダイアトニックハーモニー復習レポート作成
12		講義	Dマイナースケールについて説明できる。]種々の調、音階、拍子記号、リズムによる練習について 説明できる。	D マイナースケール復習レポート作成 種々の調、音階、拍子記号、リズムによる復習レポート作成
13		講義	期末試験及び期末課題の提出。	期末課題の提出。
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
		る 時間外学習 お・参考書 N	聴力、音感に関するスキル習得。	準備復習研究時間として週4時間

科目名	Inst Ensemble A (3) (Piano Duo (1))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2	1 担当教員	熊谷穰
教員の略歴							
授業の学習 内容		音楽業界で活躍していく為には、ピアノと歌のアンサンブルを重点的に学ぶことが望まししい。本講義ではいくつかのピアノパターン こあわせた歌唱法を学び表現に繋げていけるようにする。					
到達目標	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスを	音楽業界で活躍していく為に必要なアンサンブルスキルを習得し実践できる。					
評価方法と基準	実技による採点100%						

	授業計画・内容							
回数 日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)					
1	演習	POPSリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
2	演習	POPSリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
3	演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
4	演習	JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
5	演習	ROCKリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
6	演習	ROCKリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
7	演習	サンバ系リズムにあわせた表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。					
8	演習	サンバ系リズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。					
9	演習	フリーのリズムを感じながらの表現法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
10	演習	フリーのリズムを感じながらのアドリブ法を習得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
11	演習	JAZZリズムにあわせた表現法を習得し実践できる。 JAZZリズムにあわせたアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。					
12	演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる					
13	演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成					
14	講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出					
15	講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出					
準備等	学習 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間					

科目名	Inst Ensemble A (4) (Piano Duo (2))	必修 選択	選択	年次	2	担当教員	橋元 美沙 田原 佑一朗
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2		熊谷 穣
教員の略歴							
授業の学習 内容	リズム、ボリューム、コミュニケーション、曲の構成な	ど、演奏を通り	してアンサンフ	「ルカを育てる)		
到達目標	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。	譜面を見ながら演奏もしくは歌唱できるようになる。					
評価方法と基準	実技試験100%						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	POPSリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
2		演習	POPSリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	POPSリズムにあわせた歌を復習し実演する。
3		演習	JAZZリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
4		演習	JAZZリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実 践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
5		演習	ROCKリズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
6		演習	ROCKリズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	ROCKリズムにあわせた歌を復習し実演する。
7		演習	サンバ系リズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
8		演習	サンバ系リズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し 実践できる。	サンバ系リズムにあわせた歌を復習し実演する。
9		演習	フリーのリズムを感じながらの高度な表現法を習得し 実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
10		演習	フリーのリズムを感じながらの高度なアドリブ法を習 得し実践できる。	フリーのリズムにあわせた歌を復習し実演する。
11		演習	JAZZIJズムにあわせた高度な表現法を習得し実践できる。 JAZZIJズムにあわせた高度なアドリブ法を習得し実践できる。	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。
12		演習	JAZZリズムにあわせた高度な高度なアドリブ法を習得し実践できる。 歌からスタートする高度な音楽を学び実践できる	JAZZリズムにあわせた歌を復習し実演する。 歌からスタートする音楽を学び実践できる
13		演習	試験と復習	1-12をまとめてレポート作成
14		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	イベント・実践を通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	引 時間外学習	アンサンブルカを身につける、リズムを	とよくするための繰り返し練習、週4時間

科目名	作編曲法BASIC (1)	必修 選択 授業 形態 講義		年次 1,2		· 担当教員	森谷 諭
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一			総時間 (単位)	30 2単位		林竹 副
教員の略歴							
授業の学習 内容	毎外でも通用するプロデューサーとしての力を身につけるため、海外で広く使用されている Ableton LiveおよびPushの操作方法を学び、作曲能力や楽曲のアレンジカを養う。 また、様々なレコーディング方法の習得を通して、柔軟なトラックメイク能力を養い、 セルフプロデュース力を向上させる。						
到達目標	Ableton Live及びPushの基本的な操作ができる。 AudioとMIDIを駆使したトラックメイクができる。 インターネット上に自分の楽曲のアップロードができる。 楽曲アレンジの幅を広げる。						
評価方法と基準	筆記または実技によるテスト						

	授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義∙演習	オリエンテーション	資料の振り返りを行う		
2		講義∙演習	Ableton Liveを学ぶ	資料の振り返りを行う		
3		講義∙演習	Audio Sampleを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
4		講義∙演習	Audio Sampleを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
5		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
6		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
7		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
8		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
9		講義∙演習	リズムの取り方	資料の振り返りを行う		
10		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
11		講義∙演習	Ableton Pushを使ったビートメイク	資料の振り返りを行う		
12		講義∙演習	前期課程の復習	資料の振り返りを行う		
13		講義∙演習	定期試験	資料の振り返りを行う		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
7 AL -		留 時間外学習 材・参考書】	資料の振り)返りを行う		

科目名	作編曲法BASIC (2)	授業		年次	1,2	担当教員	森谷 諭
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一			総時間 (単位)	30 2単位	113,550	林竹棚
教員の略歴							
授業の学習 内容	海外でも通用するプロデューサーとしての力を身につけるため、海外で広く使用されている Ableton LiveおよびPushの操作方法を学び、作曲能力や楽曲のアレンジ力を養う。 また、様々なレコーディング方法の習得を通して、柔軟なトラックメイク能力を養い、 セルフプロデュース力を向上させる。						
到達目標	Ableton Live及びPushの基本的な操作ができる。 AudioとMIDIを駆使したトラックメイクができる。 インターネット上に自分の楽曲のアップロードができる。 楽曲アレンジの幅を広げる。						
評価方法と基準	筆記または実技によるテスト						

	授業計画・内容					
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義∙演習	楽曲のアレンジを学ぶ	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
2		講義∙演習	楽曲のアレンジを学ぶ	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
3		講義∙演習	フィールドレコーディングに挑戦	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
4		講義∙演習	フィールドレコーディングに挑戦	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
5		講義∙演習	フィールドレコーディングに挑戦	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
6		講義∙演習	チームを組んで楽曲制作	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
7		講義∙演習	チームを組んで楽曲制作	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
8		講義∙演習	テーマに沿った楽曲制作	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
9		講義∙演習	テーマに沿った楽曲制作	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
10		講義∙演習	オーディションに挑戦してみよう	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
11		講義∙演習	オーディションに挑戦してみよう	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
12		講義∙演習	オーディションに挑戦してみよう	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
13		講義∙演習	定期試験	取り組んでいる課題に対しての研究を行う		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
		る 時間外学習 お・参考書 N	取り組んでいる課題	に対しての研究を行う		

科目名	Digital Foundation(3)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員		雅敏
₩51 ± -1-	호텔트 5 Joseph C C C C C C C C C C C C C C C C C C C	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	増田	祐生
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	11218		(年位)	2単位			
教員の略歴								
授業の学習 内容	この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識	t会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 の科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 i義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(^	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(レタッチ中心) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(ベジェ曲線操作、デザイン中心) STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(web)の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点							

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明】macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法
2		講義∙演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイム テーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作方法
3		講義∙演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作(ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡縮、新規作成、保存)【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールバー、 パレットなど基本操作方法
4		講義·演習	【A.】基本操作 選択、図形、パウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ソール、スタイライズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化、ペジェ曲線、スウオッチ、模様、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法
5		講義∙演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法
6		講義∙演習	[Ai]配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。(コンセプト〜ラフ作成・色理解〜提案〜レイアウトデザイン〜ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベントフライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。
7		講義∙演習	[Ps][Ai]写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習:イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。
8		講義∙演習	[Ps][Ai]写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン~ブラッシュアップ) よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF
9		講義∙演習	[Ps][Ai]オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINEクリエーターズマーケットへ登録する。
10		講義∙演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できる データ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商用に利用できるものの検索方法とDL方法
11		講義∙演習	【STUDIO】自身のボートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像 と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういう点がポイントになる のか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。
12		講義∙演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レタッチ、保存形式指定など下準備を整える。
13		講義∙演習	ポートフォリオ サイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学	習 時間外	学習	定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデ	ザインなどを見て、自分の好みをよく考える

科目名	Digital Foundation(4)	必修 選択	選択	年次	2	担当教員		雅敏
₩51 ± -1-	호성 = 5 /o.º 5/o.c.tu 모델 현	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	増田	祐生
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ルンに		(平位)	2単位			
教員の略歴								
授業の学習 内容	この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識	t会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 の科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 i義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(^	Macを自由に扱えるようになる。履修者全員がデジタルポートフォリオを所持できるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。(レタッチ中心) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。(ベジェ曲線操作、デザイン中心) STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ(web)の運営ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点							

			授業計画•内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義∙演習	Keynote基本操作理解。文字入力、サイズ、アニメーション Keynote(自己紹介PPT)を使用して資料を作成しプレゼンする	【事前動画説明]macの基本操作方法 Keynoteの機能説明と基本操作方法
2		講義∙演習	ワードエクセル基本操作理解。ワード(ビジネス文章)/エクセル(タイム テーブル)提出 優秀資料のプレゼン発表する	【事前動画説明】Word(文書作成)、Excel(表の作成、表計算)の操作方法
3		講義∙演習	PhotoshopとIllustratorの違いを文字入力で理解、基本操作(ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡縮、新規作成、保存)【Ai】図形	【事前動画説明】PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールバー、 パレットなど基本操作方法
4		講義∙演習	【Ai】基本操作 選択、図形、パウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ツール、スタイライズ、パスファインダ、整列、テキスト入力、グルーブ化、ペジェ曲線、スウォッチ、模核、グラデーション	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法
5		講義∙演習	【Ps】レタッチと保存方法。画像変形、写真補正、カラーモード、解像度、フォーマット	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法
6		講義∙演習	[Ai]配置画像を用いたフライヤーデザイン、クリッピングマスク、目を引くデザインとは何か。(コンセプト〜ラフ作成・色理解〜提案〜レイアウトデザイン〜ブラッシュアップ)	【事前動画説明】センスを身につけるために見てほしいものの解説。イベントフライヤーやアーティストサイトのデザイン紹介と解説。好きなデザイン画像やURL、フライヤーや雑誌、グッズなどを収集する。
7		講義∙演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたフライヤー作成。イベントのロゴマーク	【事前動画説明】ロゴ制作の操作方法 演習:イベントロゴ案を授業前に数種類考えておく。
8		講義∙演習	[Ps][Ai]写真を複数用いたフライヤー作成(レイアウトデザイン~ブラッシュアップ)よいデザイン、正確なデータ作成とは何かを考えて仕上げる	【事前動画説明】入稿方法。作成したフライヤーデータを印刷会社に入稿できるデータに整える。画像形式、データ名、トリムマーク、PDF
9		講義∙演習	【Ps】【Ai】オリジナルのLINEスタンプ作成、Psでの描画表現、Aiのブラシツール、アートボード、保存形式を指定して書き出し	【事前動画説明】LINEスタンプの登録方法。事前にLINEスタンプをLINEクリエーターズマーケットへ登録する。
10		講義∙演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイト作成の基礎。SNSアイコン等に使用できるデータ作成。リサイズ、フォーマット、商用利用可能素材。	【事前動画説明】素材の著作権について。いらすとやの素材など、商用に利用できるものの検索方法とDL方法
11		講義∙演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。TOP画像 と初回授業で作成した自己紹介Keynoteの更新、素材を集める。	【事前動画説明】ポートフォリオサイトの紹介。どういう点がポイントになるのか、どのような機能が使用されているかを解説、操作方法。
12		講義∙演習	【STUDIO】サイトの構成を考え、用意した素材を利用して作成し、完成させる。	【事前動画説明】ポートフォリオの中に入れる写真や動画の選定、レタッチ、保存形式指定など下準備を整える。
13		講義∙演習	ポートフォリオ サイトの提出 到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。 【事後動画説明】テスト正解解説
14		講義·演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
準備学	習 時間外	学習	定期的にメディアやサイト、店舗で雑誌のデザイン、CDのデ	ザインなどを見て、自分の好みをよく考える

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer(1)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	競 紀行
学科・コース		授業 形態	講義・実習・演習	総時間 (単位)	120	但当教員	ጆፓ ጥር ነ ነ
子件•1-7	音楽テクノロジー科3年制 昼間部ー	712 723		(8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロ ②レコーディングエンジニアとして求められるスピィーデスタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、	ィーな録音技術	トトや、クリエィティ	ブなサウンドメ			
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、レコーディングエンジニアとして必要なスピィーディーなオペレート能力及びサウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽プロデューサーとしての考え方、視点、音楽制作能力なども身に付けることを目標とする。						
評価方法と基準	1) 定期テスト(筆記30% 実技70%)						

			授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義と実習	レコーディングプロダクションについて	レコーディングプロダクションについて、振り返りレポート作成。			
2		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ドラムレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。			
3		講義と実習	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングパランスおよびProToolsオペレートの習得	ドラムレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返り レポート作成。			
4		講義と実習	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ベースレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。			
5		講義と実習	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングパランスおよびProToolsオペレートの習得	ベースレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。			
6		講義と実習	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ギターレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。			
7		講義と実習	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ギターレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返り レボート作成。			
8		講義と実習	キーポードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	キーポードについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。			
9		講義と実習	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	キーボードについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返り レポート作成。			
10		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解	ヴォーカルレコーディングについて ・マイキング、位相、レベリング/イコライジングの理解、振り返りレポート作成。			
11		講義と実習	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングバランスおよびProToolsオペレートの習得	ヴォーカルレコーディングについて ・実践を通じて、モニタリングパランスおよびProToolsオペレートの習得、振り返りレポート作成。			
12		講義と実習	パンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクション ワークを遂行する。	パンドレコーディングについて ・実践を通じてこれまでのエンジニアリング技術を発揮しながらプロダクション ワークを遂行する。、振り返りレポート作成。			
13		試験	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、パンドレコーディ ングを実践。実技試験を行う。	メイン及びアシスタントエンジニアをロールプレイングしながら、パンドレコーディングを実践。実技試験を行う。、振り返りレポート作成。			
14		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成 について、ビッグパンドのレコーディング技術について	ミュージカルのライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成 について、ビッグパンドのレコーディング技術について振り返りと自習			
15		講義と演習	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について	ミュージカルのライブレコーディングセッションの編集と管理について 振り返りと自習			
	準備学習	[]] 時間外学習					
【使日	【使用教科書・教材・参考書】						

科目名	MusicProductionTechniques for EngineerProducer(2)	必修 選択	選択	年次	2,3	- 切 少 数 吕	競 紀行
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態		総時間 (単位)	120 8単位	担ヨ教貝	兄 市C1 J
教員の略歴							
授業の学習 内容	①音楽制作に於けるレコーディング及びミキシングプロダ ②レコーディングエンジニアとして求められるスピィーディスタジオワークを通じた共同作業によるチームワーク、コミ	-な録音技術や.	、クリエィティブな				
到達目標	①現場を想定した様々なスタジオワークを通じて、L ウンドメイクを身に付ける。 ②レコーディングエンジニアとしてだけでなく、音楽フ 目標とする。						
評価方法と基準	1)定期テスト(筆記30% 実技70%)						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義と実習	ミックスプロダクションについて	
2		講義と実習	アナログ機材とブラグインについて ・エフェクターの機械構造及びブラグインとの差異について	
3		講義と実習	DSPフォーマットとNativeフォーマットの仕組みと性質について	
4		講義と実習	ドラムのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ドラムの課題素材に基づいて復習
5		講義と実習	ベースのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ベースの課題素材に基づいて復習
6		講義と実習	ギターのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ギターの課題素材に基づいて復習
7		講義と実習	キーボードのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	キーボードの課題素材に基づいて復習
8		講義と実習	ヴォーカルのミックス処理について ・楽曲ジャンル及び素材に適したダイナミクス、EQ、空間処理の理解と実践	ヴォーカルの課題素材に基づいて復習
9		講義と実習	ミックスパランス及びトータル処理について① ・リファレンスレベルとダイナミクスについて、マスターEQ、COMPの概念と処理について	課題素材を元に時間外にて復習
10		講義と実習	ミックスパランス及びトータル処理について② ・音楽的ミックスとオートメーションについて	課題素材を元に時間外にて復習
11		講義と実習	マスタリングの基本概念とプロダクションについて	
12		講義と実習	マスタリングに於けるダイナミクス処理について	課題素材を元に時間外にて復習
13		テスト	ミックス及びマスタリングプロダクションについて学んだことを活かし、プロデューサー的 視点と感性の元、課題曲のミックス及びマスタリング作品を提出	ポートフォリオ作成
14		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングのシステム構築及びProToolsセッション作成につ いて	卒業進級制作のライブレコーディングに向けたシステム構築及び ProToolsセッション作成について 振り返りと自習
15		講義と演習	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理について	卒業進級制作のライブレコーディングセッションの編集と管理につ いて 振り返りと自習
	準備学習	時間外学習		
【使用	目教科書・	教材·参考書】		

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(1)	必修 選択	選択	年次	2,3	→ 担当教員	多田彰文
		授業	演習	総時間	30	担ヨ教貝	多田彰又
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、 しっかりと理解できていますか?ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか? これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう! な&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端 技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・ ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なの ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつけ	ックス知識・エフかを知る → 1 ・ で は 様 様 インタ	フェクターの活用 音楽というもの <i>0</i>	月方法(補正的が)基礎を理解し、	から積極的なも 、自身の作品へ	のまで)	
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○各自の楽曲音源提出(早期段階での提出の形をとります ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます	·)					

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		概要•講義	前期の概要説明 ~ 作曲共同実践1	わからないことは何かを考えておく
2		講義∙演習	課題音源提出の説明 ~ 作曲共同実践2	最新制作音源を準備しておく
3		講義∙演習	作曲におけるメロディーとコード(和音)の関係性	音楽理論などはあらかじめ復習しておく
4		講義∙演習	編曲共同実践1	レポート提出
5		講義∙演習	編曲共同実践2	レポート提出
6		講義∙演習	編曲の基本説明	レポート提出
7		講義∙演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing)1	作曲編曲の作業準備
8		講義∙演習	作曲と編曲の共同作業(Co-Writing)2	作曲編曲の作業準備
9		講義∙演習	録音についての説明と実習1	実習のレポートと課題提出
10		講義∙演習	録音についての説明と実習2	実習のレポートと課題提出
11		講義∙演習	AI作曲の導入と制作	制作準備
12		講義∙演習	歌声合成ソフト比較研究	レポート提出
13		講義•演習	前期まとめ	レポート提出
14		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	各課題に	取り組む

ミュージックセオリー(TSM音楽理論書)/多田作成「MIXDOWN作業のポイント」

科目名	音楽総合教育実践ゼミ(2)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	多田彰文
		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担ヨ教員	多田钐人
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形忠		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	学生たちの「わからない」を解決し、高みを目指す授業内容 年次必修でもあり、音楽制作に重要な「音楽理論」にはじまり、「DAW」「作曲・編曲」「生楽器知識」「スタジオ録音」「ミックス」など、 っかりと理解できていますか?ひょっとして、自身がいま「何をわかっていないか」がわからなくて、困っていたりしませんか? これらを補完する内容として、学生たちが現時点でまだ理解できていない部分を授業で一緒に解決していきましょう! 1&A形式による楽曲共同制作(Co-Writing)、生楽器スタジオ録音&ディレクション実習、音楽ジャンルやヒット曲の解析、音楽最先端 技術(AI作曲・サウンドメイク・歌声合成ソフト活用)なども取り入れる予定。必要に応じ、個別でのカウンセリング(相談)にも応じます。						
到達目標	☆耳を鍛える ☆音を知る ☆楽器を知る → 音の知識・ ☆音場や空間を知る ☆録音方法を知る → 音響知識・ ☆時代背景を知る ☆ジャンルを知る ☆なぜヒット曲なの ☆発信とセルフプロデュース能力を養う → 配信動画の作 上記を総合し、卒業後に向かう音楽業界への即戦力をつけ	ックス知識・エフかを知る → 1 ・ で は 様 様 インタ	フェクターの活用 音楽というもの <i>0</i>	月方法(補正的な)基礎を理解し、	いら積極的なも 自身の作品へ	のまで)	
評価方法と基準	○出席率重視(学校規定出席率) ○提出小論文(感想文ではありません) A4用紙 800字以内 課題例:「音楽制作における音楽理論の有効性につい ☆そのほか、各学生の進捗度も常にチェックしていきます						

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		概要∙講義	後期の概要説明~楽曲制作共同作業1	わからないことは何かを考えておく
2		講義∙演習	課題小論文提出の説明~ヒット曲の解析	レポート提出
3		講義∙演習	楽曲制作共同作業2	レポート提出
4		講義∙演習	楽曲制作共同作業3	レポート提出
5		講義∙演習	楽曲制作共同作業4	レポート提出
6		講義∙演習	配信の知識とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
7		講義∙演習	配信動画の作成とセルフプロデュース	撮影のためのVisualセルフチェック
8		講義∙演習	模擬インタビュー	撮影のためのVisualセルフチェック
9		講義∙演習	録音実習3	実習準備
10		講義∙演習	録音実習4	実習準備
11		講義∙演習	録音実習5	実習準備
12		講義∙演習	業界へのアピール方法と結果の出し方	レポート提出
13		講義•演習	後期まとめ	レポート提出
14		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	各課題に	取り組む

ミュージックセオリー(TSM音楽理論書)/多田作成「MIXDOWN作業のポイント」

科目名	韓国語(1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	本羊垢
	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	子天畑
教員の略歴			<u> </u>				
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、②読解より実用的なコミュニケーションができ ③教科書で勉強したものを生かして活用でき	るように話す	ナカを身につ	ける	したり発表で	する	
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せる。 ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないように						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)作文20% 3)スピーチ	-20%					

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	自己紹介&個人目標設定	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	ハングルの理解を深める	文字書いて読める復習を行う
3		講義・発表	教科書の勉強	ワークブックで復習
4		講義・発表	リスニング練習・ペアで話す練習	好きな勉強法で楽しく復習
5		講義・発表	発音をよく聞いてマネする	繰り返して聞いてマネする
6		講義·発表	韓国の地図・文化を知る	教科書の内容を復習
7		講義·発表	友達・趣味・関心事について	作文を練習
8		講義·発表	将来・食べ物について	考えて作文を書く
9		講義·発表	否定·賛成表現	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	一人ずつ発表	自分の声を録音
11		講義·発表	形容詞·過去形 未来形·可能形	出来事について書く 将来やりたいことを考える
12		講義・発表	作文・スピーチ	テスト準備
13		講義・発表	応用練習	日記を書く
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		時間外学習	反復練習を通	して身につける

できる韓国語初級1, 2 CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	韓国語(2)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	本羊瓶
	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	子天畑
教員の略歴							
授業の学習 内容	①ハングルの理解、発音、読み、聞き、作文、②読解より実用的なコミュニケーションができ ③教科書で勉強したものを生かして活用でき	るように話す	ナカを身につ	ける	したり発表で	する	
到達目標	①日常会話が可能になること ②必要な韓国語を身につけて気軽に話せる。 ③抵抗感、違和感、恐怖心を持たないように						
評価方法と基準	1)定期テスト60% 2)作文20% 3)スピーチ	-20%					

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	自己紹介&個人目標設定	ハングルの復習を行う
2		講義・発表	ハングルの理解を深める	文字書いて読める復習を行う
3		講義・発表	教科書の勉強	ワークブックで復習
4		講義・発表	リスニング練習・ペアで話す練習	好きな勉強法で楽しく復習
5		講義・発表	発音をよく聞いてマネする	繰り返して聞いてマネする
6		講義·発表	韓国の地図・文化を知る	教科書の内容を復習
7		講義·発表	友達・趣味・関心事について	作文を練習
8		講義·発表	将来・食べ物について	考えて作文を書く
9		講義·発表	否定·賛成表現	日常に使える表現を調べる
10		講義・発表	一人ずつ発表	自分の声を録音
11		講義·発表	形容詞·過去形 未来形·可能形	出来事について書く 将来やりたいことを考える
12		講義・発表	作文・スピーチ	テスト準備
13		講義・発表	応用練習	日記を書く
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
		時間外学習	反復練習を通	して身につける

できる韓国語初級1, 2 CD付、ワークブック、プリント、ゴロで覚える韓国語、ビジュアル韓国語、韓国語講座

科目名	Global communication(1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	池末 信
₩51 ± -1-	호선 - 5 / - 10 / 10 / 10 / 10 PR 40	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	心不 16
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	117.63		(+12)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流軸	易でなくても意	思疎通を図ろ	うとする「姿勢	」を身につけ	გ.	
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報に ポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることがで	ついて、質問る		たりできる。会	話相手がゆっ	っくり、はっきり	と話して、サ
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	be 動詞(am. are)を使って自己紹介(国籍や出身)する、または出身地を 尋ねる会話を練習、疑問代名詞[What]を使って、自分の個人情報を相手に 伝え、また相手の情報を聞く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
2		講義·発表	ホテルにチェックインする際の会話を練習する、個人的な経歴等のプロフィールを読む・書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
3		講義·発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「パーティで新しい人に出会う」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
4		講義・発表	be動詞を使って、家族構成について話す、be動詞の否定文を使って、 友達や家族について説明する	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
5		講義・発表	年齢や誕生日について聞く、話す、写真に写っている友達のことについて 話す、友達についての紹介文を書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「友達や家族についての情報を比較する」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
7		講義·発表	名詞の所有を表す[s] と[s]を使って、自分の家について話す、[it is]を使って、家具について話す、	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
8		講義・発表	飲み物やお菓子を提供する、受け取る際の会話を練習する、分からない単語について質問する、ホームシェアについてのEメールのやり取りを読む、または、そのEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
9		講義・発表	・ 削州先衣 ⊂ 連則 9 る内谷	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
10		講義・発表	一般動詞「現在形」を使って、お気に入りの物について話す、一般動詞の 「現在形」の疑問文を使って、どのようにテクノロジーを使用しているの かを話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
11		講義·発表	コミニケーション手段について話す、相手の話を聞いていることを示す、商品の レビューを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
12		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「異なる週の活動について比較する」 ・前期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
13		講義・発表	「現在形」肯定文、否定文を使って、平日、週末の行動について話す、 「現在形」疑問文を使って、時間・自分のルーティン(日課)について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
14		講義∙演習	相手の意見に賛成したり、相手と共通していることを伝える表現を練習する、自 分の行動についてのレポートを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
15		講義∙演習	Time to Speak:前期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む
	準備学習	B 時間外学習		して身につける

EVOLVE 1

科目名	Global communication(2)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	池末 信
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	担当教員	心木 16
教員の略歴	日末アグロン一行3千刷 昼间印				2年位		
授業の学習 内容	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流戦	外国人を前に怖がったり恥ずかしがったりせず、流暢でなくても意思疎通を図ろうとする「姿勢」を身につける。					
到達目標	よく使われる日常的表現と基本的な言い回しを理解 自分や他人を紹介することができ、個人的な情報に ポートをしてくれるなら簡単なやり取りをすることがで	ついて、質問る		たりできる。会	話相手がゆっ	いくり、はっきり	と話して、サ
評価方法と基準	定期テスト(筆記100%)による採点						

授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義·発表	「現在進行形」肯定文を使って、家事や自宅での行動について話す 「現在進行形」疑問文を使って、旅行について質問する、または答える	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
2		講義・発表	電話で情報を共有する会話を練習する、今起こっていることについてのブログを読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
3		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「最近の生活について」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
4		講義・発表	[Can / Can't] (能力) を使って、自分の能力や才能について話す [Can / Can't] (可能性) を使って、職場や学校でできること、できない ことについて話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
5		講義·発表	自分が何故その仕事の適任者なのか、説明するための表現を練習する、インターネット上で自分の考えをコメントする	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
6		講義・発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「自国民が何が得意かについて」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
7		講義·発表	[this] と [these]を使って、休暇、旅行について話す [like to, want to, need to, have to]を使って、旅行計画を立てる	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
8		講義·発表	お店でいろいろな情報を聞く時の表現を使って、会話する 場所についての説明を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
9		講義·発表	ロールプレイ・プレゼンテーション「休暇の計画をたてる」 ・後期発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
10		講義·発表	[be going to]を使って、週末のアウトドア(野外)ブランについて話す、[be going to](疑問文)を使って、異なる様々な旅で何を着るかについて話し合う	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
11		講義·発表	タ方出かける計画を提案するなど、相手を誘う時の表現を練習する オンラインでの招待状を読む、書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
12		講義·発表	ロールプレイ・ブレゼンテーション「自分の町での楽しい週末を計画する」・後期 発表と連動する内容	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
13		講義·発表	be動詞の過去形[was / were]の肯定文と否定文を使って、過去における人物、 場所、物について話す、be動詞の過去形[was / were]の疑問文を使って、記憶 にある色について話す	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
14		講義·演習	自分の記憶を表現し、映画、俳優について話す 過去の思い出として保管している物についてEメールを書く	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
15		講義·演習	Time to Speak:後期発表	オンデマンド動画を視聴し、課題に取り組む		
	準備学習	冒 時間外学習	反復練習を通			

EVOLVE 1

科目名	日本語講座(1)	必修 選択	選択	年次	1,2	担当教員	神田智子
쓰지 호카	7 7 5 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10 10	授業 形態	実習	総時間 (単位)	30	担当教員	作四百丁
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	117.63		(+12)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	* 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業で働くことをイメージできるようにします。また日本語	日本国内での就職・デビュー活動に必要な日本語能力を養います。 * 前期は、日本の就職活動の概要理解、業界・企業・職種研究、企業担当者やOB・OG訪問、インターンシップ準備などを行い、日本で働くことをイメージできるようにします。また日本語能力試験の対策を行います。 * 後期は、日本語能力試験対策及び、就職・デビューに関わる面接対策等を行います。					
到達目標	1. 日本の企業や業界について理解する。 2. OB・OG訪問やインターンシップを通じて日本での 3. 日本語で履歴書が書けるようになる。 4. 面接に対応できる日本語力やビジネスマナーを身 5. 日本語能力試験N1への合格、または同等の日本	引に付ける。		体的なイメージ	ジを掴む。		
評価方法と基準	毎回の授業で出される課題(提出物、口頭発表)とf (1)論理性 (2)独自性 (3)正確性 (4)表現力 (5)意 の観点から評価		験について、				

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	日本の就職・デビュー活動の概要	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
2		講義·発表	履歴書①基本情報の書き方	〈準備〉学歴、資格取得年月の整理
3		講義·発表	業界研究 調査①	業界の自主研究及び資料作成
4		講義・発表	業界研究 調査②	業界の自主研究及び資料作成
5		講義∙発表	企業研究 調査① 好きなアーティストの所属先	企業の自主研究及び資料作成
6		講義·発表	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	企業の自主研究及び資料作成
7		講義•発表	N1の試験についての心構え~ 例題①	〈課題〉資料作成
8		講義∙発表	レベルチェックテスト(20~30分)テスト答え合わせ解説 NI 状況状態に関する語彙	建前、矛盾 チームワークなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題 宿題
9		講義∙発表	NI文法 導入文型 ~とあって、~ならではの、~にもまして、~からして 例文作成、会話練習 NI語彙 人を見て思う感情表現語彙	あさましい めざましい 根掘り葉掘りなどの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問題宿題
10		講義∙発表	NI文法 導入文型 ~を余儀なくされる ~たりとも ~きらいがある ~あっての 例文作成会話練習 NI相手を気遣う語彙	あいにく 何気ない 独自の などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解問題宿題
11		講義∙発表	NI文法 導入文型 ~をよそに ~なりに ~ないでもない ~すら~なかった 例文作成、会話練習 NI因惑する感情の語彙 実践問題	不審な 閉口する 反発する などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解 問題宿題
12		講義•発表	NI文法 導入文型 文法〜とは(驚き)〜がはやいか 〜そばから 〜ずには おかない 例文作成、会話練習 NI時間 時期の語彙 。夏休みに向けて	適宜、時折 古参の などの語彙を使う状況を挙げ例文作成 読解問題宿題。 夏休み課題の取り組み
13		講義∙発表	振り返り。N1 試験について	夏休み課題の復習
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	3 時間外学習	反復練習を通	して身につける
【使用	教科書•教	材・参考書】		

『外国人留学生のための就活ガイド』

科目名	日本語講座(2)	必修 選択	選択	年次	1,2	· 担当教員	神田智子
		授業	実習	総時間	30	担当教員	作四百丁
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	日本国内での就職に有利なJLPTN1取得を目標とし 礎となる語彙力向上も目標とする またN1レベルのフ *講習ごとに語彙テストを行い、また「使える」語彙力 *わかりやすく導入するために例文提示と例文作成	文法や語彙の 力を前提に積	使い分けも身	につける	導入、定着を	目指す。併せて	てすべての基
到達目標	1. JLPTN1合格を目指す 2. 正しい接続詞の使い方を学び、実際に使えるよう 3. 実際に使える語彙を増やす 読める漢字を増やす						
評価方法と基準	1・前期 期末試験の得点 2・N1レベル文法の習得度総合的に評価する	隻 N1レベルi	吾彙の実践問	題 正解率 3	3・出席率 授	業態度 以上を	を基準として

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・発表	N1文法 導入文型 〜ともなると 〜もさることながら 〜に即した 〜をおいて 他にない 例文作成、会話練習 N1相手に対応する語彙	報いる 用心する 勘違い などの語彙を使う状況を挙げ、例文作成 読解問 題宿題
2		講義・発表	N1文法 導入文型 ~までもなく ~いかん ~とは言えないまでも ~といい ~といい 例文作成、会話練習 N1将来未来の語彙	果てしなく 遠からず 粘り強く などの語彙を使う状況を考え 例文作成 読解 問題宿題
3		講義・発表	N1文法 導入文型〜のをいいことに 〜にもほどがある 〜ならまだしも 〜以前の 例文作成、会話練習 N1物に働きかける語彙	活性化 正常化 目に見えて などの語彙を使う状況を挙げ 例文作成 読解 問題宿題^
4		講義・発表	NI文法 導入文型 〜たら〜たで 〜ようものなら 〜ならいざしらず 〜にこしたことはない 例文作成、会話練習 NI経済の語彙	不況 不振 盛況などの語彙を使う状況を挙げ 例文を作成 読解問題宿題
5		講義・発表	NI文法 導入文型〜とはいえ 〜といったところだ 〜に〜ない 〜にかこつけ て 例文作成、会話練習 NI仕事の語彙	打ち込んでいる 立て込んでいる 乗り切る などの語彙を使う状況を挙げ 例 文を作成 読解問題宿題
6		講義·発表	N1模擬試験問題 文法 語彙	文法例文作成 + 読解問題宿題
7		講義•発表	N1模擬試験問題 語彙 漢字	語彙例文作成 + 読解問題宿題
8		講義∙発表	N1模擬試験問題 文法 漢字	文法例文作成 + 読解問題宿題
9		講義•発表	N1試験対策	レポート提出
10		講義•発表	企業研究 調査② 好みの企業BEST 5	レポート提出
11		講義•発表	インターンシップ② プロフィールシート作成	〈課題〉資料作成
12		講義•発表	企業に入ってからのこと。OB OGに聞きたいこと。	レポート提出
13		講義・発表	1年のまとめをプレゼンテーションする。	レポート提出
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	反復練習を通	して身につける
【使用	教科書・教	材・参考書】		

『外国人留学生のための就活ガイド』

科目名	映像撮影編集(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	笠原良介
兴 弘 末七	・ 文字 - 1 .ロン * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	授業 形態			30	但当教員	立原及月
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	717 765		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、台本作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作ができるようになる(映像制作・編集) Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる(グラフィック) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる(デザイン、ロゴ) 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTube などにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、Adobe II 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オー)基本操作知	哉、理解			
評価方法と基準	制作物評価:20% 到達度テスト(実技):80% ・到達目標にあるアプ)基本操作の ⁻	チェック			

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義・演習	カスラの性類、新国ラオ くうドの性類、特性、極彩 技法(アングル、サイズ)動画の構成、演出について 学ご	学生自身が持っているスマートフォンを使用して、授業で学んだことを踏まえて自己紹介動画を作成し、次回提出 (編集やテロップなどは入れず、 失敗しても録画を止めてやり直さない)		
2		講義・演習	コンピュータに関する理解、Premiere Pro、Photoshop、 Illustratorを理解する	授業で学んだ内容を復習する		
3		講義・演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集を行ううえでのプロジェクト、環境設定、ワークスベースの習得	次週の授業から編集が始められるように復習する		
4		講義・演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 以前制作した自己紹介動画の取り込み方法、編集を行ううえでの構成、注 意事項、ショートカットキーの習得し編集を行う	復習しながら自己紹介動画の作成		
5		講義・演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 動画編集の際に必要な特殊効果、タイトル、テロップ、グラフィックの挿 入方法を学ぶ	作品を完成させて次週提出		
6		講義・演習	【Premiere Pro】基礎技術習得 オーディオの編集、エフェクトの追加、BGMの追加、 動画の書き出しにおける設定、アップロード方法の習得	作品提出、総評		
7		講義・演習	トカットキー、動画素材を元にイラスト、ロゴ、テロップの作成方法	次週の授業から作成出来るように復習、		
8		講義・演習	【illustrator】 動画素材を元にイラスト、ロゴ、の作成、Premiere Proでの 読み込み方法の習得	作品を完成させて提出		
9		講義・演習	【Photoshop】 作成する上でのプロジェクト、環境設定、ワークスペースの習得 素材を元にショートカットキーの習得	次週の授業から作成出来るように復習、		
10		講義・演習	【Photoshop】 動画素材を元に文字お越し等のテロップ作成方法の習得	作品を完成させて提出		
11		講義・演習	民生用カメラと業務用カメラの違い、標準的な撮影時のセッティング、照明、ホワイトバランスなどの撮影テクニック講座、構成、演出、明日への 扉メイキング映像撮影の企画、セクション決め	授業で学んだ内容を復習する		
12		講義・演習	到達度テスト テスト解説	迷った部分を復習する		
13		講義・演習	明日への扉メイキング映像の企画、セクション決め	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出 演者や裏方スタッフにインタビュー		
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出		
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出		
	準備学習	冒 時間外学習	授業内容について復	复習レポートを作成。		
【使用	李鵬子首 時間外子首 投来内谷について復省レハートをTF成。 【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	映像撮影編集(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	笠原良介
× 7.1 → -L		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30	担当教員	立原及月
学科•専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	加加		(年四)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	カメラの種類、特性、撮影技法について学び基本的操作が出来るようになる 映像演出、台本作成が出来るようになる Adobe Premiere Proの基本操作ができるようになる(映像制作・編集) Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる(グラフィック) Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる(デザイン、ロゴ) 学内で行われるイベントの撮影企画制作をし、撮影、編集、最終的にYouTube などにアップロードする						
到達目標	Adobe Premiere Pro、Adobe Photoshop、Adobe II 構成、台本作成、撮影機材、撮影方法、編集、オー)基本操作知	識、理解			
評価方法と基準	演習の成果(準備含め) 50% 課題の作成 50%	j					

	授業計画•内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで制作			
2		講義・演習	明日への扉メイキング映像の編集、ナレーション入れ、パッケージデザイン	イベントで撮影したものをチームで制作、各チームつなぎ合わせ次週完成させる			
3		講義・演習	明日への扉メイキング映像の編集、完成、YouTube などにアップロードする	完成 試写、総評、制作した作品に対してのディスカッション			
4		講義・演習	撮影テクニック総復習(前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて撮影技術向上、構成、演出論を学ぶ)	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集			
5		講義・演習	撮影テクニック総復習(前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて撮影技術向上、構成、演出論を学ぶ)	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集			
6		講義・演習	編集テクニック総復習(前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて編集技術向上、構成、演出論を学ぶ)	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集			
7		講義・演習	編集テクニック総復習(前回のイベント撮影の反省を活かし、次回に向けて編集技術向上、構成、演出論を学ぶ)	ドキュメンタリー番組、映画などを視聴し情報収集			
8		講義・演習	we are!TSM渋谷イベント告知CM制作企画	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー			
9		講義・演習	we are!TSM渋谷イベント告知CM制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集			
10		講義・演習	we are!TSM渋谷イベント告知CM制作、撮影、編集、完成	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー、編集、完成			
11		講義・演習	We are TSM!イベント告知CM制作、撮影、編集、完成(昨年度の素材も使用しYouTube などにアップロードする	完成 試写、総評			
12		講義・演習	we are!TSM渋谷メイキング映像の企画、セクション決め	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー			
13		講義・演習	we are!TSM渋谷メイキング映像制作、撮影、編集	各チームに分かれて、練習、稽古風景などを撮影、出演者や裏方スタッフにインタビュー			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習	授業内容について行	复習レポートを作成。			

科目名	映像制作•技術(1)	必修 選択	選択	年次	1.2.3	担当教員	笠原良介
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	但当教員	立床及月
教員の略歴						9-	
授業の学習 内容	映像表現に必要な知識・スキルを実際に制作しな	映像表現に必要な知識・スキルを実際に制作しながら学ぶ					
到達目標	映像作品を制作するうえでの企画書の作成方法、 構成、撮影方法、許可申請を学び理解を深める	ロケーション	ハンティング()	ロケハン)、			
評価方法と基準	制作物評価:20% 到達度テスト(実技):80% ・到達目標にあるアプ	['] リケーション <i>0</i>)基本操作の [:]	チェック			

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義	オリエンテーション	自己紹介、シラバスの確認、
2		講義	映像作品の企画制作とは	映像作品の企画制作に関するレポート作成
3		講義	映像作品の構成について	映像作品の構成に関するレポート作成
4		講義・演習	カットのつなぎについて	カットに関するレポート作成
5		講義・演習	カメラワーク・イマジナリーラインについて	カメラワーク・イマジナリーラインに関するレポート作成
6		講義・演習	映像制作における企画書について	企画書の作成
7		講義・演習	台本作成について	台本の作成
8		講義・演習	ロケーションハンティング(ロケハン)について	授業復習
9		講義・演習	ロケーションハンティング(ロケハン)について	全2回のロケハンに関するレポート作成
10		講義・演習	撮影許可の申請について	許可申請に関するレポート作成
11		講義・演習	ロケハン時の準備について	ロケハンに行く場所をネットで検索しあらかじめまとめておく
12		講義・演習	ロケハン	校舎内でのロケハンスポットのまとめ
13		講義・演習	まとめ	全13回分のまとめをレポート提出
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	映像制作·技術(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	笠原良介
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	講義	総時間 (単位)	90 6単位	但当教員	立床及月
教員の略歴							
授業の学習 内容	映像表現に必要な知識・スキルを実際に制作しな	映像表現に必要な知識・スキルを実際に制作しながら学ぶ					
到達目標	映像作品を制作するうえでの企画書の作成方法、 構成、撮影機材、撮影方法、編集の基本操作知語	Adobe Premi 战、理解	ere Proの使用	月法 、			
評価方法と基準	制作物評価:20% 到達度テスト(実技):80% ・到達目標にあるアプ	゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚゚		チェック			

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義	オリエンテーション	自己紹介、シラバスの確認、			
2		講義	映像表現基礎①映像表現の基本的な方法を学ぶ	レポートにて提出			
3		講義	映像表現基礎②映像表現の基本的な方法を学ぶ	レポートにて提出			
4		講義・演習	映像作品の企画書作成について①	テーマに基づき映像作品の企画書の作成			
5		講義・演習	映像作品の企画書作成について②	作成した企画書のブラッシュアップ			
6		講義・演習	作成した企画の発表	それぞれのメンバーがどのような映像作品制作するかの共有			
7		講義・演習	撮影技術について①映像を撮影する際に必要となる基本的知識を学ぶ	使用機材・撮影方法に関しての復習・事前学習			
8		講義・演習	撮影技術について②映像を撮影する際に必要となる基本的知識を学ぶ	使用機材・撮影方法に関しての復習・事前学習			
9		講義・演習	映像撮影①	企画書に基づき自身の映像作品の撮影			
10		講義・演習	映像撮影②	企画書に基づき自身の映像作品の撮影			
11		講義・演習	映像編集①Adobe premiereの基本的な使用方法を学ぶ	映像編集に関しての予習・復習			
12		講義・演習	映像編集②	撮影した映像の編集			
13		講義・演習	発表	全員で全員の作品を見た評価を行う			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
	準備学習	冒 時間外学習					

科目名	プリプロダクションゼミ(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	· 担当教員	勝守理
W 51 -		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120	担当教員	所订生
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。					
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで 能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編曲	勝ち取る作品 出能力、グル-	を作る。その〕 -プワークの身	過程の中で今 ミ践力、コミュ・	の音楽業界で ニケーション旬	『本当に必要と 能力、などを身	される制作 につける。
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未持	是出)+夏休み	課題提出の台	計点			

			授業計画・内容			
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)		
1		講義∙演習	授業内容ガイダンス、第1クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業		
2		講義∙演習	第1クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業		
3		講義∙演習	第1クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業		
4		講義·演習	第1クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業		
5		講義∙演習	第1クールコンペ、第2クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業		
6		講義·演習	第2クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業		
7		講義∙演習	第2クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業		
8		講義∙演習	第2クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業		
9		講義∙演習	第2クールコンペ、第3クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業		
10		講義∙演習	第3クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業		
11		講義∙演習	第3クール実習2	コンペに向けて録音、ミックス、マスタリング作業		
12		講義∙演習	第3クールコンペ、夏休み課題発注、チーム分け	夏休み課題制作		
13		講義∙演習	夏休み課題発表	作品の管理とまとめ		
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出		
	準備学習	時間外学習		取り組む		
【使	【使用教科書・教材・参考書】					

科目名	プリプロダクションゼミ(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	勝守理
¥4.7.1 → =L		授業 形態	演習	総時間 (単位)	120	担当教員	份寸垤
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	No iss		(辛匹)	8単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人	実際にクライアントさんから発注を頂いた案件を少人数のグループを組み試行錯誤しながら政策を進めていき作品を完成させる。					
到達目標	発注を頂いたクライアントさんからの採用をコンペで 能力、プロデュース能力、作曲能力、作詞能力、編品						
評価方法と基準	3回のコンペの成績(優勝、準優勝、佳作、提出、未	提出)+春休み	課題提出の台	点情合			

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	第4クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
2		講義・演習	第4クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
3		講義・演習	第4クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
4		講義・演習	第4クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
5		講義・演習	第4クールコンペ、第5クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
6		講義・演習	第5クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
7		講義・演習	第5クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
8		講義・演習	第5クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
9		講義・演習	第5クールコンペ、第6クール課題発注、チーム分け	実習1に向けて作曲作業
10		講義・演習	第6クール実習1	実習2に向けて作詞、編曲作業
11		講義・演習	第6クール実習2	実習3に向けて録音、編集作業
12		講義・演習	第6クール実習3	コンペに向けてミックス、マスタリング作業
13		講義・演習	第6クールコンペ、春休み課題発注、チーム分け	作品の管理とまとめ
14	_	講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	· 時間外学習	各課題	題に取り組む

科目名	アレンジング with Sibelius(1)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	大貫和紀
		授業	演習	総時間	30	担当教員	人貝和和
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形態		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱 却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。	Sibeliusの使い方を理解し入力ができるようにする。管楽器の特性を理解して2管のアレンジができるようになる。					
評価方法と基準	1) 定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	リードシートの作成方法について	リードシートの作成方法について 振り返りと自習。
2		講義·演習	リードシートの作成の演習	リードシートの作成の演習 振り返りと自習。
3		講義∙演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成について 振り返りと自習。
4		講義∙演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習	リードシート+ピアノ伴奏譜の作成の演習 振り返りと自習。
5		講義•演習	リズム譜の作成	リズム譜の作成 振り返りと自習。
6		講義∙演習	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成	リードシート+ピアノ+リズム譜を作成 振り返りと自習。
7		講義∙演習	ギター譜を作成について	ギター譜を作成について 振り返りと自習。
8		講義·演習	ギター譜を作成の演習	ギター譜を作成の演習 振り返りと自習。
9		講義·演習	イントロを作成について	イントロを作成について 振り返りと自習。
10		講義∙演習	アウトロを作成について	アウトロを作成について 振り返りと自習。
11		講義∙演習	管楽器のレンジとトランスポーズ	管楽器のレンジとトランスポーズ 振り返りと自習。
12		講義∙演習	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ	ユニゾンとガイドトーンのアレンジ 振り返りと自習。
13		試験	前期のアレンジ課題の提出	課題に取り組み期限内に提出
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義•演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	時間外学習		振り返りと自習

科目名	アレンジング with Sibelius(2)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	大貫和紀
W = 1 - 1		授業 形態	演習	総時間 (単位)	30	担当教員	八貝和北
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	沙思		(単位)	2単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	楽譜制作ソフトの定番であるSibeliusの使い方をマスターするとともに、アレンジを構築する際にDAWで音を探しながら行う方法から脱 却し頭の中のイメージから構築する方法を習得する						
到達目標	Sibeliusの使い方を理解し、管楽器の特性を理解して	€5管+ストリン	グスのアレン	ジができるよ う	らになる。		
評価方法と基準	1)定期テスト(実技試験:100%)						

			授業計画・内容		
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義∙演習	インストゥルメンテーションを理解する。	インストゥルメンテーションを理解する。 振り返りと自習。	
2		講義∙演習	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ	管弦楽器によるSolo Unisonのアレンジ 振り返りと自習。	
3		講義∙演習	2part Soliの構築が出来る様になる。	2part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。	
4		講義∙演習	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築	4way close Drop2 Drop3 Drop2+4のVoicingの構築振り返りと自習。	
5		講義∙演習	4part Soliの構築が出来る様になる。	4part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。	
6		講義∙演習	3part Soliの構築が出来る様になる。	3part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。	
7		講義∙演習	5part Soliの構築が出来る様になる。	5part Soliの構築が出来る様になる。 振り返りと自習。	
8		講義∙演習	Spread voicingとアプローチノート	Spread voicingとアプローチノート 振り返りと自習。	
9		講義∙演習	Guide Tone backing	Guide Tone backing 振り返りと自習。	
10		講義∙演習	Inner voicing embellisment	Inner voicing embellisment 振り返りと自習。	
11		講義∙演習	5管と弦を含むアレンジ1	5管と弦を含むアレンジ1 振り返りと自習。	
12		講義∙演習	5管と弦を含むアレンジ2	5管と弦を含むアレンジ2 振り返りと自習。	
13		試験	後期アレンジ課題提出	課題に取り組み期限内に提出	
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
	準備学習	時間外学習	振り返	りと自習	
【使	【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(1)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	藤井丈司
₩ 7.1 → =L		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90	担当教員	際开入り
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	ル忠		(単位)	6単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「セルフプロデュース」は、年間6回の発表の日と、「J-POPの歴史」「DTM基礎」を2~3限の中で1コマずつ授業を行う日に分かれます。 発表日には、オリジナル楽曲(作詞/作曲/アレンジ/歌入れ/ミックス)を提出します。 提出した楽曲を、学生が聞いて採点、その集計結果は授業グループのLINEで発表します。						
到達目標	「プリプロ」のようにクライアントからのOKではなく、同これが、この授業の目的です。制作は個人でも、チー						
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

			授業計画・内容		
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)	
1		講義	オリエン	レポート提出	
2		講義	60年代のJ-POP	レポート提出	
3		講義	吉田拓郎と井上陽水	レポート提出	
4		講義	はっぴいえんどと日本語のロック	レポート提出	
5		講義	荒井由美とニューミュージック	制作準備	
6		演習	制作日	発表準備	
7		発表/テスト	発表1	レポート提出	
8		講義	細野晴臣と大瀧詠一	レポート提出	
9		講義	山下達郎	レポート提出	
10		講義	サザンオールスターズ	制作準備	
11		演習	制作日	発表準備	
12		発表/テスト	発表2	発表準備	
13		発表/テスト	発表3	レポート提出	
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出	
	準備学習	時間外学習	振り返り	りと自習	
【使	【使用教科書・教材・参考書】				

科目名	セルフプロデュース(2)	必修 選択	選択	年次	2,3	担当教員	藤井丈司
W 51 -		授業 形態	演習	総時間 (単位)	90	但当教员	膝开关可
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	形忠		(単位)	6単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	「DTM」は主にシンセ、サンプラー、ブレイクビーツ、フ	プラグインエフ	ェクト、オート.	メーションなど	を学ぶ授業で	₹र्च 。	
到達目標	空間的な音作りができること/かっこいいリズムトラ	ックが作れる。	, この二つが[目標です。			
評価方法と基準	出席/平常点 20% 課題 40%(演習) テスト 40%(楽曲/ペーパーテスト)						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	制作日	発表準備			
2		発表/テスト	発表4	レポート提出			
3		講義	アルペジオ	レポート提出			
4		講義	プラグインエフェクト/オートメーション	レポート提出			
5		講義	プラグインエフェクト/オートメーション2	制作準備			
6		演習	制作日	発表準備			
7		発表/テスト	発表5	レポート提出			
8		講義	90年代ロック	レポート提出			
9		講義	オーディオスライス	レポート提出			
10		講義	ボーカルシンセ	制作準備			
11		講義	テスト2	テスト			
12		演習	制作日	発表準備			
13		発表/テスト	発表6	レポート提出			
14		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義∙演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
準備学習 時間外学習 振り返りと自習							

科目名	Private lesson(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	小林 幸恵
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	大貫和紀
教員の略歴							
授業の学習 内容	ミュージシャン、アーティストにとって必要不可欠な音階を学び、ソロアプローチ法やそのテクニックを学ぶ。						
到達目標	メジャースケールの5パターン、メジャーペンタトニッ なる。	クスケールの	5パターン、タ	・ イヤトニックフ	アルペジオのイ	吏い方、ソロ奏	法ができるように
評価方法と基準	実技による採点:100%						

			授業計画•内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	メジャー・スケールのハーモニーを理解する。	メジャー・スケールのハーモニーの復習を行い実演する。
2		演習	1、3、5度のコード・トーンからスケールを始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法 の復習を行い実演する。
3		演習	メジャー・スケールパターン・トライアド・アルペジオ使い方を 理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン4のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
4		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
5		演習	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方 を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン2のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
6		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
7		演習	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオの使い 方を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン1のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
8		演習	1、3、5度のコード・トーンから始める方法を理解し実演できる。	1、3、5度のコード・トーンから始める方法の復習を行い実演する。
9		演習	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方 を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン3のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
10		演習	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方 を理解し実演できる。	メジャー・スケールパターン5のトライアド・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
11		演習		メジャー、マイナー、ディミニッシュ、sus4、オーギゥメントアルペジオ 使い方の復習を行い実演する。
12		演習		メジャー・スケールパターン4の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
13		演習		メジャー・スケールパターン2の7th・アルペジオ使い方の復習を行い実演する。
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習	各スケール練習、コードワーク	復習を1日1時間を基本に繰り返す。

科目名	Private lesson(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	小林 幸恵 大貫和紀
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 2単位	但当教員	
教員の略歴			<u> </u>			•	
授業の学習 内容	アンサンブルコミュニケーション力と、インスト楽曲での各楽器の演奏パリエーションを学ぶ。						
到達目標	ミュージシャンにとって必要な読譜力を学び、様々な	こスタイルの楽	き曲を様々なキ	で演奏する	5.		
評価方法と基準	実技による採点:100%						

			授業計画・内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	譜面の読み方、パート作りを行い書く写すことができる。	譜面の読み方、パート作りを行い書く写し譜面作成する。
2		演習	ブルースのコード進行の理解し演奏できる。	ブルースのコード進行の復習をし演奏を録音する。
3		演習	パートのバリエーションとソロの応用を行い実演する。	パートのパリエーションとソロの応用を復習をし演奏を録音する。
4		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解し12小節、8ビートブルースの演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
5		演習	ブルースのシャッフルスタイルの理解しブルースのシャッフルスタイル 曲の演奏する。	ブルースのシャッフルスタイルの復習をし演奏を録音する。
6		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解しブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
7		演習	8小節ブルース+ブリッジの理解し、ブルースのシャッフルスタイル曲の演奏する。	8小節ブルース+ブリッジ復習をし演奏を録音する。
8		演習	シンコペーションと分数コードの理解しブルース+ブリッジ構成曲の演 奏する。	シンコペーションと分数コードの復習をし演奏を録音する。
9		演習	シンコペーションと分数コードの理解しシンコペーションと分数コード 曲の演奏する。	シンコペーションと分数コードの理解をし復習をし演奏を録音する。
10		演習	シンコペーションと分数コードを理解しシンコペーションと分数コード 曲の演奏。	シンコペーションと分数コードを理解し復習をし演奏を録音する。
11		演習	シンコペーション、分数コードの理解しロックスタイルのシンコペー ションと分数コード曲の演奏する。	シンコペーション、分数コードの理解し復習をし演奏を録音する。
12		演習	レゲエスタイルの理解とロックスタイルのシンコペーションと分数コード曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
13		演習	レゲエスタイルの理解しレゲエスタイル曲の演奏する。	レゲエスタイルの理解復習をし演奏を録音する。
14	_	講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	3 時間外学習	各スケール練習、コードワーク	復習を1日1時間を基本に繰り返す。

科目名	Gospel Ensemble(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	担当教員	池末信
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	心不信
教員の略歴	日本///マーン 竹で下町 連門師				77 12		
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グルーブ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」 それらを体感し信じれること。						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

			授業計画•内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		講義・演習	説明、NLPワーク、新曲2曲レクチャー	課題曲予習
2		講義・演習	メディテーションワーク、2曲復習、新曲1曲	楽曲復習、学びの振り返り
3		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、1曲パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り
4		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
5		講義・演習	楽曲復習、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
6		講義・演習	3曲新曲、選択理論ワーク	楽曲復習、学びの振り返り
7		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
8		講義・演習	3曲復習、新曲1曲、クラス内パフォーマンス	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習
9		講義・演習	プレイフルワーク、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り
10		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
11		講義・演習	楽曲復習、新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
12		講義・演習	楽曲復習、ケィティワーク	楽曲復習、学びの振り返り
13		講義・演習	新曲レクチャー	楽曲復習、学びの振り返り
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出
	準備学習	冒 時間外学習		

科目名	Gospel Ensemble(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3	· 担当教員	池末信
24 TA - 7		授業 形態	演習	総時間 (単位)	60		767114
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	112 iSS		(平位)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	世界を代表するミュージシャンの多くが基盤に置く、ニグロスピリチュアル(黒人霊歌)のコンテンポラリーゴスペル(近代的なゴスペル)を中心に、オーセンティック(本格的)なゴスペルのサウンドを作る為の声、歌、グルーブ、リズム、パフォーマンス、表現、心その全てからグローバル基準で学ぶ。また、選択理論、NLP(神経言語プログラミング)、プレイフルラーニング・シンキング、GRIT、メディテーションなどのワークを実践し、学ぶ上での精神衛生を整えること、学ぶ上での環境を全員でデザインすること、仲間を思いやり相乗効果を高める最大のWIN-WINを仲間との関係に産むこと、ワクワクすることなどを学び得る。						
到達目標	「上記学習内容が自分にとってプラスに働く」「上記内容が自分自身を自由にさせる」「この学びの先に本物になれる」 それらを体感し信じれること。						
評価方法と基準	筆記又は実技テストによる採点						

	授業計画•内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		講義・演習	選択理論ワーク、新曲3曲レクチャー	前期の振り返り			
2		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り			
3		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習			
4		講義・演習	新曲2曲レクチャー、パフォーマンスレクチャー	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習			
5		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り			
6		講義・演習	ケイティワーク、2曲新曲	楽曲復習、学びの振り返り、動き復習			
7		講義・演習	楽曲復習、動き復習	楽曲復習、学びの振り返り			
8		講義・演習	楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り			
9		講義・演習	新曲2曲レクチャー、楽曲復習	楽曲復習、学びの振り返り			
10		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り			
11		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り			
12		講義・演習	We Areリハーサル演習	楽曲復習、学びの振り返り			
13		講義・演習	総復習	楽曲復習、学びの振り返り			
14		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
15		講義・演習	実習・イベントを通して学ぶ	レポート提出			
	準備学習	B 時間外学習					

科目名	イベント制作運営演習(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3,4	担当教員	唐澤淳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	1 担当教員	冶净净
教員の略歴						-	
授業の学習 内容	江戸川文化センターで行われる骨髄移植推進キャイベントスタッフとして必要な運営・制作の知識を実践で行うことにより、舞台を創る流れや細かな段	実践的に学ぶ	0				
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出 30% 「明日への扉」に関しての積極的な発言や態度。 それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うし			. スタッフのー	員として成りュ	立っているか。	

			授業計画·内容	
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1		演習	「明日への扉」の内容について触れ、本公 演を開催する意義を理解する	骨髄移植を推進するプロモーションをレポート用紙にて提出する
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出
4		演習	その他のセクション(PA・照明・舞台・衣装管理・メイク)の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用 する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営:公演概要と運営方法を学ぶ 制作:稽 古スケジュールを基に稽古期間の流れや段取りを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
7		演習	運営:チケット発売方法と管理方法を学ぶ 制作:台本の使い方を学ぶ・稽古会場の仕込みを学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
8		演習	運営:協賛の必要性を学び協力をお願いする 制作: 制作スケジュールの作成・各セクション香盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
9		演習	運営:ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作:ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
10		演習	運営:運営方法を学びマニュアルを作成する 制作:搬入・搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
11		演習	運営:運営マニュアル読み合わせ 制作:各セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働し、レポートを提出
12		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各 セクションについての当日の流れを学ぶ)	実践的に各セクションに取り組む
13		演習	「明日への扉」運営・制作スタッフとして公演を成功させる (実践的に各セクションについての当日の流れを学ぶ)	実践的に各セクションに取り組む
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出
		計 会会表	各課題に向けて自主的に取り約	目む。次回の授業時に確認する。

昨年度「明日への扉」公演マニュアル・概要書・終了報告書・今年度「明日への扉」台本

科目名	イベント制作運営演習(2)	必修 選択			1,2,3,4	,2,3,4 ———担当教員	唐澤淳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	店净净
教員の略歴			•		•		•
授業の学習 内容	必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。	卒業・進級制作展weareTSM!TSM渋谷!DA TOKYO!の公演を教材にイベントスタッフとして 必要な運営・制作の知識を実践的に学ぶ。 実践で行うことにより、コンサートを創る流れや細かな段取りを学びながら業界に必要な人材として成長していく。					
到達目標	運営・制作の流れが理解出来る。 公演の際にスタッフの一員として参加出来る。						
評価方法と基準	授業の中でのレポート提出 30% 「卒業・進級制作展weareTSM!TSM渋谷!DA TOKYO!」に関しての積極的な発言や態度。関わりや、本番日の行動力、 スタッフの一員として成り立っているか。 それぞれに与えられた担当のなかで仕事を全うしているかを評価 70%					ስ 力、	

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	卒業・進級制作展の内容について触れ、本公演 を開催する意義を理解する	コンセプトの元公演演出の考案レポートを提出				
2		演習	運営のセクションの流れと段取りを学ぶ	運営とはどのような役割かをレポートにまとめ提出				
3		演習	制作のセクションの流れと段取りを学ぶ	制作とはどのような役割かをレポートにまとめ提出				
4		演習	その他のセクション(PA・照明・舞台・衣 装管理・メイク)の流れと段取りを学ぶ	昨年のマニュアルを参考に関わり時期を調べておく				
5		演習	運営スタッフ・制作スタッフ共通して使用 する機材や備品の使い方について学ぶ	昨年のマニュアルを参考に実際に使用していた時期を調べておく				
6		演習	各希望セクションに分かれ、運営:公演概要とコンセプト内容を学ぶ 制作:公演の流れを理解し稽古スケジュールを組む	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
7		演習	運営:座席管理方法を学ぶ 制作:公演演出の 流れを理解し機材の管理を行う	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
8		演習	運営:運営マニュアルの作成方法を学び作成する 制作:制作スケジュールの作成・各セクション番盤表を作成	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
9		演習	運営:ホールRHに伴う会場下見、必要備品の準備・調達 制作:ホールRHに伴う会場下見・使用会場の申請・楽屋振り分け	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
10		演習	運営:運営方法を学び作成する 制作:搬入・ 搬出方法を学ぶ・機材管理を学ぶ	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
11		演習	運営:運営マニュアルの読み合わせ 制作:各 セクションへの伝達事項を学び実践する	授業外でも各スケジュールに合わせて稼働する				
12		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
13		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
14		実習	運営・制作共に終了報告書の作成方法を学び、作成する	授業に引き続き作成し提出				
15		実習	各セクションごとに終了報告会を開催する	実践的に各セクションに取り組む				
	準備学習	冒 時間外学習	各課題に向けて自主的に取り組	む。次回の授業時に確認する。				

昨年度「卒業・進級制作展weareTSM!TSM渋谷!DA TOKYO!」公演マニュアル・概要書・終了報告書

科目名	チーム制作プロジェクトA(1)	必修 選択	選択	年次	1,2,3,4	· 担当教員	岡秀樹
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	叫为他
教員の略歴						<u> </u>	
授業の学習 内容	企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、 企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。 即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。					
到達目標	イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こ 運営では「進行を管理することができ、安心・安全	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。 イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、 運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは 「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを 提案し実行」することを目標とする。					
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

	授業計画・内容								
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)					
1		演習	新年度オリエンテーションの実施 (アイスブレイク、ブレインストーミング、映像鑑賞を終えての討論)	クラスでのコミュニケーションの振り返り					
2		演習	コンサートの企画・制作・運営の考え方を学び、2年 生が運営・制作を行う新入生歓迎ライブを見学する。	新入生歓迎ライブ出演者プロフィール把握、ステージセット把握					
3		演習	エンターティメント施設取材(1)(企画書作成/渋 谷施設調ベ/アポどりシミュレーション)	渋谷にあるエンターテインメント施設を調べる					
4		演習	エンターティメント施設取材(2)(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション)	希望する取材場所の施設の研究					
5		演習	エンターティメント施設取材(3)(取材内容、取材 方法を検討)	各自インタビュー記事の研究					
6		演習	####################################	発表パワーポイント・発表進行表の作成					
7		演習	エンダーティメント施設取材(5)(プレゼンテー ション実施/報告書の作成)	班員にて発表シミュレーション					
8		演習	企業プロジェクト(1)(プロジェクト内容の説明・ 企業を紹介・担当者自己紹介)	エンターティメント取材報告書完成・提出					
9		演習	企業プロジェクト(2)(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	企業研究(歴史、理念、業務内容)					
10		演習	企業プロジェクト(3)(プロジェクト企画書: プロ モーションプランの作成)	ディスカッションした内容を元に企画書・プロモーションリスト作成					
11		演習	企業プロジェクト(4)(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	プロモーションスケジュール作成、運営マニュアルラフ作成					
12		演習	企業プロジェクト(5)的 ベント当日の運営・制作 を実践 _個	運営マニュアルの読み合わせ					
13		演習	企業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ					
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出					
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出					
	準備学習	冒 時間外学習	各イベントや課題に向けて自主的に	こ取り組む。次回の授業時に確認。					

科目名	チーム制作プロジェクトA(2)	選択		年次	1,2,3,4	担当教員	岡秀樹
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	叫方倒
教員の略歴							
授業の学習 内容		企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、 アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。					
到達目標		企業プロジェクトでは動員や収益など内容だけでなく収支にも着目し、 数字をクリアするための方法論を検討し実践する。					
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにで評価 40% 収支を測る方法論を理解し、現場での実行力を評価 40%						

	授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	企業プロジェクト①(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。				
2		演習	企業プロジェクト②(プロジェクト企画書/プロモーションブランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。				
3		演習	企業プロジェクト③(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。(図面、セット図、セットリストなど)				
4		演習	企業プロジェクト④(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み各メンバーで打ち合わせ				
5		演習	企業プロジェクト⑤(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。				
6		演習	自主企画①(班分け/アイディアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。				
7		演習	自主企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。				
8		演習	自主企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。				
9		演習	自主企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷業者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セットリストなど)				
10		演習	自主企画(⑤)(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。				
11		演習	自主企画⑥(運営シミュレーション)®	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。				
12		演習	自主企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み各メンバーで打ち合わせ				
13		演習	自主企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信				
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
		冒 時間外学習	各イベントや課題に向けて自主的に	こ取り組む。次回の授業時に確認。				

科目名	チーム制作プロジェクトB(1)	必修 選択	選択 選択 授業 演習		1,2,3,4	□担当教員	唐濹淳
光	ᅕᅉᆖᄼᇧᅘᅟᆋᇬᄼᄼᄟᅟᄝᄜᅘ	授業 形態			60	12.3.数页	冶样子
学科・専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	712 123		(単位)	4単位		
教員の略歴							
授業の学習 内容	企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制	エンターティメントの発信地である「渋谷」を拠点に活動しているライブハウスや音楽施設を知り、 企業とプロジェクトを組み、生きたイベント企画・制作・運営・プロモーションを学ぶ。 即戦力になる人材育成に向け実践力を身につける。					
到達目標	イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こ 運営では「進行を管理することができ、安心・安全	精度の高い企画書、実施要項、運営マニュアル、プロモーションプランを学生主体で作成できるようにする。 イベント企画では、「独創的な企画を提案できる」こと、制作では「人・もの・お金・時間を管理」できること、 運営では「進行を管理することができ、安心・安全な運営を円滑に行う」ことができること、プロモーションでは 「既成概念に捉われること無く、自分たちに何ができるかを徹底的に追求し、時代に沿ったプロモーションを 提案し実行」することを目標とする。					
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% メール等のレスポンスの速さ、丁寧さ、プロモーション実行具合を評価30%						

日程 授業形態 学習内容 準備学習 時間外学習(学習課 演習 新年度オリエンテーションの実施 アイスブレイク、プレインストーミング、映像鑑賞を終えての討論 クラスでのコミュニケーションの振 フンサートの企画・制作・運営の考え方を学び、2年 生が運営・制作を行う新入生歓迎ライブを見学する。	授業計画・内容							
1	!題)							
2 演習	り返り							
3 演習 谷施設調ベ/アポどりシミュレーション) 液谷にあるエンターティメント施設 4 演習 エンターティメント施設取材(2)(アポどり/電話・メール・名刺交換シミュレーション) 希望する取材場所の施設の研究 5 演習 エンターティメント施設取材(3)(取材内容、取材方法を検討) 各自インタビュー記事の研究 6 演習 備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレー発表パワーポイント・発表進行表の 7 演習 エンターティメント施設取材(5)(プレゼンテーション実施/報告書の作成) 班員にて発表シミュレーション 8 演習 企業プロジェクト(1)(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介) エンターティメント取材報告書完成	セット把握							
4 演習 話・メール・名刺交換シミュレーション) 布望する取材場所の施設の研究 5 演習 エンターティメント施設取材(3)(取材内容、取材方法を検討) 各自インタビュー記事の研究 6 演習 備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレー 発表パワーポイント・発表進行表の 7 演習 エンターティメント施設取材(5)(ブレゼンテーション実施/報告書の作成) 班員にて発表シミュレーション 8 演習 企業プロジェクト(1)(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介) エンターティメント取材報告書完成 6 企業プロジェクト(2)(企業理会理解/ディスカックを業プロジェクト(2)(企業理会理解/ディスカック エンターティメント取材報告書完成	を調べる							
方法を検討) 合自インダビュー記事の研究 6 演習 備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレー 発表パワーポイント・発表進行表の 7 演習 エンターティメント施設取材(5)(ブレゼンテーション実施/報告書の作成) 班員にて発表シミュレーション 8 演習 企業プロジェクト(1)(プロジェクト内容の説明・企業を紹介・担当者自己紹介) エンターティメント取材報告書完成 6 企業プロジェクト(2)(企業理会理解/ディスカップ								
6 演習 備/パワーポイント作成/進行表作成/発表シミュレー 発表パワーポイント・発表進行表の								
7	作成							
8								
☆ 日本	,提出							
9 演習 演習 はまずしてよりでは、企業はは、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般								
10	リスト作成							
11 演習 企業プロジェクト(4)(プロモーションの実践/運 プロモーションスケジュール作成、運営マニュア 営マニュアルの作成)	ルラフ作成							
12								
13 定業プロジェクト⑥(全体報告会/報告書の作成) 報告会で発表する内容まとめ								
14 実習 イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ レポート提出								
15 実習 イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ レポート提出								
準備学習 時間外学習 各イベントや課題に向けて自主的に取り組む。次回の授業時に確認。								

科目名	チーム制作プロジェクトB(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3,4	担当教員	唐澤淳
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	后伴仔
教員の略歴						<u> </u>	
授業の学習 内容		企業とプロジェクトを組み、イベント企画・制作・運営・プロモーションを、 アクティブラーニングによる主体的な学びをゼミ方式で実践する。					
到達目標	企業プロジェクトでは動員や収益など内容だけでた数字をクリアするための方法論を検討し実践する		f目し、				
評価方法と基準	授業内での積極的な発言や態度、プレゼンテーションの出来具合を評価 30% イベント本番日の行動力、企画制作、運営の技術、知識を振り返りシートにて評価 40% 収支を測る方法論を理解し、現場での実行力を評価 40%						

	授業計画•内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	企業プロジェクト①(企業理念理解/ディスカッション/スケジュール作成)	前年度のプロジェクト内容を把握し資料として提出する。				
2		演習	企業プロジェクト②(プロジェクト企画書/プロモーションブランの作成)	企画書作成に必要な情報集め(アーティスト情報、アー写など)、SNS配信予定表を提出する。				
3		演習	企業プロジェクト③(プロモーションの実践/運営マニュアルの作成)	運営マニュアルに必要な情報を提出する。(図面、セット図、セットリストなど)				
4		演習	企業プロジェクト④(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み各メンバーで打ち合わせ				
5		演習	企業プロジェクト(5)(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ提出。企業への御礼文送信。				
6		演習	自主企画①(班分け/アイディアフラッシュ)	A4 1枚に提案したいイベント内容をまとめて提出。				
7		演習	自主企画②(コンセプト決め/企画書作成)	A4 で出演者向けに企画書を作成し提出。				
8		演習	自主企画③(ブッキング/実施要綱/プロモーションプラン作成)	ブッキング用メール文の作成。プロモーション先リストを作成する。				
9		演習	自主企画④(プロモーションツール/運営マニュアル作成)	印刷集者・グッズ製作会社調べ、運営マニュアルに必要な情報を集める(図面、セット図、セットリストなど)				
10		演習	自主企画(⑤)(顔合わせ兼打ち合わせ)	各セクション問題無く進められるように懸念点や疑問点を洗い出しておく。				
11		演習	自主企画⑥(運営シミュレーション)®	備品が揃っているか確認し、足りないものは購入する。				
12		演習	自主企画⑦(イベント当日の運営)	運営マニュアル読み込み各メンバーで打ち合わせ				
13		演習	自主企画⑧(全体報告会/報告書の作成)	報告会で発表する内容まとめ、御礼文送信				
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
	準備学習	冒 時間外学習	各イベントや課題に向けて自主的に	こ取り組む。次回の授業時に確認。				

科目名	チーム制作プロジェクトC(1)	必修 選択 選択		年次	1,2,3,4	· 担当教員	大島直子
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	但当教員	八岛但」
教員の略歴						-	
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時における様々な事象の対応力を 習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験 (評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出 (評価割合 60%)						

	授業計画·内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)				
1		演習	プロジェクトの進め方の概要説明	プロフィールシートの作成				
2		演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	打合せ準備資料の作成				
3		演習	ライブイベント実施[CIVILIAN]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
4		演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
5		演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]1st・[QUEENS]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
6		演習	ライブイベントを記録する(映像収録とWEB)の制作を学ぶ	ライブ映像の編集処理				
7		演習	各ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	運営マニュアルの作成				
8		演習	各ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
9		演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]1st現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
10		演習	ライブイベント実施[QUEENS]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
11		演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
12		演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]2nd現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入				
13		演習	ライブイベント実施[Pro Musician FES!]現場での動きを学ぶ	運営マニュアルの作成・読み合わせ				
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出				
	準備学習	冒 時間外学習						

科目名	チーム制作プロジェクトC(2)	必修 選択	選択	年次	1,2,3,4	担当教員	大島直子
学科·専攻	音楽テクノロジー科3年制 昼間部一	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 4単位	担当教員	八岛但丁
教員の略歴	日来ノソノロン一行3牛削・佐田卯一・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
授業の学習 内容	[1] ライブイベントの企画制作についての基礎知識を学習する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要な業務を体験学習する						
到達目標	[1] ライブイベントの企画制作を依頼されても対応できる基礎知識を習得する [2] ライブイベントの実施開催を通じて、イベント(コンサート/ライブ他)企画の実施時における様々な事象の対応力を 習得する [3] 企業とライブイベントの実施準備協業を通じて、イベント制作者としての必要なレベルの実務力を習得する						
評価方法と基準	[1] 定期試験 ※筆記試験(評価割合 40%) [2] 受講態度 ※課題提出(評価割合 60%)						

	授業計画・内容						
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1		演習	活動方針設定会議の概要を学ぶ	会議資料準備			
2		演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)を学ぶ	打合せ準備資料の作成			
3		演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション			
4		演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入			
5		演習	ライブイベント実施[Aoyama Project]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入			
6		演習	ライブイベント実施に向けて(打合せ)]を学ぶ	ライブ映像の編集処理			
7		演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ学ぶ	運営マニュアルの作成			
8		演習	ライブイベント実施[QUEENS]]現場での動きを学ぶ	イベント実施打合せ・イベント後の終了報告書記入			
9		演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	イベント実施打合せ・プロモーション			
10		演習	ライブイベント実施[SUN MUSIC GET LIVE]]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入			
11		演習	ライブイベント実施[Chuning Candy]現場での動きを学ぶ	イベント後の終了報告書記入			
12		演習	ライブイベントの内容企画を学ぶ	企画書の作成・イベント企画打合せ			
13		演習	ライブイベントの告知と準備を学ぶ	運営マニュアルの作成			
14		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
15		実習	イベント・実戦を通して、達成感やチームワークを学ぶ	レポート提出			
準備学習 時間外学習							